IP 電話機能付き ADSL モデム
取扱説明書

（svoice SSI-11 ユーザ用）

第２版

SAMSUNG CORPORATION

ご使用の前に 8
1-1. パッケージ内容のご確認 8
1-2. ADSL サービス契約内容のご確認 9
1-3. IP 電話サービス契約内容のご確認 9
1-4. その他のご確認 9
第2章 パソコン側の設定準備 10
2-1. 設定される前のご準備 10
2-2. LAN カードの取り付けのご準備 10
2-3. 推奨 OS と推奨 Web ブラウザ 11
2-4. ネットワーク設定のご準備 12
2-4-1. Windows®の場合 12
2-4-2. Macintosh の場合 17
第3章 IP 電話機能付き ADSL モデムの設定 19
3-1. SSI-11 の縦置きスタンド設置方法 19
3-2. IP 電話機能付き ADSL モデムの接続方法 20
3-2-1. IP 電話機能付き ADSL モデム接続にあたってのご注意 20
3-2-2. 機器との接続 21
3-2-3. 機器との接続確認 22
3-3. IP 電話機能付き ADSL モデム機能の設定方法 25
3-3-1. IP アドレスの確認 25
3-3-2. IP 電話機能付き ADSL モデムの Web 管理画面へのアクセス 29
3-3-3. IP 電話機能付き ADSL モデムの基本設定 31
(1). PPPoE モード接続で動作させるとき 31
参考: PPP のセッション状態のメッセージ表示 33
(2). ブリッジモード接続で動作させるとき 34
第4章 画面詳細(ADSL 系) 38
4-1. 基本設定 38
4-2. 詳細設定 39
4-3. 設定一覧 40
4-4. ADSL 回線状態一覧 41
4-5. キャリアチャート 42
4-6. OAM ループバック試験 43

第5章　画面詳細(IP 電話系) 44

5-1. IP 電話の基本設定 44
(1). IP 電話機能の設定を始める前に 44
(2). IP 電話機能の設定方法 44
(3). 接続情報の確認 46
(4). ADS 機能の LED ランプ動作 47
5-2. IP 電話機能の操作 48
(1). 電話のかけ方 48
(2). 電話の受け方 49
(3). IP 電話通話と一般電話通話について 49
(4). IP 電話通話と一般電話通話との区別 50
(5). 通話種類について 51
(6). 通話中の電話着信について 51
5-3. IP 電話機能のその他の設定画面 55
(1). ADC 受信情報 55
(2). 電話詳細設定 57
(3) 一般電話接続テーブル 59

第 6 章　ADS 機能 60

6-1. ADS 機能について 60
6-2. ADS 機能の設定 61
6-3. ADS 機能の動作状態表示 62

第 7 章　画面詳細(IP 系) 63

7-1. Ethernet 側 IP 設定 64
7-2. Ethernet コンフィグレーション 66
7-3. ルーティング設定(LAN 側) 67
7-4. Proxy DNS 設定 70
7-5. DHCP サーバ設定 72
7-6. DHCP IP アドレス割当一覧 74
7-7. IP マスカレード設定 75
7-8. DMZ の設定 76
7-9. スタティック IP マスカレード設定 77
7-10. IP マスカレードパススルー設定 80
7-11. IP マスカレードタイマ設定 81
7-12. UPnP 設定 82
7-13. TOS 設定情報 83

7-14. MAC フィルタリング設定 84

第 8 章 IP 電話機能付き ADSL モデムの保守 85

8-1. ユーザ名とパスワードの変更 85
8-2. ファームウェアアップデート 86
8-3. 工場出荷時設定 90
8-4. 再起動 96

第 9 章 トラブルシューティング 98

9-1. 本装置設定のトラブル 98
9-2. ADSL 接続に関するトラブル 99
9-3. 本装置動作時に関するトラブル 101
9-4. IP 電話に関するトラブル 102
9-5. メンテナンスに関するトラブル 104

第 10 章 付録－ブリッジモードの設定 105

10-1. IP 電話機能付き ADSL モデムの設定変更 105
(1). パソコンのネットワーク設定のご準備 105
(2). IP 電話機能付き ADSL モデムの設定をブリッジモードに変更 110
(3). IP 電話機能付き ADSL モデムの設定をルータモードに戻す方法 114
10-2. OS 別の PPPoE クライアントの設定 116
10-3. ブリッジモードに関するトラブルシューティング 125

安全上のご注意

この「取扱説明書」では、使用者および周辺の方々や財産に損害を与えないための警告表示をしています。警告表示は、警告レベルの記号と警告文の組合せになっています。内容をよくご理解の上、本文をお読みください。

本書中のマーク説明

⚠警告	このマークに表示される内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。
⚠注意	このマークに表示される内容を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があると共に、物的損害の発生も想定されます。

⚠警告

作業区分	警告事項
感電・火災について	本装置の分解・解体・改造・再生を行わないでください。また、本装置上には物をのせないでください。 感電・火災・故障の原因となります。
	直射日光の当たる場所や暖房機の近く、湿気、ホコリの多い場所には置かないでください。 感電や火災のおそれがあります。
	通気孔がある機種の場合、装置内部が高温になるため通気孔をふさがないでください。火災のおそれがあります。
	万一、装置から発熱・発煙・異臭が発生したときは、電源アダプタを電源コンセントから抜いてください。 そのまま使用すると感電や火災のおそれがあります。
	電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。電源ケーブルの上に物をのせたり、絡みつけたり、足を引っかけたりしないようにしてください。感電や火災のおそれがあります。その他のケーブル類も同様です。
感電・火災について	本装置の電源ケーブルは、タコ足配線にしないでください。コンセントが発熱し、火災の原因となることがあります。
	電源ケーブルは、プラグ部分をもってコンセントから抜いてください。プラグが傷んで感電や火災が起こるおそれがあります。
	電源プラグの金属部分、およびその周辺にほこりが付着している場合は、乾いた布でよく拭き取ってください。そのまま使用すると火災の原因になります。
	電源プラグは、電源コンセントに確実に奥まで差し込んでください。差し込みが不十分な場合、感電、発煙、火災の原因となります。
	コーヒーなどの液体やクリップなどの金属片が装置内部に入らないように気をつけてください。また、装置内部に異物が入るのを防ぐため、装置の上には物を置かないでください。感電や火災のおそれがあります。モジュラージャックには指などを入れないでください。感電の原因となります。

	本装置を多段積みで使用しないでください。装置が破損したり、作業者が負傷したりするおそれがあります。
	振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。落下したりしてけがの原因となることがあります。
	装置の上に物を置いたり、装置の上で作業したりしないでください。装置が破損したり、作業者が負傷したりするおそれがあります。
破損・負傷について	梱包に使用しているビニール袋は、お子様が口に入れたり、かぶって遊んだりしないようご注意ください。窒息の原因となります。
	本装置を廃棄するときは、他のゴミと一緒に捨てないでください。火中に投じると破裂するおそれがあります。

⚠注意

作業区分	注意事項
故障について	本装置を多段積みで使用しないでください。 故障の原因となります。
	振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。故障の原因となります。
	装置の上に物を置いたり、装置の上で作業をしたりしないでください。故障の原因となります。
	本装置は屋内に設置してください。屋外で設置すると故障の原因となります。
	極端な高温、あるいは低温状態や温度変化の激しい場所で使用しないでください。故障の原因となります。
	塩害地域では使用しないでください。故障の原因となります。
	衝撃や振動の加わる場所で使用しないでください。 故障の原因となります。

故障について	薬品にふれる場所で使用しないでください。故障の原因となります。
	電子レンジなど、強い磁界を発生する装置のそばで使用しないでください。故障の原因となります。
	国内でのみ使用してください。本装置は国内仕様になっているので、海外ではご使用できません。
	内部に液体や貴金属などの異物が入った状態で使用しないでください。故障の原因となります。
	本装置を移動するときは、必ず電源ケーブルを抜いてください。故障の原因となります。
電波障害について	ラジオやテレビなどの機器のそばで使用しないでください。 受信時に雑音が入る場合があります。
感電について	感電するおそれがありますので、サービスマン以外はカバーを開けないでください。また、保守時には必ず電源コードを抜いてください。

作業区分	注意事項
ADSL について	ADSL 装置を設置している電話会社、インターネットサービスプロバイダからお客様宅までの電話線が、光ケーブルに変更されている場合は 、ADSL サービスをご利用になることはできません。
	ADSL 装置を設置している電話会社、インターネットサービスプロバイダからお客様宅までの距離が離れている場合は、 ADSL サービスをご利用になれない場合があります。詳しくはご利用のサービスプロバイダにお問い合わせください。
	ADSL 装置を設置している 電話会社、インターネットサービスプロバイダからお客様宅までの距離が離れている場合は、十分な速度が出ないことがあります。
	お客様のご使用環境が幹線道路あるいは鉄道のそばにある場合は、十分な速度が出ないことがあります。
	お客様のご使用環境が幹線道路あるいは鉄道のそばにある場合は、ADSL 回線による接続が途切れることがあります。
	電話回線で着信があった場合は ADSL 回線による接続が途切れることがあります。
	セキュリティ装置などがご利用の回線に設置されている場合、ADSLと併用できない場合があります。詳しくはサービスプロバイダ、警備会社、住宅管理会社等にお問い合わせください。
	ガスの遠隔検針サービスをご利用の場合、ADSL と併用できない場合があります。詳しくはサービスプロバイダ、ガス会社、住宅管理会社等にご確認ください。
	集合住宅等、ドアホンや内線電話等の交換機が設置されている場合、別途工事が必要になることがあります。接続業者、住宅管理会社等にご確認ください。 集合住宅等、お住まいの種類によっては、工事に住宅管理会社等の許可が必要な場合があります。
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。家庭環境で使用することを目的としているものですが、ラジオやテレビなどの機器に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しくお取り扱いください。	
本装置は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではございません。お客様がハイセイフティ用途に使用することで発生する、お客様または第三者からのいかなる請求・損害賠償に対しても当社は責任を負いません。	

故障等のお問い合わせ

故障などのお問い合わせは、ご加入の ADSL サービス事業者へお願いいたします。

安全点検

svoice SSI-11 をご使用の際は、必ず次のような事項等をご確認の上、取扱説明書に従って正しくお取り扱いください。

· 本製品を分解したり改造したりすることは行わないでください。

設置するための配線工事及び修理には、工事担任者資格を必要とします。無資格者の工事は違法となり、また事故のもととなりますので絶対にお止めください。

・本商品の故障・誤動作または不具合により、通信などにおいて利用の機会を逸したために発生した損害、および通信料金等付随的損害について、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。

・本製品の保証期間はお買い求めいただいた日より 1 年です。本製品の補修用性能部品の最低保有期限は、製造打ち切り後 7 年です。

・本製品（取扱説明書、ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠しておりません。また海外での保守サービス、および技術サービスは行っておりません。国内で使用する場合でも日本語環境によるご利用のみのサポートとなります。

This product is designed for only use in Japan and we are not offering maintenance service and technical service of this product in any foreign country. It works properly in only Japanese Operating System.

・その他の商品名、会社名は、各社の商標または登録商標です。
・本書の内容の一部、またはすべてを無断で転載、複製することは禁じられています。

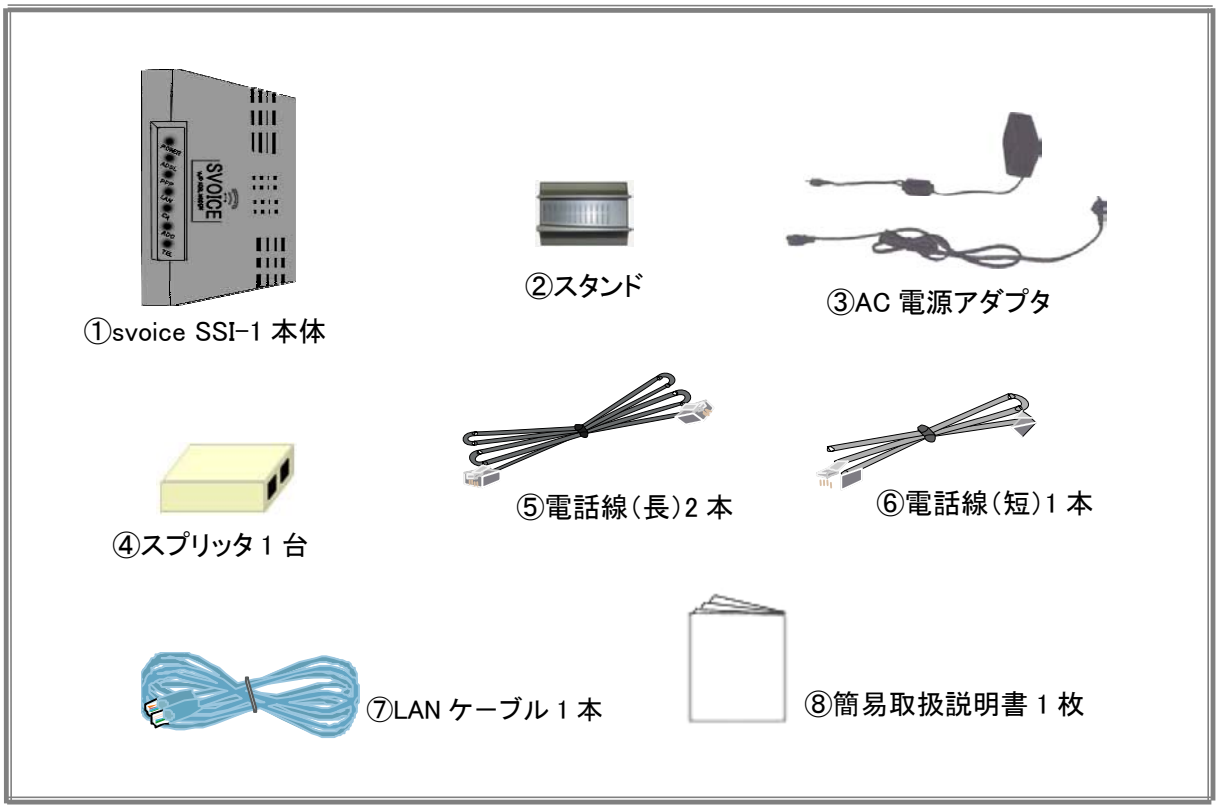
・本書の内容は、将来予告無しに変更する場合があります。

・本書の著作権は、すべて SAMSUNG CORPORATION に帰属します。

svoice SSI-11 をご利用いただきましてありがとうございます。svoice SSI-11（以下、本装置）は、SOHO や家庭内に効率性と安全性の高いネットワークを構築し、インターネットに簡単にアクセスし、ダウンロードを高速化することができます。また、ご使用の電話機器を接続することで、インターネットを利用した IP 電話通話を実現します。

1-1. パッケージ内容のご確認

ご使用前にパッケージの内容をご確認ください。本パッケージには、本体及び付属品が同梱されています。万が一、不足するものがありましたら、ご契約されたプロバイダまでお申しつけください。



⚠ 同梱されている LAN ケーブルはサービス品です。長さ等の不都合がありましたら、別途お客様にてご用意ください。

1-2. ADSL サービス契約内容のご確認

お客様がご契約されたプロバイダとの契約内容をご確認ください。設定時に「接続用認証 ID」「接続用認証パスワード」等が必要になります。

1-3. IP 電話サービス契約内容のご確認

お客様がご契約されたプロバイダとの契約内容をご確認ください。

1-4. その他のご確認

ご使用になるパソコンにLANポートが搭載されていることをご確認ください。搭載されていない場合、LANボード（ノートパソコンでは LAN カード）をご用意ください

※詳細につきましては、第 2 章　パソコン側の設定準備をお読みください。

⚠ LAN ボード（ノートパソコンでは LAN カード）をご購入された場合は、ハードウェアの取り付けを行い、LAN ポートを使用できるようにご準備ください。

⚠ LAN ポートはネットワークコネクタ、LAN コネクタ、ブロードバンドポート、LAN、イーサネット、LAN ポート、LAN 端子、RJ-45 コネクタなど、メーカによって様々な呼び方があります。

第2章　パソコン側の設定準備

（IP 電話機能付き ADSL モデムとパソコンを接続（設定）される前に）

2-1. 設定される前のご準備

以下のパソコン環境をあらかじめご準備ください。

■ LAN[注1]ポートのあるパソコン、または 10BASE-T 又は 100BASE-TX 対応 LAN カード（PCI[注2]、ISA[注3]、PCカード[注4]等）
　※　100BASE-TX 対応の LAN カードを推奨
■ ご契約いただいたプロバイダ発行の、本装置の設定に使用する「接続用認証 ID」と「接続用認証パスワード」が手元にあるかご確認ください。

青色ストレートのLAN[注5] ケーブルを試供品として本装置に同梱しておりますが、ケーブルの追加等でお客様がご準備される場合には、100BASE-TX の LAN カードに対応した 100Mbps Ethernet 用のカテゴリ 5 を推奨します。

注1　LAN(ラン)　ローカルエリアネットワーク（Local　Area　Network）のことで家庭内や社内など同じ領域内にあるネットワークのことを指します。
注2　PCI(ピーシーアイ)　パソコン内部の各パーツ間を結ぶバス（データの伝送路）の規格。急速に普及し、現在の主流となっており、ほとんどのパソコンはこの規格を内蔵しています。
注3　ISA（アイサ／Instruction　Set　Architecture）　初期のパソコンに内蔵されていたバスの規格で PCI よりも前の規格です。現在でも一部のパソコンに使用されています。
注4　PC カード（ピーシーカード）　ノートパソコン向けの拡張カードの統一規格です。フラッシュメモリカードやハードディスク、SCSI カード、LAN カード、IP 電話機能付き ADSL モデムカードなどに利用されています。
注5　添付されている LAN ケーブルは、サービス品（試供品）です。ケーブルの長さが足りない場合、またはご使用の環境で十分な特性が得られない場合は、別途ケーブルをご用意ください。

2-2. LAN カードの取り付けのご準備

（1）　デスクトップパソコンの場合

拡張スロットに LAN カードを取り付けます。スロットには PCI や ISA などの種類があります。お使いのパソコンに対応した LAN カード（10BASE-T または 100BASE-TX 対応）を取り付けてください。詳細は、LAN カードに付属のマニュアルをご参照の上、取り付けおよびインストールを行ってください。

（2）　ノートパソコンの場合

PC カードスロットに LAN カードを取り付けます。PC スロットの規格をご確認の上、対応した LAN カードを取り付けてください。詳細は、LAN カードに付属のマニュアルをご参照の上、取り付けおよびインストールを行ってください。

2-3. 推奨 OS と推奨 Web ブラウザ

以下のいずれかのオペレーティングシステムと推奨 Web ブラウザを実行するパソコン上で、本装置の Web 管理画面が使用できます。

・ オペレーティングシステム

Windows®95
Windows®98SE
Windows®Me
Windows®2000
Windows®XP Home
Windows®XP Pro
Macintosh OS 8.6(OT2.6 以降)
Macintosh OS 9.x
Macintosh OS X

・ Web ブラウザ

Microsoft Internet Explorer version 4.0～6.x
Microsoft Internet Exploer version 5.0/5.2 for Mac
Netscape version 4.75～4.78/6.0～7.0

上記の Webブラウザでは、基本的な動作は行いますが、一部オペレーテンングシステムとWeb ブラウザの組み合わせにより、Web 管理画面の文字化けや、正しく設定できない場合があります。
正常に動作しない場合や設定ができない場合、各種パソコン関連雑誌の付録 CD-ROM などにより以下の Web ブラウザのバージョンを入手し、インストールしてください。

・ 推奨 Web ブラウザ

Microsoft Internet Explorer version 5.5～
Netscape version 6.x～7.0

2-4. ネットワーク設定のご準備

Windows® 95/98/Me	12 ページ
Windows® 2000	13 ページ
Windows® XP	13 ページ
Macintosh OS 9.x	17 ページ
Macintosh OS X	17 ページ

2-4-1. Windows®の場合

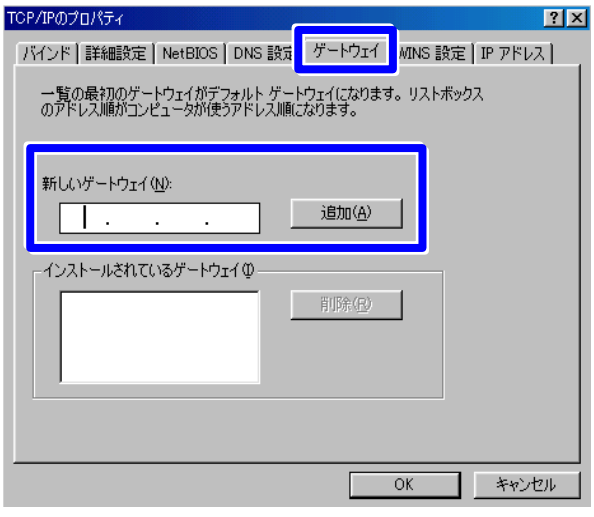
①-1　TCP/IP の設定（Windows® 95/98/Me の場合）

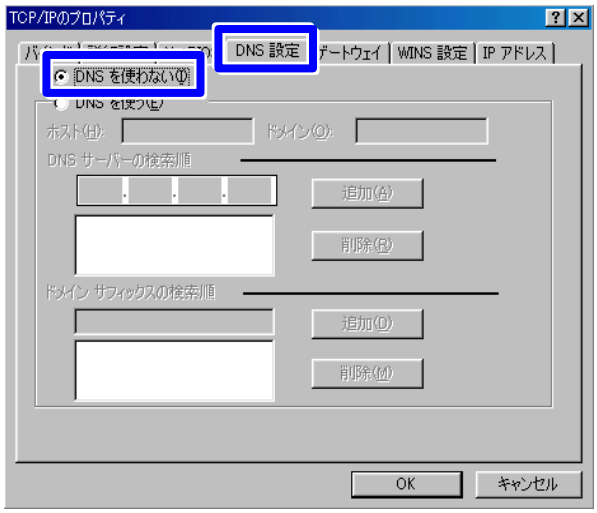
『マイコンピュータ』→『コントロールパネル』→『ネットワーク』をダブルクリックし、『TCP/IP→お使いの LAN カード』を選択し、『プロパティ』ボタンをクリックします。TCP/IP のプロパティが開きます。以下の通り設定を変更した後、「OK」ボタンをクリックし、保存してください。
（設定を変更した後は、再起動が必要になります。）

IP アドレス：　IP アドレスを自動的に取得

ゲートウェイ：　指定しない

DNS 設定：　DNS を使わない

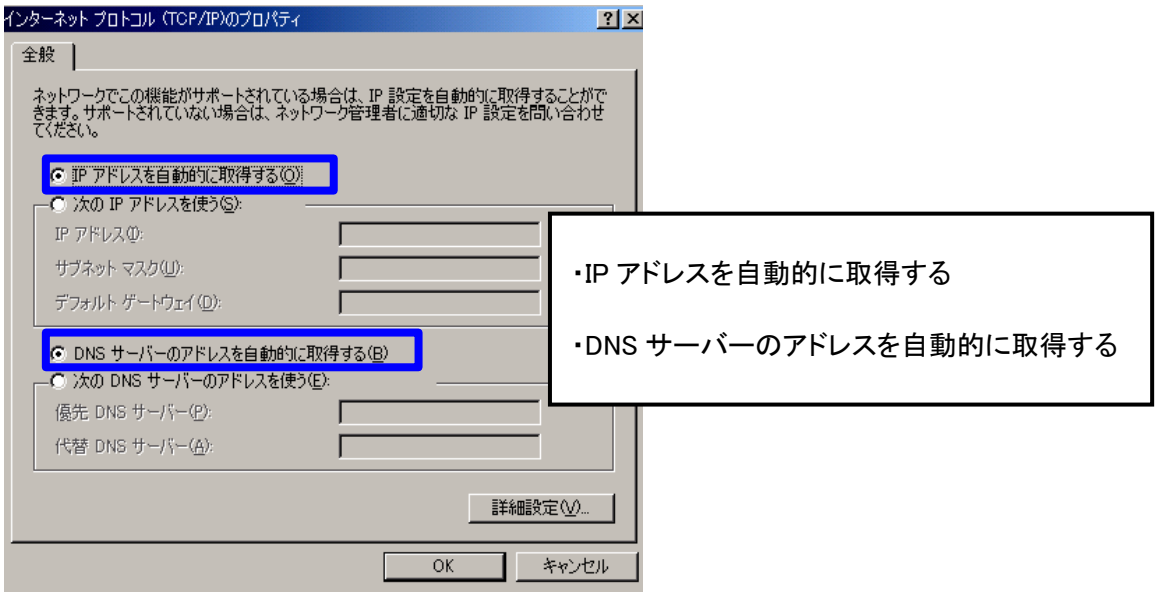




設定が終わりましたら 16 ページの「②　Windows®インターネットプロパティの設定に関して」へお進みください。

①-2　TCP/IP の設定（Windows® 2000 の場合）

『マイコンピュータ』→『コントロールパネル』の『ネットワークとダイヤルアップ接続』をダブルクリックします。『ローカルエリア接続』を右クリックし、『プロパティ』をクリックします。『コンポーネントリスト』から『インターネットプロトコル（TCP/IP）』を選択し、『プロパティ』ボタンをクリックします。以下の設定に変更の上、「OK」ボタンをクリックし、保存してください。



設定が終わりましたら 16 ページの「② Windows®インターネットプロパティの設定に関して」へお進みください。

①-3　TCP/IP の設定（Windows® XP の場合）

手順1. スタートメニューより『コントロールパネル』をクリックします。
＊クラシック[スタート]メニュー（以前のバージョンの Windows®メニュースタイル）にしている場合は、スタートメニューより『設定』→『コントロールパネル』をクリックします。

＜カテゴリ表示の場合＞

手順2.『ネットワークとインターネット接続』を
クリックします。

手順3.『ネットワーク接続』をクリックします。

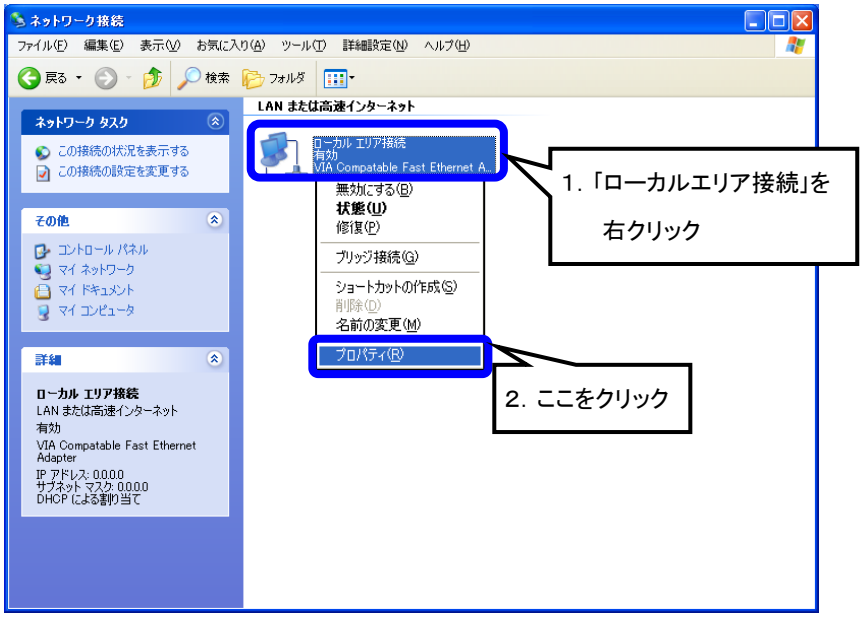
「手順4」へお進みください。

＜クラシック表示の場合＞

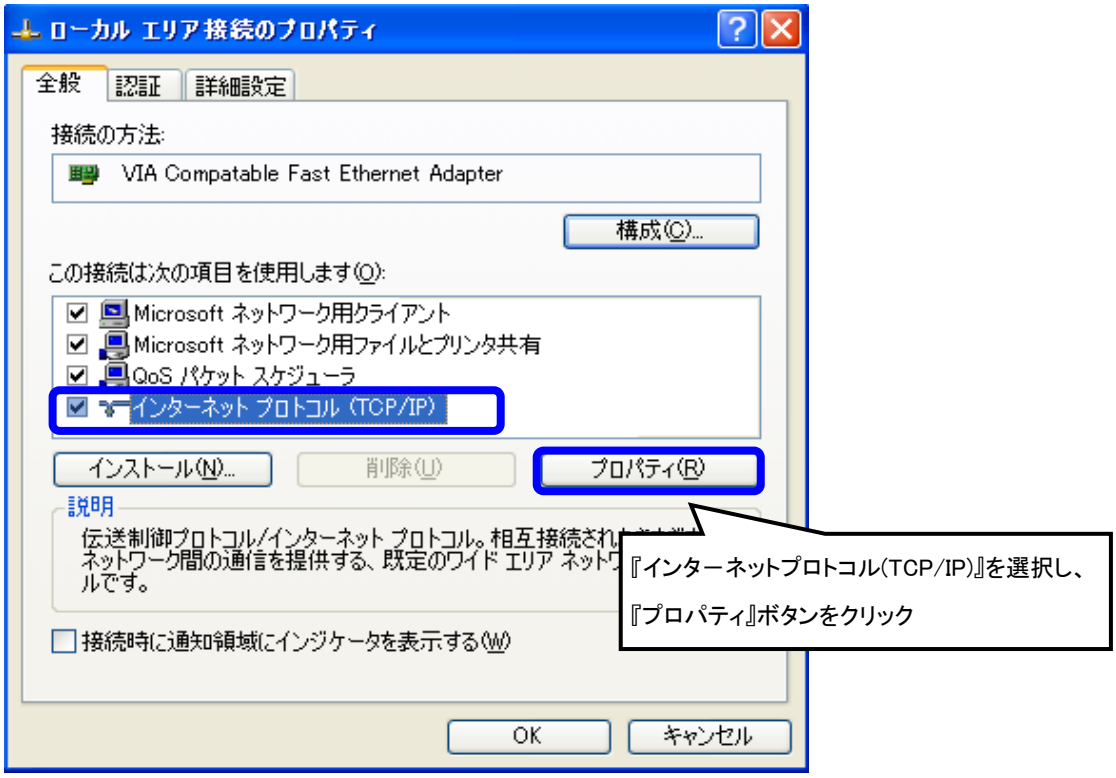
手順2.『ネットワーク接続』をダブルクリックします。

「手順4」へお進みください。

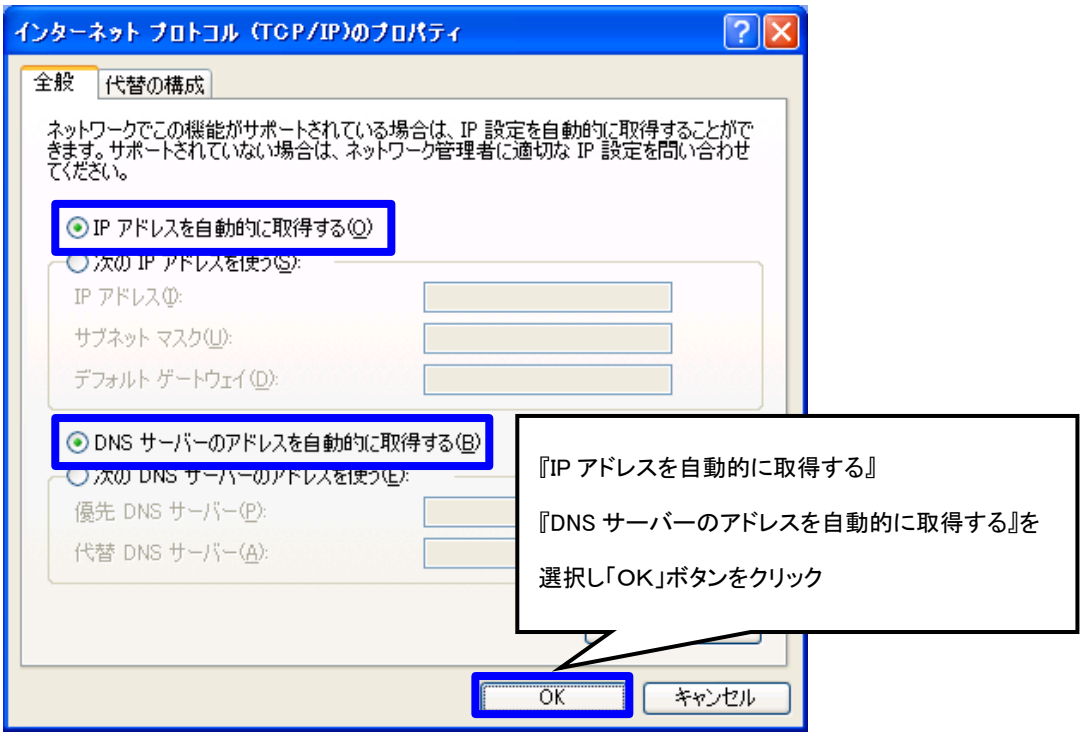
手順4.『ローカルエリア接続』を右クリックして『プロパティ』をクリックします。



手順5.『インターネットプロトコル(TCP/IP) 』を選択し、『プロパティボタン』をクリックします。



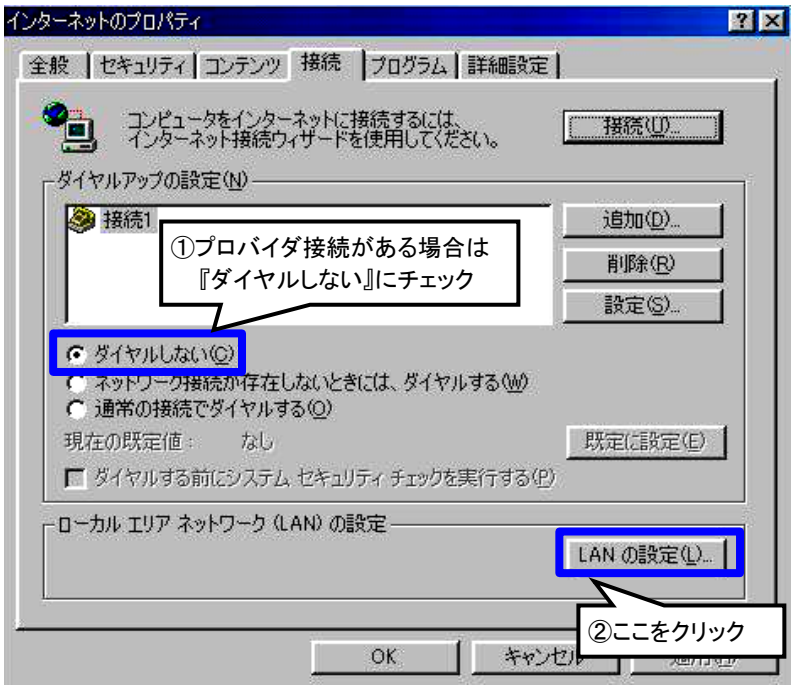
手順6. 以下の設定に変更の上、「OK」ボタンをクリックし、保存してください。



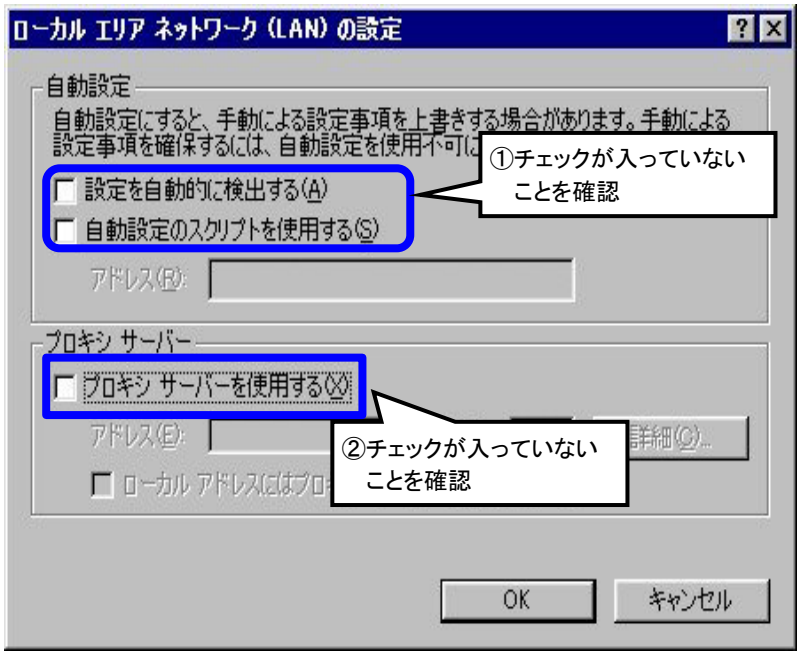
設定が終わりましたら 16 ページの「② Windows® インターネットプロパティの設定に関して」へお進みください。

② Windows® インターネットプロパティの設定に関して

手順1. 『マイコンピュータ』→『コントロールパネル』を開きます。『インターネットオプション』をダブルクリックし、『接続』タブを選択します。『ダイヤルアップの設定』の一覧にプロバイダ接続がある場合は『ダイヤルしない』という項目にチェックを入れてください。また、プロバイダ接続がない場合はグレーアウト表示となります。
『LAN の設定』ボタンをクリックします。



手順2. 表示される『ローカルエリアネットワーク(LAN)の設定』画面内のチェックボックスのすべてに「チェックがない」ことを確認してください。



⚠ 注意　『設定を自動的に検出する』にチェックが入っていると、Web 表示画面に切り替わるのに時間がかかることがあります。

設定が終わりましたら、19 ページの「第 3 章 IP 電話機能付き ADSL モデムの設定」にお進みください。

2-4-2. Macintosh の場合

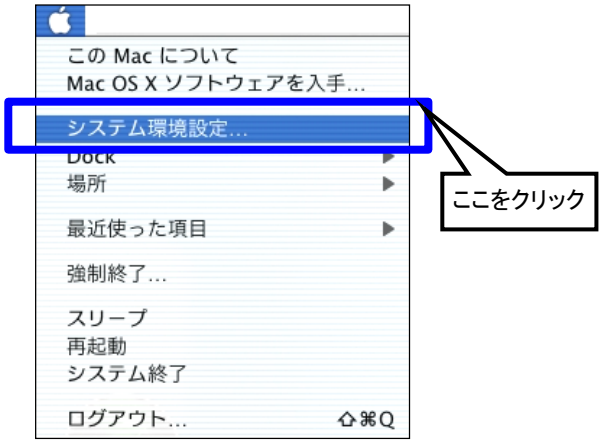
①-1 TCP/IP の設定（OS 9.x の場合）

アップルメニューから『コントロールパネル』→『TCP/IP』を選択してください。『TCP/IP』の画面の設定を以下のように設定し、保存してください。

設定が終わりましたら、19 ページの「第 3 章 IP 電話機能付き ADSL モデムの設定」にお進みください。

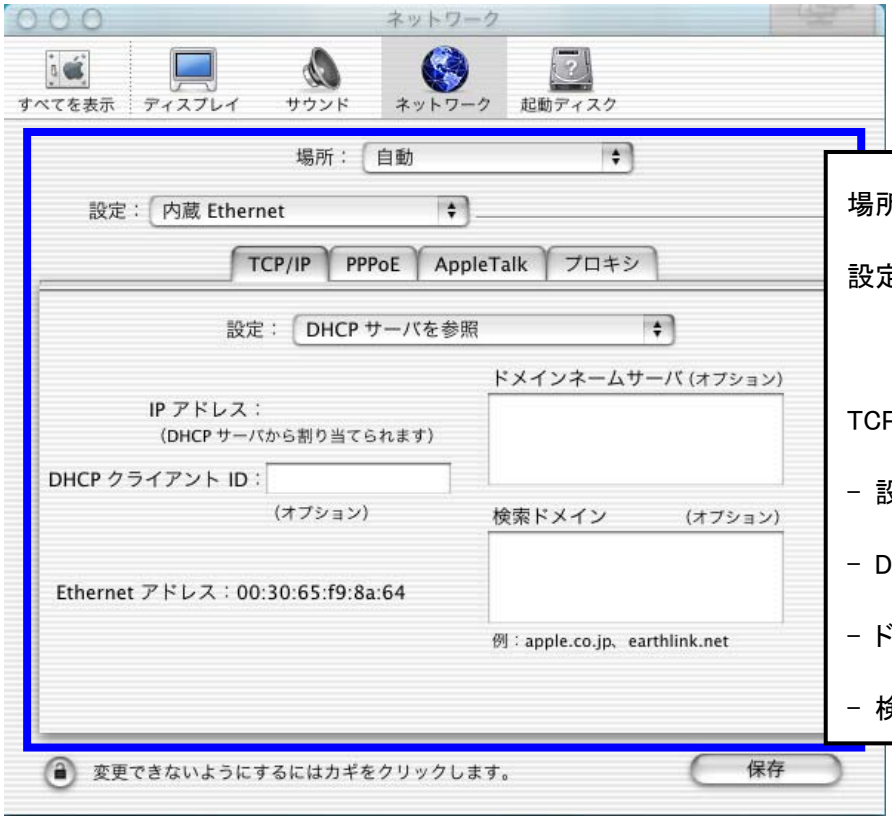
①-2 TCP/IP の設定（OS X の場合）

手順1. アップルメニューより『システム環境設定』をクリックします。



手順2. システム環境設定の中から、『ネットワーク』をクリックします。

手順3. 『ネットワーク』の画面の設定を以下のように設定し、保存してください。



場所：自動

設定：内蔵 Ethernet

TCP/IP タブ内で

- 設定：DHCP サーバを参照
- DHCP クライアント ID：空白
- ドメインネームサーバ：空白
- 検索ドメイン：空白

設定が終わりましたら、19 ページの「第 3 章 IP 電話機能付き ADSL モデムの設定」にお進みください。

3-1. SSI-11 の縦置きスタンド設置方法

本装置は縦置きと横置き、両方とも使用することができます。

1. 縦置きの設置方法
   縦置きにしてお使いになる場合には、同梱されたスタンドをご使用ください。
   また、スタンドには設置する方法がありますのでご注意ください。

・スタンドの取り付け

スタンドの形状は IP 電話機能付き ADSL モデムの側面の形状と合わせるため緩やかなカーブを描いております。スタンドには幅が広い面と狭い面がありますので幅の狭い面（図１－①）を IP 電話機能付き ADSL モデムの前面（図 2－②）に合わせてしっかりと差し込んでください。

<図 1>スタンド　　<図 2>スタンドと本体　　<図 3>縦置き完成

⚠ 注意　スタンドの向きを反対にすると、しっかりと合わない為、本体が不安定になりますのでご注意ください。

2. 横置きの設置方法
   横置きの場合、スタンドは使用しません。

⚠ 注意　ゴム足のある面が下になるように設置してください。

3-2. IP 電話機能付き ADSL モデムの接続方法

3-2-1. IP 電話機能付き ADSL モデム接続にあたってのご注意

⚠ 注　意　パソコンと本装置を 1 対 1 で接続する場合は、LAN ケーブル(ストレート)を使用してください。

⚠ 注　意　HUB を経由してパソコンと接続する場合は、本装置と HUB 間は LAN ケーブル（ストレート）でアップリンク（MDI）ポートに接続し、パソコンと HUB 間は LAN ケーブル（ストレート）で通常のポート（MDI-X）に接続することをお勧めします。

⚠ 注　意　お客様の一般電話回線のダイヤル方式(DP/PB)をご確認ください。IP 電話機能をご利用になる際、回線のダイヤル方式と電話機のダイヤル方式を合わせる必要があります。
電話機が自動で回線設定する場合もありますが、電話機備え付けの回線種別スイッチにて、ダイヤル方式を合わせてください。
お客様がご契約されている一般電話回線のダイヤル方式がわからない場合は、ご契約の電話会社にお問い合わせください。
電話機の設定については、電話機付属の取扱説明書に従って設定してください。ご不明な際は、ご購入された電話機のお問合せ窓口にお問い合わせください。

⚠ 注　意　ダイヤル方式の DP（ダイヤルパルス）を使用すると、本装置から『カチカチ・・・・』と音が発生しますが、不良ではありません。

⚠ 注　意　IP 電話機能のご利用は TYPE 1 での ADSL サービスに加入していることが必要条件です。

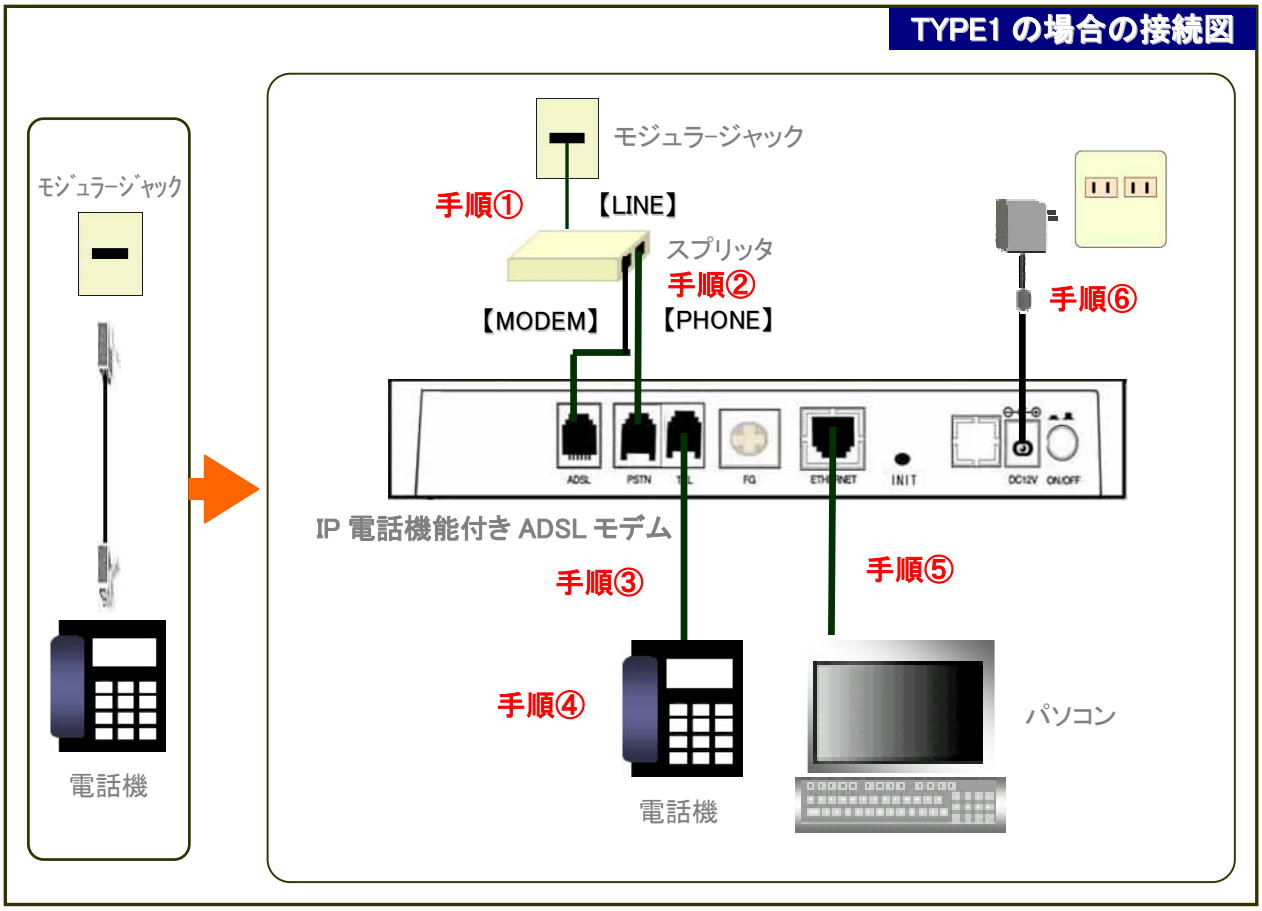
⚠ 注　意　お客様ご自身で IP 電話機能を使用する設定を行い、IP 電話サービスの契約を解除されるなどした場合、必ず本装置の Web 設定内にある『工場出荷時設定』で初期化を行ってください。

⚠ 注　意　付属のスプリッタには、スプリッタ専用の取扱説明書が添付されていますが、ADSL サービスをご利用になる際は、本マニュアルに従ってスプリッタの接続を行ってください。

3-2-2. 機器との接続

TYPE 1 における各機器と接続

下の図のように接続してください。(必ずパソコンの電源を切った状態で行ってください。)



⚠ 注意　スプリッタの形状は上図と異なる場合がありますが、接続部分の表記は上図に準じております。
接続の際はスプリッタの接続部分の表記を確認してから行ってください。

手順:

①スプリッタ付属の電話線(短)を使用し、モジュラージャックとスプリッタの【LINE】ポートをつなぎます。

②スプリッタの【MODEM】ポートと IP 電話機能付き ADSL モデムの【ADSL】ポートをつなぎます。スプリッタの【PHONE】ポートと IP 電話機能付き ADSL モデムの【PSTN】ポートを IP 電話機能付き ADSL モデム付属の電話線(長)でそれぞれつなぎます。

③すでにお客様がお持ちの電話機を電話線で IP 電話機能付き ADSL モデムの【TEL】ポートへつなぎます。

④一般電話網へ発信可能か確認してください。

※お使いの電話機が自動的にダイヤル方式を設定する場合でも、必ずお客様がご契約された一般電話回線のダイヤル方式(DP/PB)と電話機のダイヤル方式(DP/PB)が同一であるか確認してください。

⑤IP 電話機能付き ADSL モデムの【ETHERNET】ポートとパソコンの LAN ポートを IP 電話機能付き ADSL モデム付属の LAN ケーブルでつなぎます。

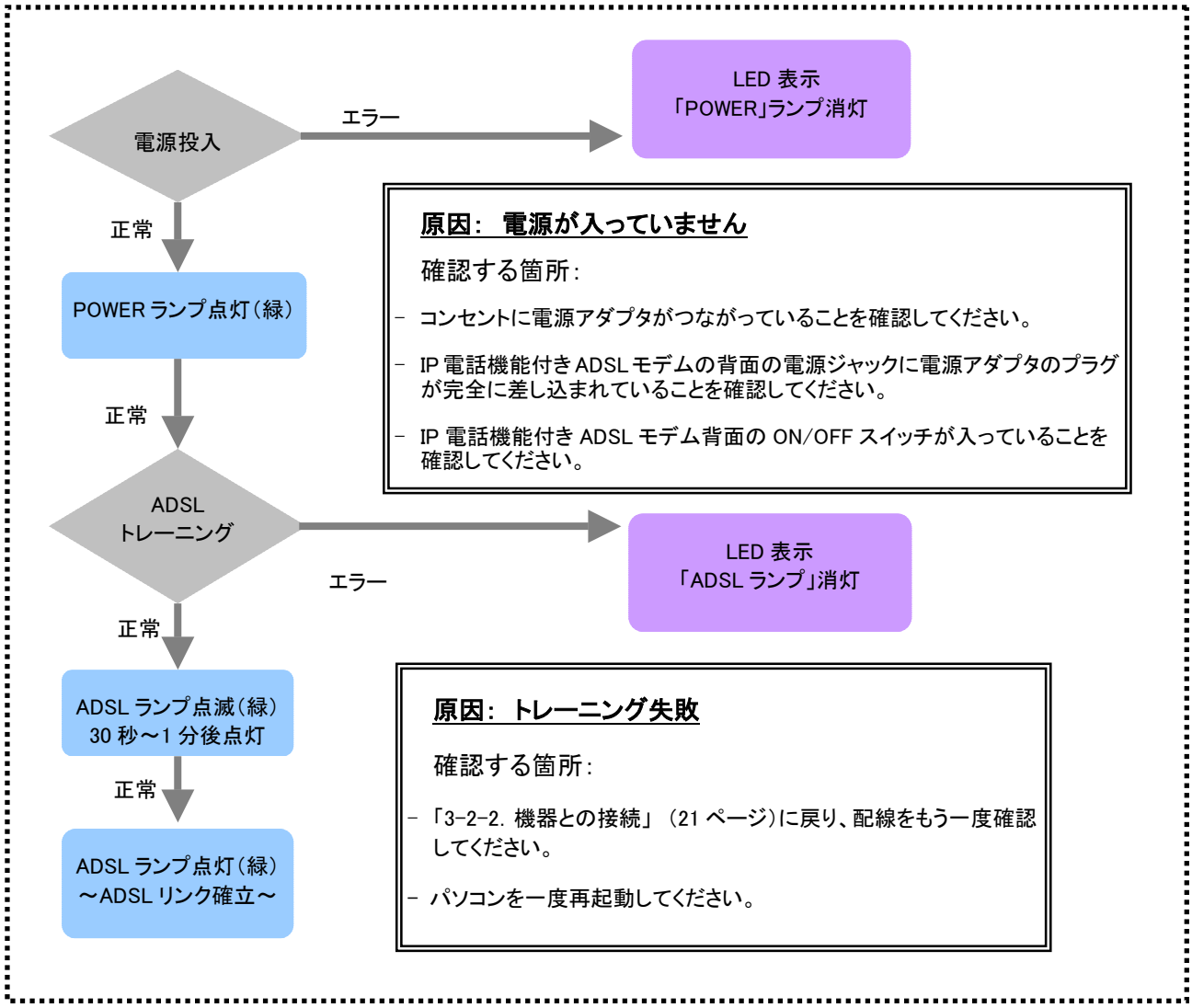
⑥IP 電話機能付き ADSL モデム付属の AC アダプタを接続し、IP 電話機能付き ADSL モデムの電源スイッチを ON にしてください。

以上で接続は終了です。

3-2-3. 機器との接続確認

①ADSL 回線との接続確認

本装置の電源を入れてください。正常であれば、以下の流れに沿って ADSL ランプが点滅・点灯して最後の ADSL リンク確立まで行われます。

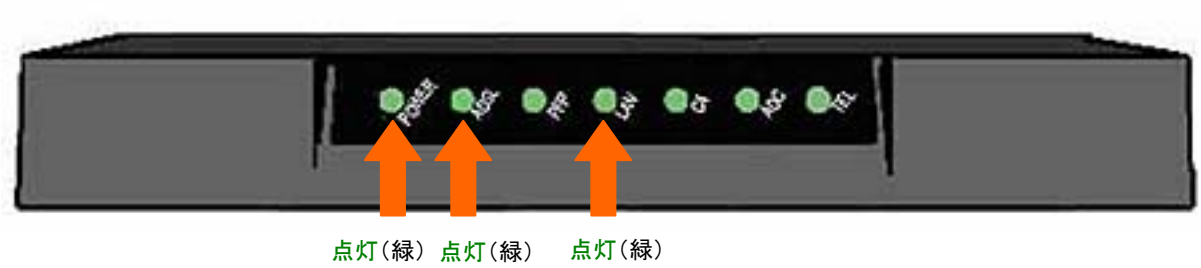


②パソコンとの接続確認

本装置とパソコンを 1 対 1 で接続して、本装置の「LAN」ランプが点灯していることを確認してください。
（パソコンの電源が入っていない場合は点灯しません。）
点灯しない場合は、以下の個所を確認してください。

ランプ	原　因	確認する個所
LAN 消灯	10BASE-T または 100BASE-TX のリンクが未確立	LAN ケーブルが正しく接続されていますか? 本装置の電源が入っていますか? LAN ケーブルはストレートケーブルですか？（クロスケーブルではつながりません。） （詳細は、「3-2.IP 電話機能付き ADSL モデムの接続方法」（20 ページ）を参照してください。）

③本装置のランプ状態確認
「POWER」「ADSL」「LAN」ランプが点灯することを確認してください。（すべてのランプが点灯するまで 2 分程度の時間が必要です。）



上記のように点灯しない場合は、以下の順番に従って本装置の前面ランプを確認してください。

	正常な状態	間隔	正常な状態ではない場合	確認箇所
①本装置の電源投入	POWER ランプ 点灯（緑） ADSL ランプ消灯	—	電源が入っていません。	コンセントに電源アダプタが繋がっていることを確認してください。 本装置裏面の電源ジャックに電源アダプタのプラグが完全に差し込まれていることを確認してください。
②本装置の初期化中	POWER ランプ 点灯（緑） ADSL ランプ 消灯 LAN ランプ点灯（緑）	約 30 秒～40 秒	本装置の電源を再投入(OFF/ON)してください。	配線をもう一度確認してください。
③ADSL トレーニング中	POWER ランプ 点灯（緑） ADSL ランプ 点滅（緑） LAN ランプ点灯（緑）	約 30 秒～1分	ADSL トレーニングの失敗です。	配線をもう一度確認してください。 （配線を確認しても変わらない場合は、ご契約されているプロバイダまでご連絡ください。）
④ADSL リンク確立	POWER ランプ 点灯（緑） ADSL ランプ 点灯（緑） LAN ランプ点灯（緑）	—	—	—

⚠ 注意　「ADSL」ランプと「LAN」 ランプの両方が点灯することを確認してから、本装置の設定を行ってください。

④その他のランプ動作について

ランプ	表示状態	状態説明
Power	点灯(緑)	電源が入っている状態
	消灯	電源が入っていない状態
ADSL	点灯(緑)	ADSL 回線リンク確立
	点滅(緑)	ADSL 回線トレーニング中
	消灯	ADSL 回線リンク切断
PPP	点灯(緑)	PPP リンク確立
	点滅(緑)	PPP リンク接続処理中
	消灯	PPP リンク未接続／切断
LAN	点灯(緑)	LAN 側 Ethernet 接続： OK
	消灯	LAN 側 Ethernet 接続： NG
CA	点灯(緑)	コールエージェント(IP 電話サーバ)に登録済み
	点滅(緑)	コールエージェント(IP 電話サーバ)に登録要求中
ADC	点滅(緑)	IP 電話情報発信中/通信リトライ中/ダウンロード中
	点灯(緑)	運用中
TEL	点灯(緑)	IP 電話から IP 電話へ通話中 受話器をオフフックしている状態
	点滅(緑)	IP 電話から一般電話へ呼出中 IP 電話から一般電話へ通話中
	消灯	一般電話から一般電話へ通話中 受話器をオンフックしている状態

3-3. IP 電話機能付き ADSL モデム機能の設定方法

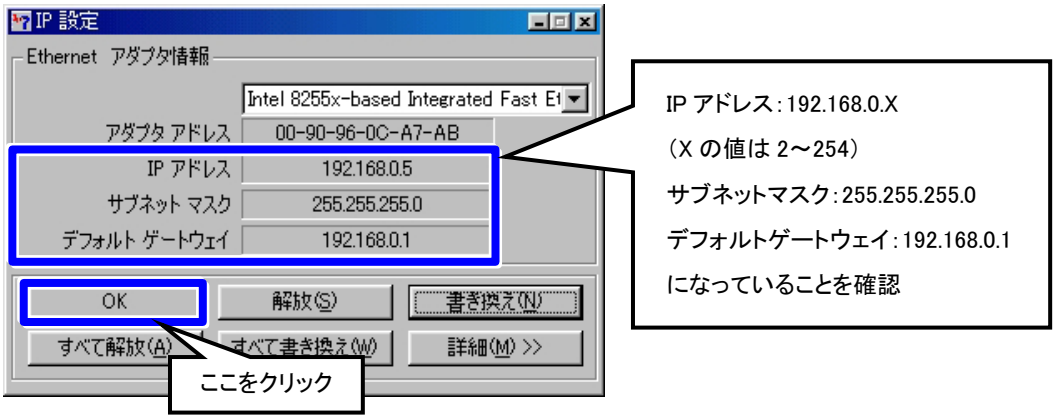
3-3-1. IP アドレスの確認

Windows® 95/98/Me	25 ページ
Windows® 2000	26 ページ
Windows® XP	27 ページ
Macintosh OS 9.x	28 ページ
Macintosh OS X	28 ページ

(1)-1 IP アドレスの確認 Windows® 95/98/Me の場合

① パソコンが立ち上がったら『スタートメニュー』より『ファイル名を指定して実行』を開き、winipcfg（半角英数）と入力後、「OK」を押します。左の画面が表示されたら、▼をクリックし、ご使用になる LAN カードの名前を選択します。

② IP アドレスが 192.168.0.X（X値は 2～254）になっていることを確認し「OK」ボタンで閉じます。



設定が終わりましたら、29 ページ「3-3-2. IP 電話機能付き ADSL モデムの Web 管理画面へのアクセス」へお進みください。

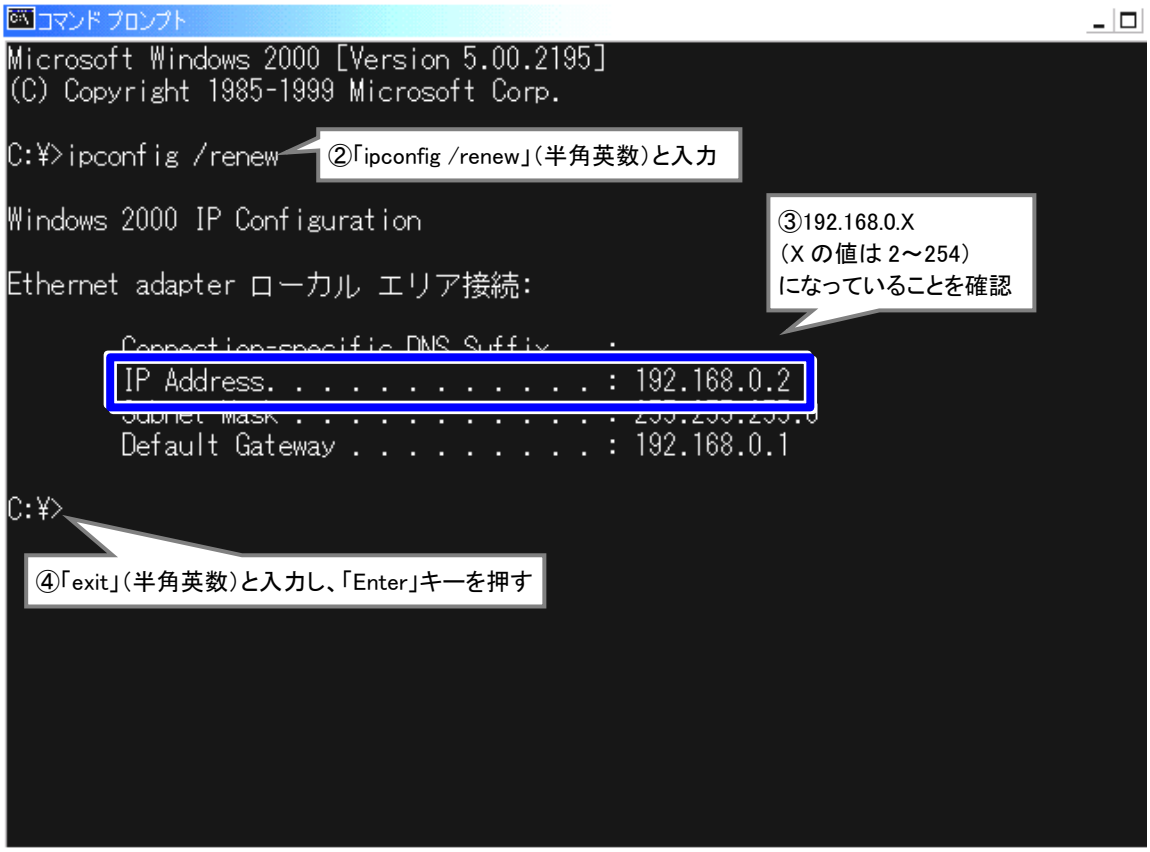
(1)-2 IP アドレスの確認 Windows®2000 の場合

① パソコンが立ち上がったら『スタートメニュー』より『ファイル名を指定して実行』を開き、「cmd」(半角英数)と入力後、「OK」をクリックします。

⚠ 注意 プロンプト(画面左側に表示される文字(C:¥>)は、お使いのパソコンの環境によって異なります。

② 『コマンドプロンプト』の画面が表示されたら、「ipconfig /renew」(半角英数)と入力し、「Enter」キーを押します。

③ 『Ethernet adapter ローカルエリア接続:』が表示されたら IP アドレスが 192.168.0.X(X 値は 2～254)になっていることを確認します。



④ 確認後、exit(半角英数)と入力し、「Enter」キーを押して、画面を閉じます。

設定が終わりましたら、29 ページ「3-3-2. IP 電話機能付き ADSL モデムの Web 管理画面へのアクセス」へお進みください。

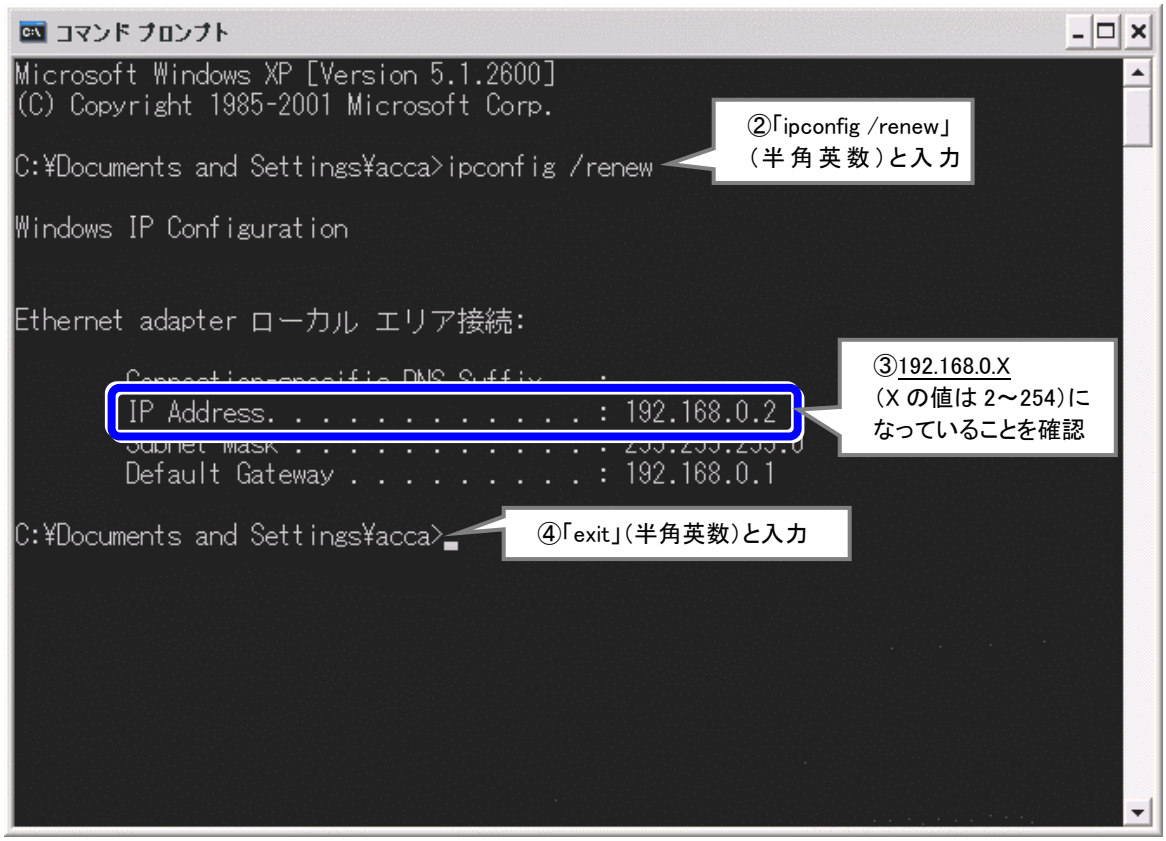
(1)-3 IP アドレスの確認 Windows® XP の場合

① パソコンが立ち上がったら『スタートメニュー』より『ファイル名を指定して実行』を開き、「cmd」(半角英数)と入力後、「OK」をクリックします。

⚠ 注意 プロンプト(画面左側に表示される文字(C:¥>)は、お使いのパソコンの環境によって異なります。

② 『コマンドプロンプト』の画面が表示されたら、「ipconfig /renew」(半角英数)と入力し、「Enter」キーを押します。

③ 『Ethernet adapter ローカルエリア接続:』が表示され、IP アドレスが 192.168.0.X(X 値は 2～254)になっていることを確認します。

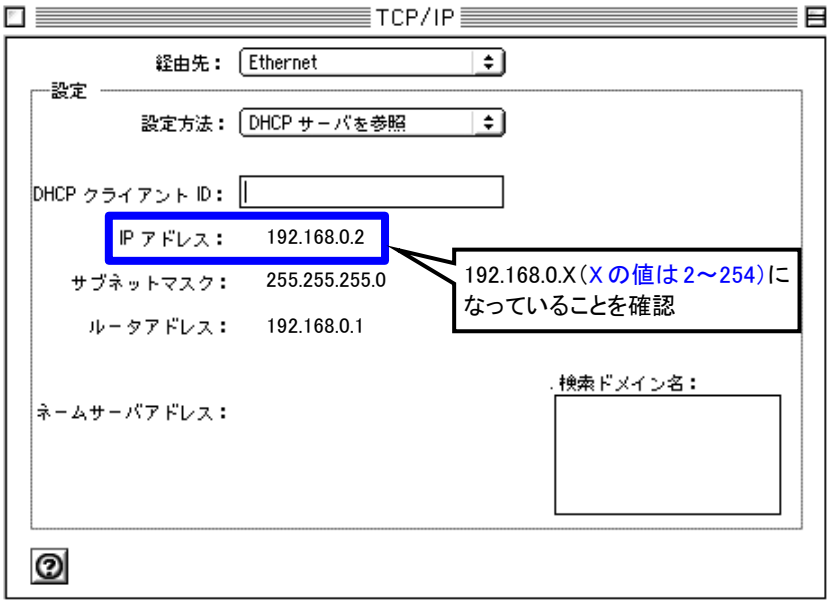


④ 確認後、exit(半角英数)と入力し、「Enter」キーを押して、画面を閉じます。

設定が終わりましたら、29 ページ「3-3-2. IP 電話機能付き ADSL モデムの Web 管理画面へのアクセス」へお進みください。

(1)-4 IP アドレスの確認 Macintosh OS 9.x の場合

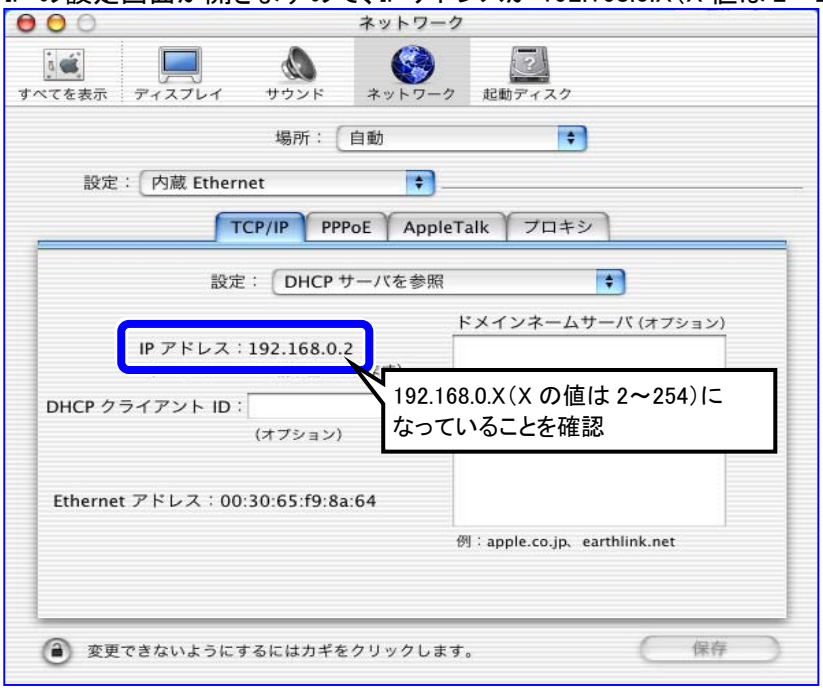
アップルメニューから『コントロールパネル』→『TCP/IP』を選択してください。
IP の設定画面が開いたら、IP アドレスが 192.168.0.X(X の値は 2～254)になっていることを確認します。



設定が終わりましたら、29 ページ「3-3-2. IP 電話機能付き ADSL モデムの Web 管理画面へのアクセス」へお進みください。

(1)-5 IP アドレスの確認 Macintosh OS X の場合

アップルメニューから『システム環境設定』→『ネットワーク』を選択してください。
IP の設定画面が開きますので、IP アドレスが 192.168.0.X(X 値は 2～254)になっていることを確認します。

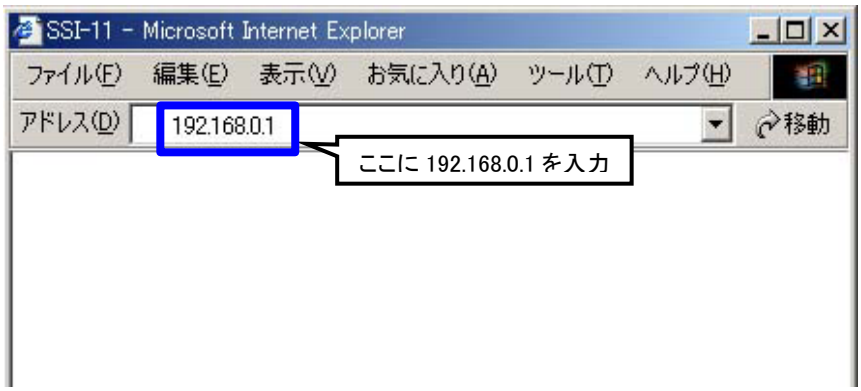


設定が終わりましたら、29 ページ「3-3-2. IP 電話機能付き ADSL モデムの Web 管理画面へのアクセス」へお進みください。

3-3-2. IP 電話機能付き ADSL モデムの Web 管理画面へのアクセス

Web ブラウザを起動し、アドレスバーに 192.168.0.1 を入力し「Enter」キーを押してください。192.168.0.1 は、本装置のデフォルト IP アドレスになります。
お客様が本装置の LAN 側の IP アドレスを変更している場合は、変更後の IP アドレスを入力してください。

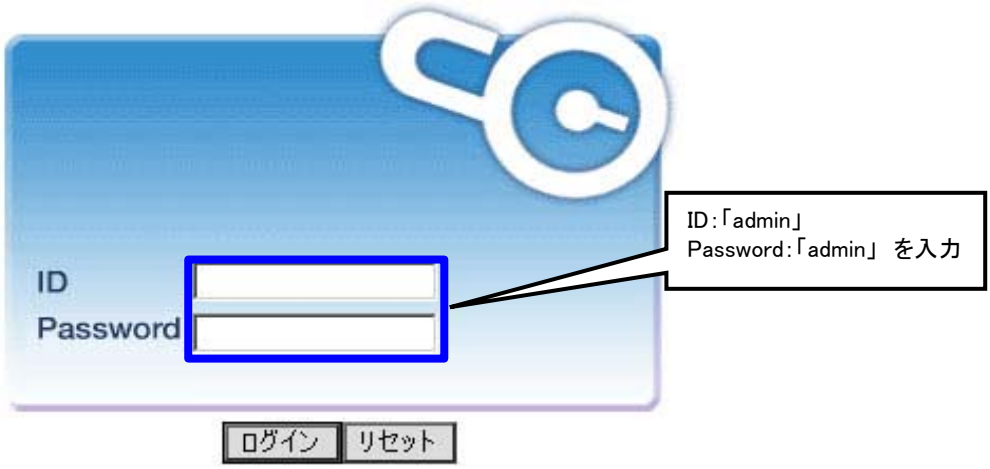
Internet Explorer の場合



HOT!! LAN 側 IP アドレスを変更するときは「第 6 章　画面詳細(IP 系) 7-1. Ethernet 側 IP 設定」(63 ページ)を参照してください。

下図 Web 管理画面へのログイン画面が表示されます。「ID」に“admin”、「Password」に“admin”と入力して「ログイン」をクリックしてください。 ID:「admin」、Password:「admin」は、本装置のデフォルト値です。

※お客様がユーザ名／パスワードを変更している場合は、変更後のユーザ名／パスワードを入力してください。



正常にログインできると、初期設定画面「基本設定」画面が表示されます。

ログインしたときの初期設定画面「基本設定」は、本装置のデフォルト設定になります。お客様が本装置の動作モードを変更している場合は、変更後の動作モードが表示されます。

Web 管理画面を終了するときは、画面右上の をクリックしてください。

3-3-3. IP 電話機能付き ADSL モデムの基本設定

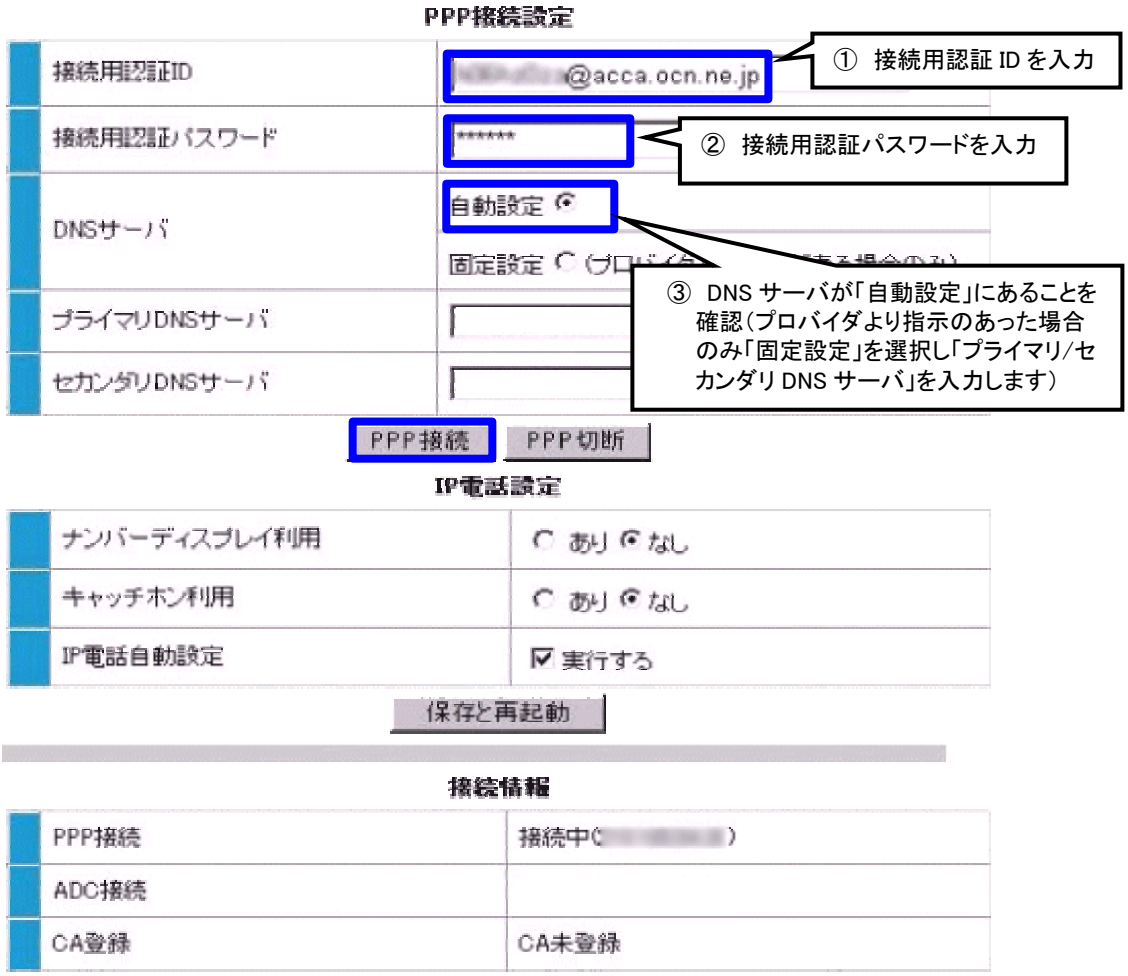
本項では、各モード基本設定および詳細設定を説明します。

① PPPoE モードで動作させるとき　→ 3-3-3(1):31 ページを参照
② ブリッジモードで動作させるとき　→ 3-3-3(2):34 ページを参照
※ブリッジモードで動作させる場合、IP 電話はご利用になれません。

(1). PPPoE モード接続で動作させるとき

ログイン画面でログインし、管理画面左側の操作メニューにある「ADSL 系」フォルダを開き、「基本設定」を選択します。

下記のように各種設定項目を入力します(※下記の画面は入力例になります。)



接続の確認
下記の状態表示の場合、接続しています。
《画面》「基本設定」画面の「接続情報」の「PPP 接続」が接続中(任意の IP アドレス)
《本装置》ADSL ランプ／PPP ランプの点灯

HOT!! 本装置のランプ表示は、「PPP 接続」ボタンをクリックした後、下記のように表示されます。
ADSL ランプの消灯→点滅→点灯の次に、PPP ランプが点滅→点灯します。

インターネットへの接続確認
Web　ブラウザ-を立上げます。アドレスバーに URL を入力しインターネット接続を確認します。
例)「http://www.samsung.co.jp/」を入力し、Web サイトが表示されれば接続完了です。

（※上記画面は 2003 年12 月 2 日のものです）

参考：PPP のセッション状態のメッセージ表示

管理画面左側の操作メニューにある 「ADSL 系」フォルダを開き、「設定一覧」を選択します。
現在の PPP セッション状態を表示します。

PPPセッション状態

ISP名	ISP1
PPP状態	接続中
取得 WAN側IPアドレス	[redacted]
サブネットマスク	[redacted]
対向IPアドレス	[redacted]

《接続状態の表示例》

PPP 状態：接続中

PPPセッション状態

ISP名	ISP1
PPP状態	接続中
取得 WAN側IPアドレス	[redacted]
サブネットマスク	[redacted]
対向IPアドレス	[redacted]

接続状態
PPP 状態 ： 接続中
取得 WAN 側 IP アドレス ： 任意のアドレス
サブネットマスク ： 任意のアドレス
対向 IP アドレス ： 任意のアドレス

PPP 状態：接続要求中

PPPセッション状態

ISP名	ISP1
PPP状態	接続要求中
取得 WAN側IPアドレス	N/A
サブネットマスク	N/A
対向IPアドレス	N/A

接続要求中状態
PPP 状態 ： 接続要求中
取得 WAN 側 IP アドレス ： N/A
サブネットマスク ： N/A
対向 IP アドレス ： N/A

PPP 状態：未接続

PPPセッション状態

ISP名	ISP1
PPP状態	未接続
取得 WAN側IPアドレス	N/A
サブネットマスク	N/A
対向IPアドレス	N/A

未接続状態
PPP 状態 ： 未接続
取得 WAN 側 IP アドレス ： N/A
サブネットマスク ： N/A
対向 IP アドレス ： N/A

PPP 状態：PPP 認証失敗

PPPセッション状態

ISP名	ISP1
PPP状態	PPP認証失敗
取得 WAN側IPアドレス	N/A
サブネットマスク	N/A
対向IPアドレス	N/A

PPP 認証失敗状態
PPP 状態 ： PPP 認証失敗
取得 WAN 側 IP アドレス ： N/A
サブネットマスク ： N/A
対向 IP アドレス ： N/A
（原因）接続用認証 ID/接続用認証パスワードを
間違えて入力した為。

(2). ブリッジモード接続で動作させるとき

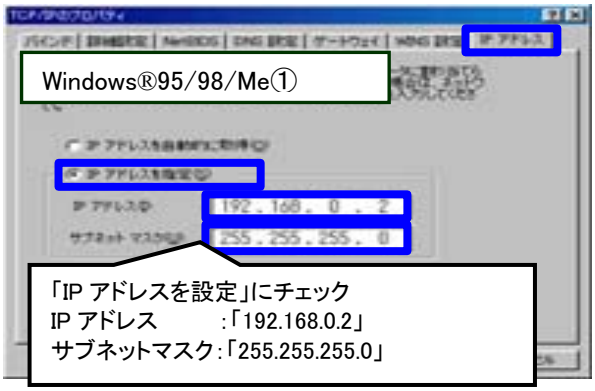
ブリッジモード接続のときは、本装置の DHCP サーバ機能が動作しないので、パソコンのネットワーク設定内で IP アドレスを自動取得している場合は、Web 管理画面にログインすることが出来ません。Web 管理画面にログインする場合は、パソコンの設定を「IP アドレスを指定」に変更する必要があります。

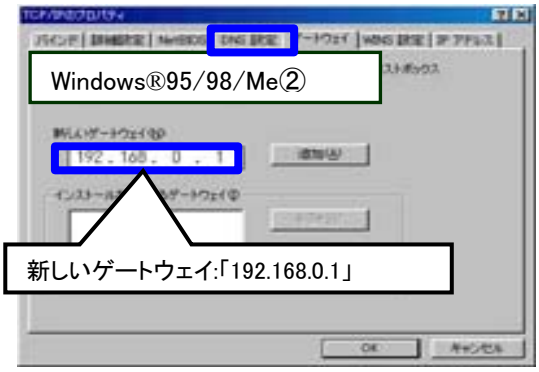
【設定の方法】

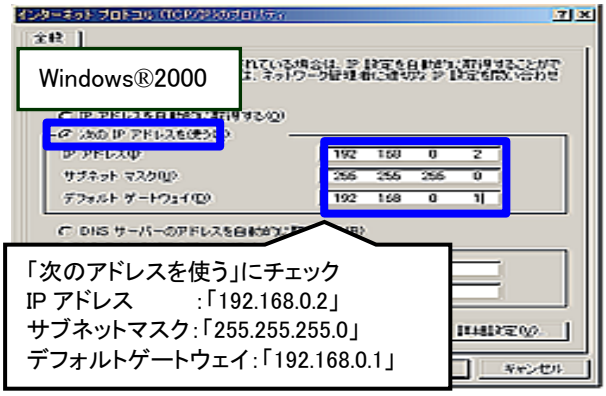
本装置をブリッジモードにする場合下記の手順に従って設定を行ってください。
パソコン側の設定（手順1）を行い、次にIP電話機能付き ADSL モデム側の設定（手順2）を行います。

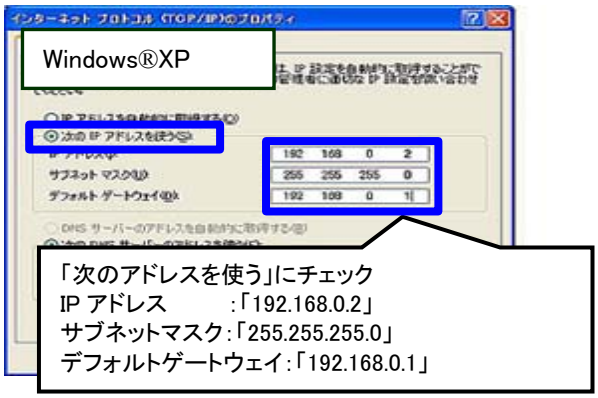
（手順 1）パソコン側設定

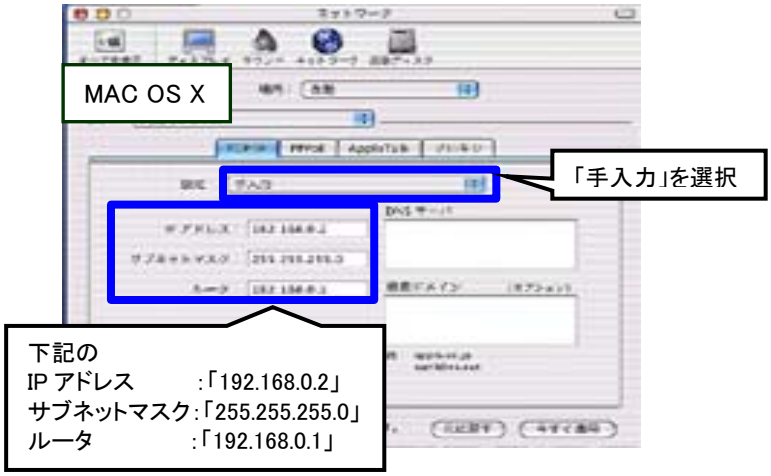
① 第 2 章を参照し、「TCP/IP」プロパティを開きます。
② 「IP アドレスを自動的に取得」→「IP アドレスを指定」にチェックボックスを変更し、「IP アドレス」“192.168.0.2”「サブネット」“255.255.255.0”「デフォルトゲートウェイ」（ルータ）“192.168.0.1”を入力し、OK ボタンで設定内容を保存後、パソコンの再起動を行ってください。









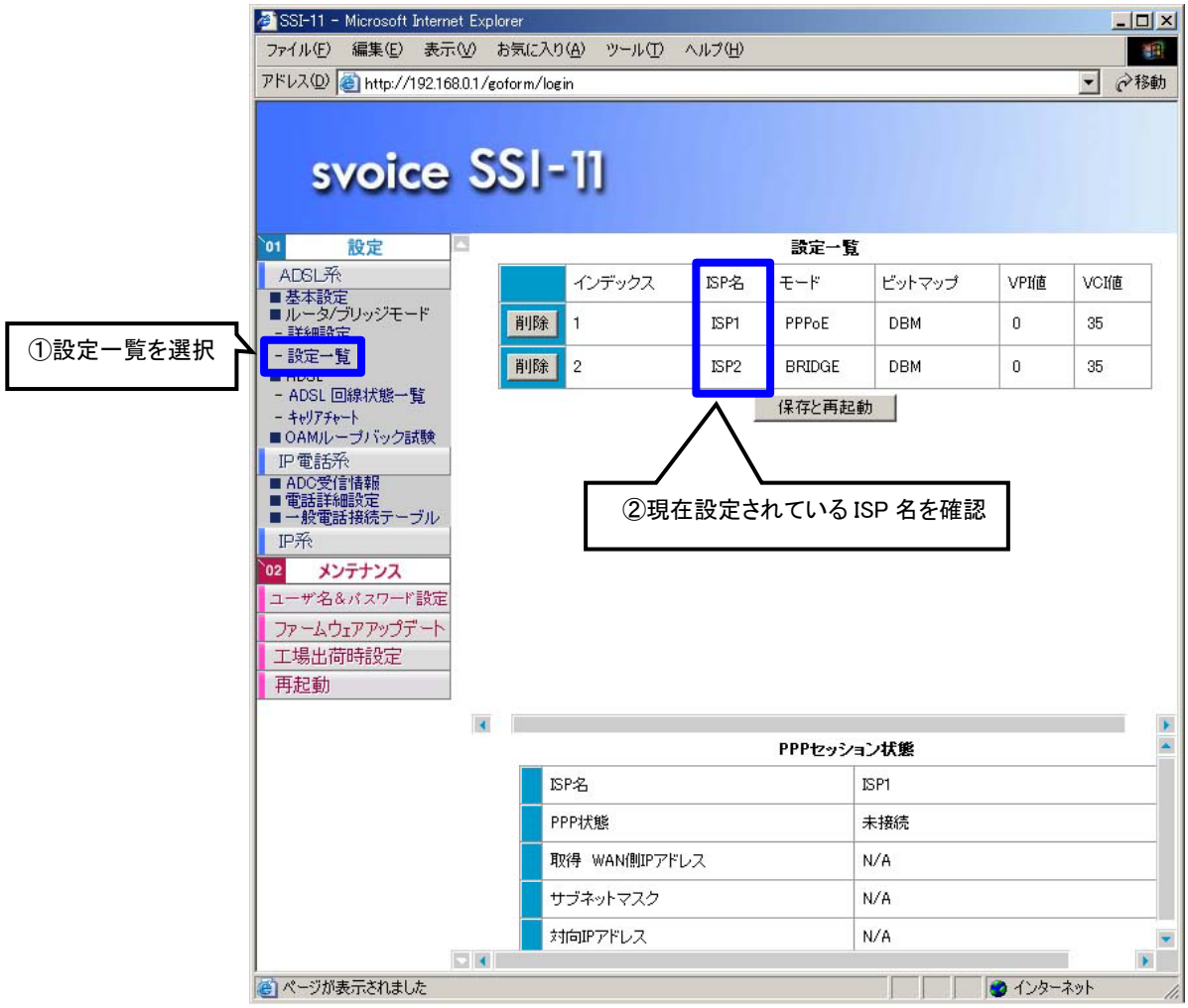


本装置の「Ethernet 側 IP アドレス設定」を変更する場合は、パソコン側の IP アドレスも本装置と同じネットワーク内に設定してください。

⚠ 注　意　本装置の Ethernet 側 IP アドレスにグローバル IP アドレスを絶対に設定しないでください。もし本装置 の Ethernet 側 IP アドレスにグローバル IP アドレスを設定した場合、本装置にアクセス出来なくなり、また実際にこのグローバル IP アドレスを使用している他の方もアクセス出来なくなる可能性があります。

（手順 2）IP 電話機能付き ADSL モデム側の設定

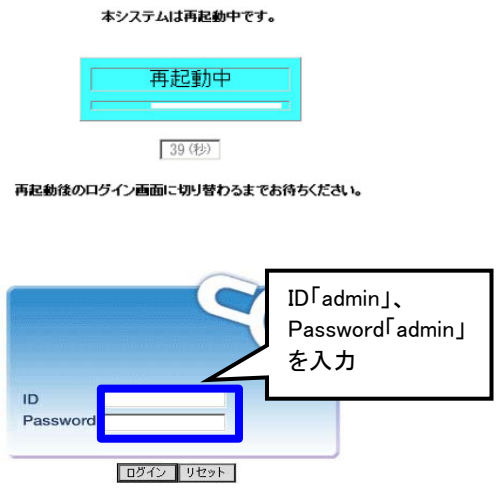
①Web 管理画面にログインし、管理画面左側の操作メニューにある 「ADSL 系」フォルダを開き、「設定一覧」を選択します。
②設定一覧の「ISP 名」で使用されている ISP を確認します。
ISP 名は8つまで登録可能です。



③詳細設定の画面に移ります。

【登録】
「登録」ボタンをクリックすると入力した ISP 情報が登録されます。
設定一覧の画面を確認すると登録した ISP が反映されます。

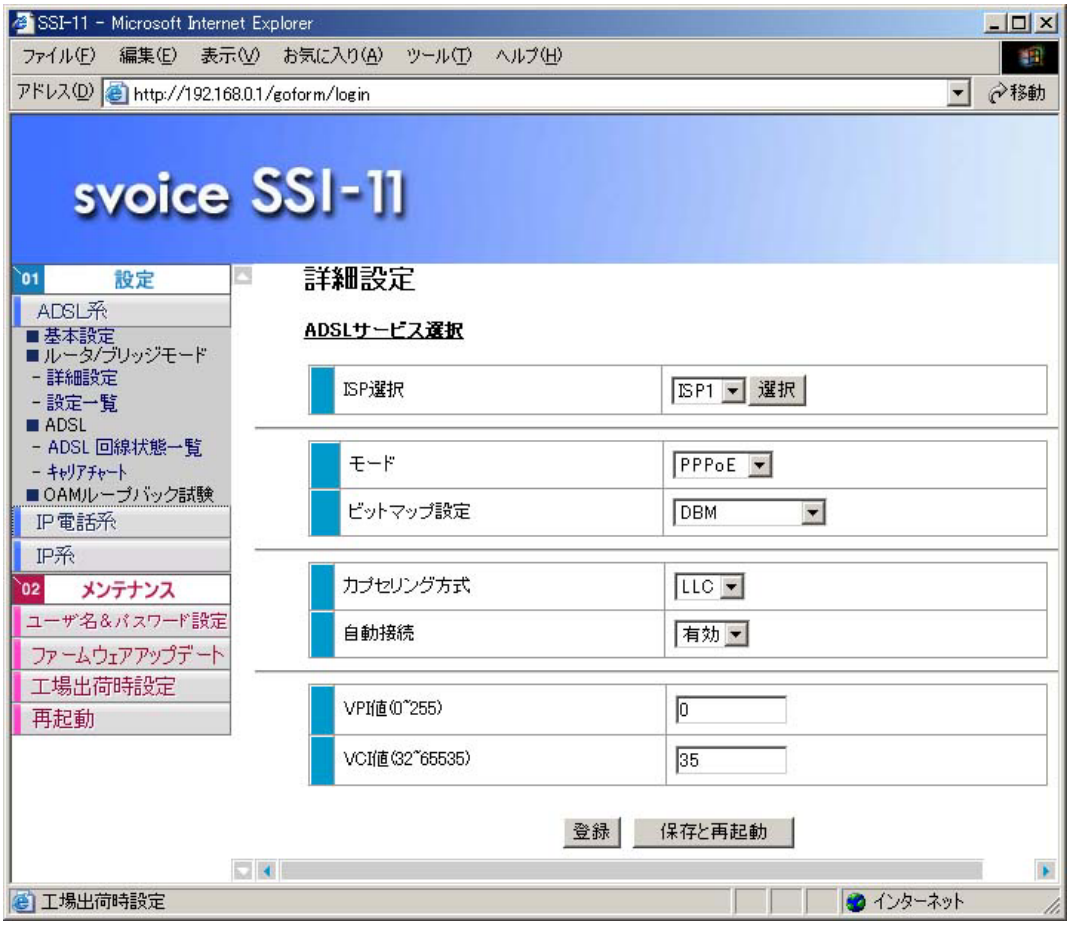
【選択した ISP の適応】
保存と再起動」をクリックすると選択した ISP をデフォルトにします。
クリック後保存および再起動を行います。
（※クリックした後、再起動開始まで3-5秒程かかります。）



④項目を入力後「保存と再起動」ボタンを選択し、保存および再起動を行います。
再起動後ログイン画面が表示され、ADSL ランプが点灯されればブリッジモードの設定は完了です。

HOT!! 現在使用中 ISP の登録の変更を行うと下記のようなメッセージが表示され、設定の変更はできません。

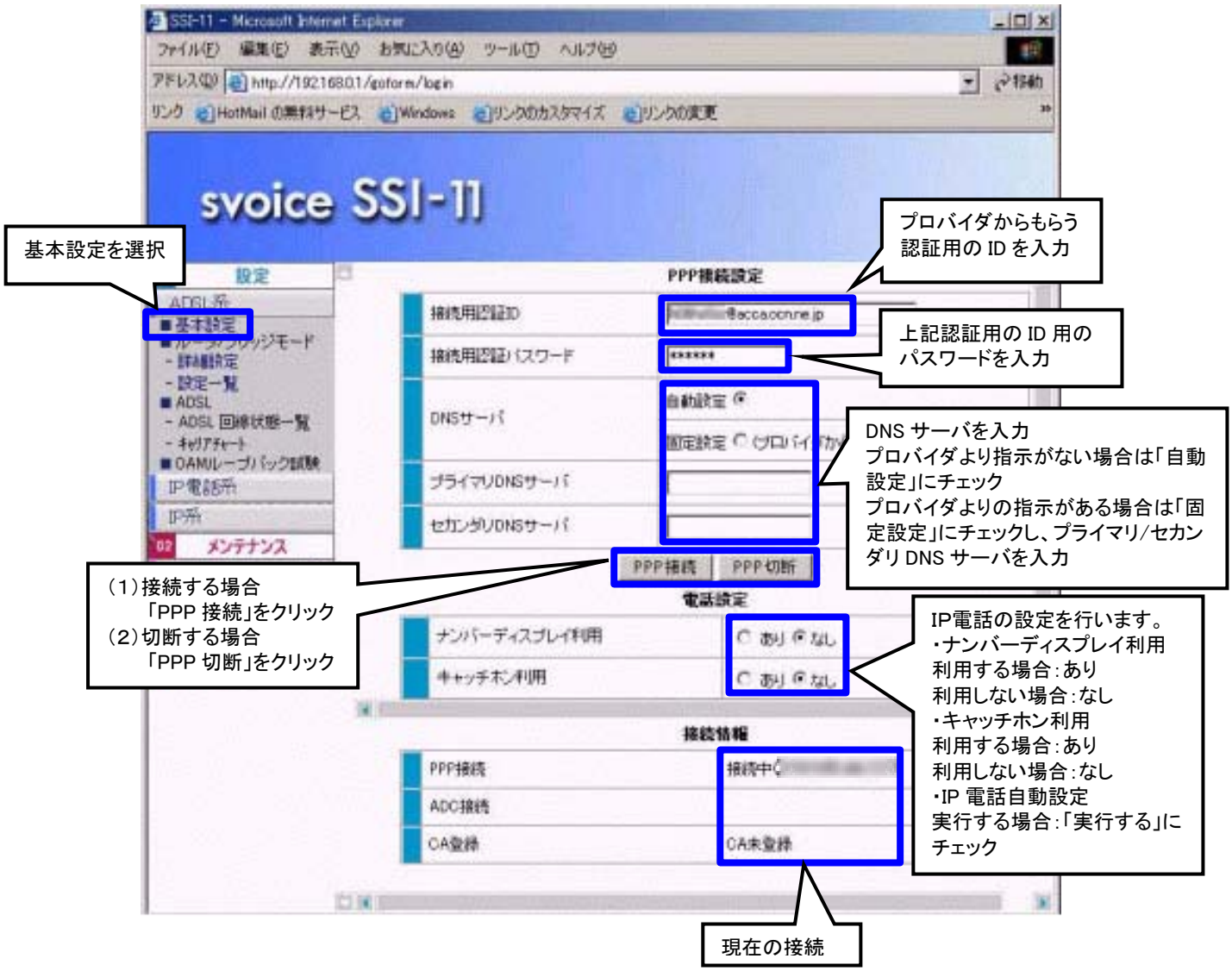
HOT!!ブリッジモード接続を選択した場合、Web 管理画面左側のメニューの内容が下記のように変わります。
追加機能として「MAC フィルタリング設定」が設定できるようになります。他の機能に関しての設定は同じです。



IP 系画面の説明および設定手順

4-1. 基本設定

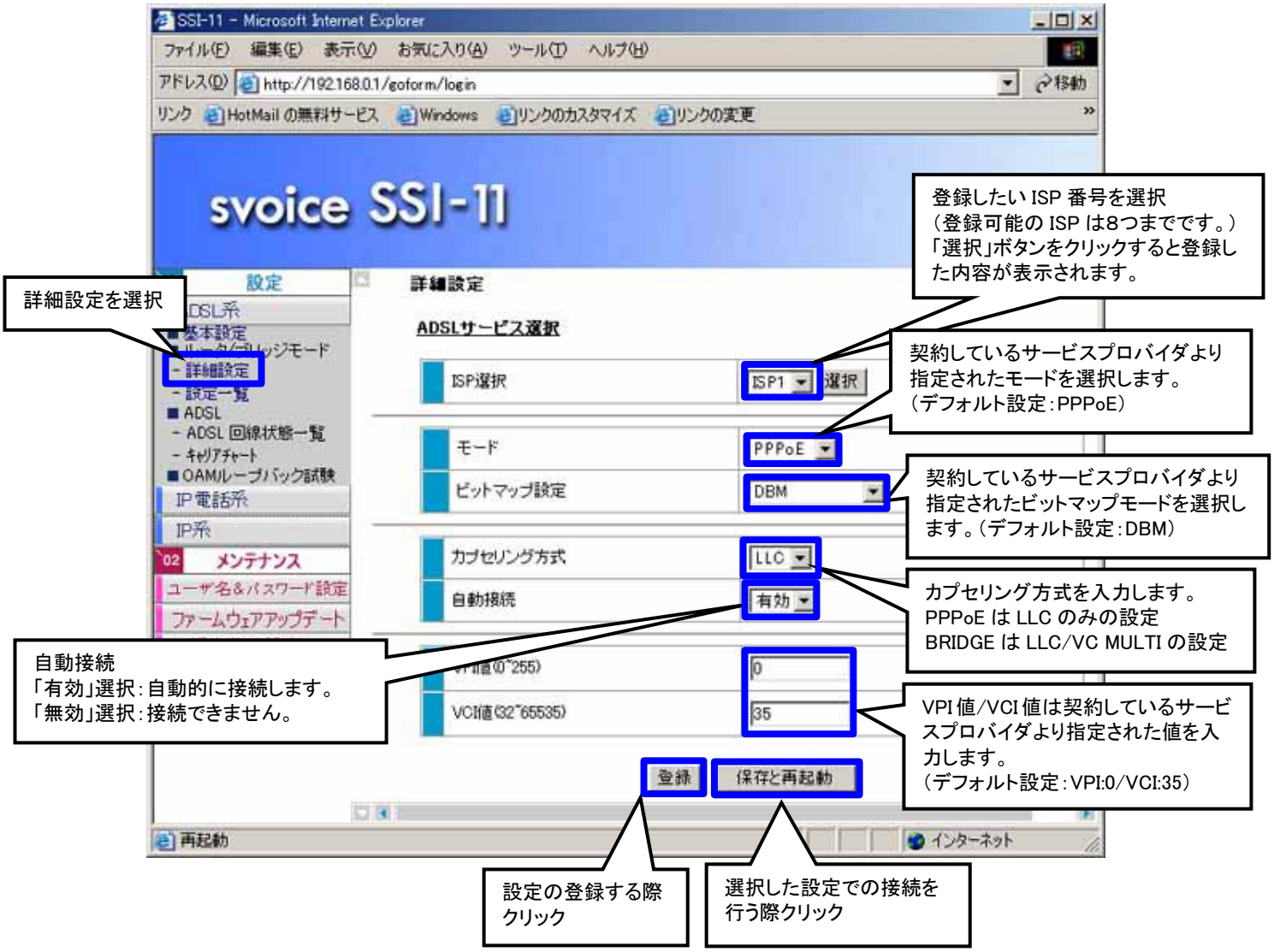
ログインするとこの画面が表示されます。（もしくは、左メニューから「ADSL 系」の「基本設定」をクリックします。）
この画面にて必要な情報を入力し、ネットワークに接続します。



※ DNS サーバを「自動設定」にチェックしている場合は、プライマリ／セカンダリ DNS サーバを入力する必要はありません。 尚、PPP 接続後に手動でブラウザの更新をするか別ページを表示してから本ページに戻ると、取得したアドレスを見ることができます。

4-2. 詳細設定

このページでは複数の接続先サービスプロバイダを登録することができ、その中の1つのサービスプロバイダと接続することができます。2つ以上のサービスプロバイダとご契約されているお客様は以下の設定手順に従い登録作業を行うことができます。



4-3. 設定一覧

下記の画面で詳細設定画面にて登録した内容を確認することができます。

PPP セッション状態について

- ISP 名：現在接続中の ISP の番号を表示します。
- PPP 状態：現在の PPP 接続状態を表示します。
- 取得 WAN 側 IP アドレス：ネットワークが取得している IP アドレスを表示します。
- サブネットマスク：サブネットマスクを表示します。
- 対向 IP アドレス：対向 IP アドレスを表示します。

4-4. ADSL 回線状態一覧

現在の ADSL の回線状態を表示します。

ADSL 回線状態一覧をクリック

伝送方式

ADSL 回線状態遷移 ・・・・ ADSL リンクアップ/トレーニング中/ADSL リンクダウンと表示されます。
データバスタイプ ・・・・・・・・ Interleaved と表示されます。
オペレーションモード ・・・・ G.DMT と表示されます。
現在のビットマップ ・・・・・・ ADSL 接続に使用されているビットマップ方式を表示します。

回線状態

ADSL リンク速度 ・・・・・・・・ 上りと下りの回線速度を表示します。(実行速度(スループット)とは異なります)
SNR ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 信号と雑音との比。数値が高いほど雑音による影響は受けにくいです。
通常は 6～8dB 程度。
インタリーブディレイ ・・ インパルスノイズ対策としてデータを送受信する間隔を表示します。

回線警報

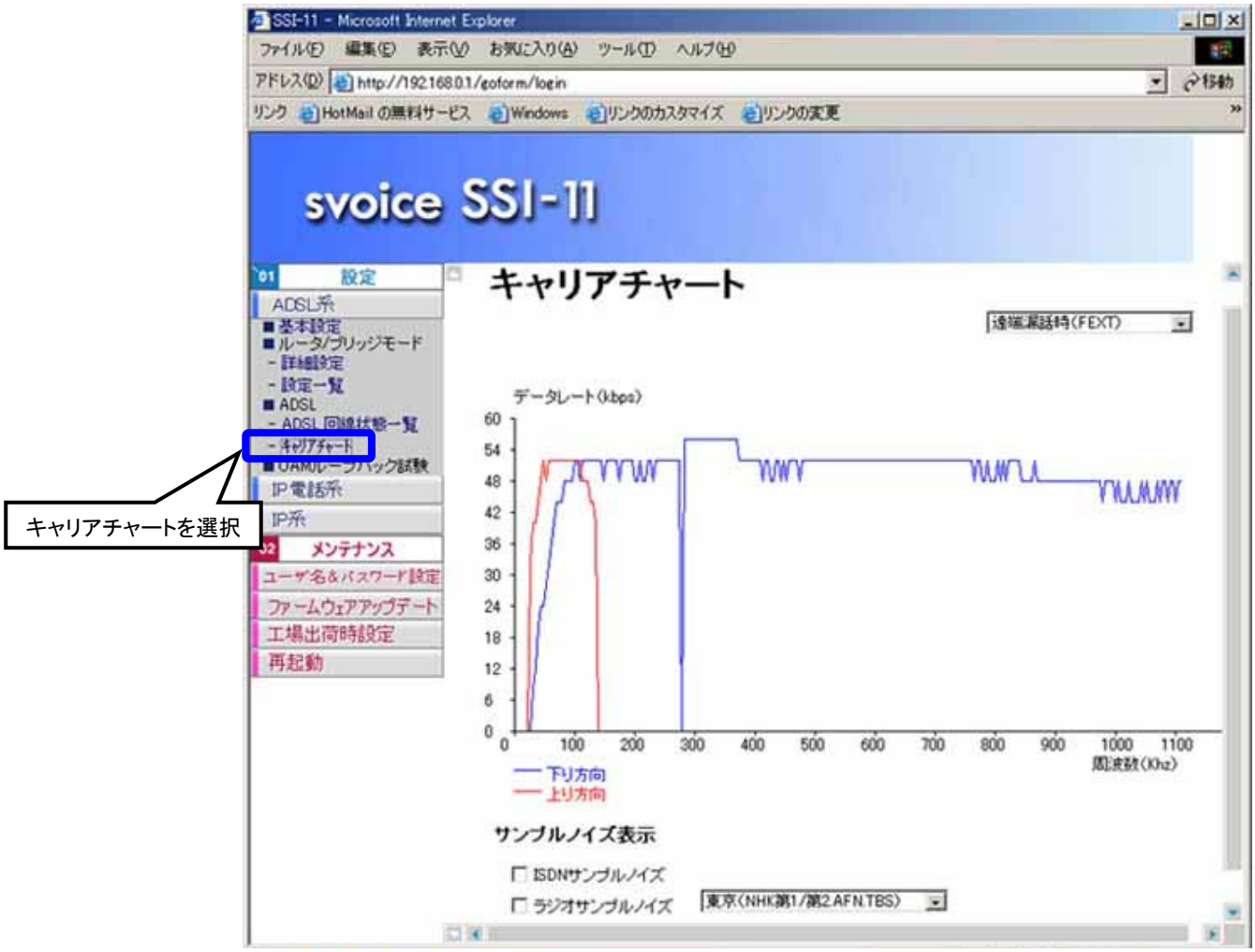
本装置より送信(上り方向)したデータと本装置にて受信(下り方向)したデータのエラー数を表示します。
ADSL レイヤ FEC(エラー訂正数)・エラー訂正のカウントを表示します。
ATM レイヤ HEC(ヘッダエラー数)・ATM レイヤのヘッダエラー発生のカウントを表示します。

送受信フレーム数

送受信したフレーム数を表示します。
※カウントクリア:(回線警報の ADSL レイヤ(FEC)、ATM レイヤ(HEC)及び送受信フレーム数のカウントをクリアします。

4-5. キャリアチャート

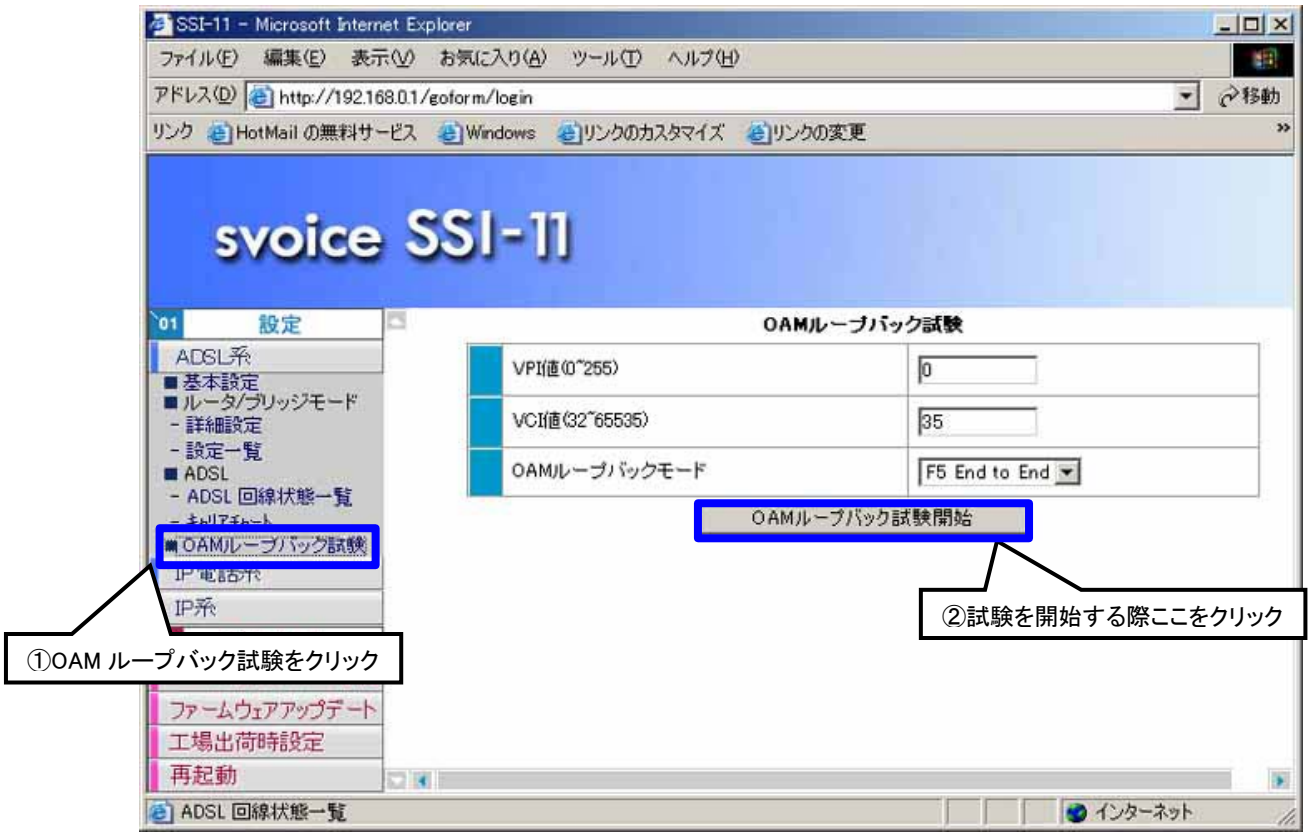
キャリアチャートを表示します。
キャリアチャートで、どこの周波数がどれ位のデータを伝送しているのかを知ることができます。



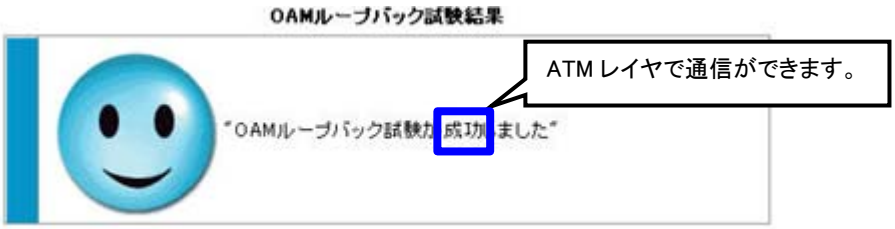
ADSL 接続のビットマップ方式が、
DBM/DBM_OL の場合は、遠端漏話時（FEXT），近端漏話時（NEXT）でキャリアチャートを表示します。
FBM/FBM_OL の場合は、遠端漏話時（FEXT），近端漏話時（NEXT）の項目は表示されません。

4-6. OAM ループバック試験

OAM ループバック試験を行い ATM レイヤでの通信が行われているかを確認します。



【試験結果表示例】



【試験結果表示例】

第5章　画面詳細(IP 電話系)

5-1. IP 電話の基本設定

(1). IP 電話機能の設定を始める前に

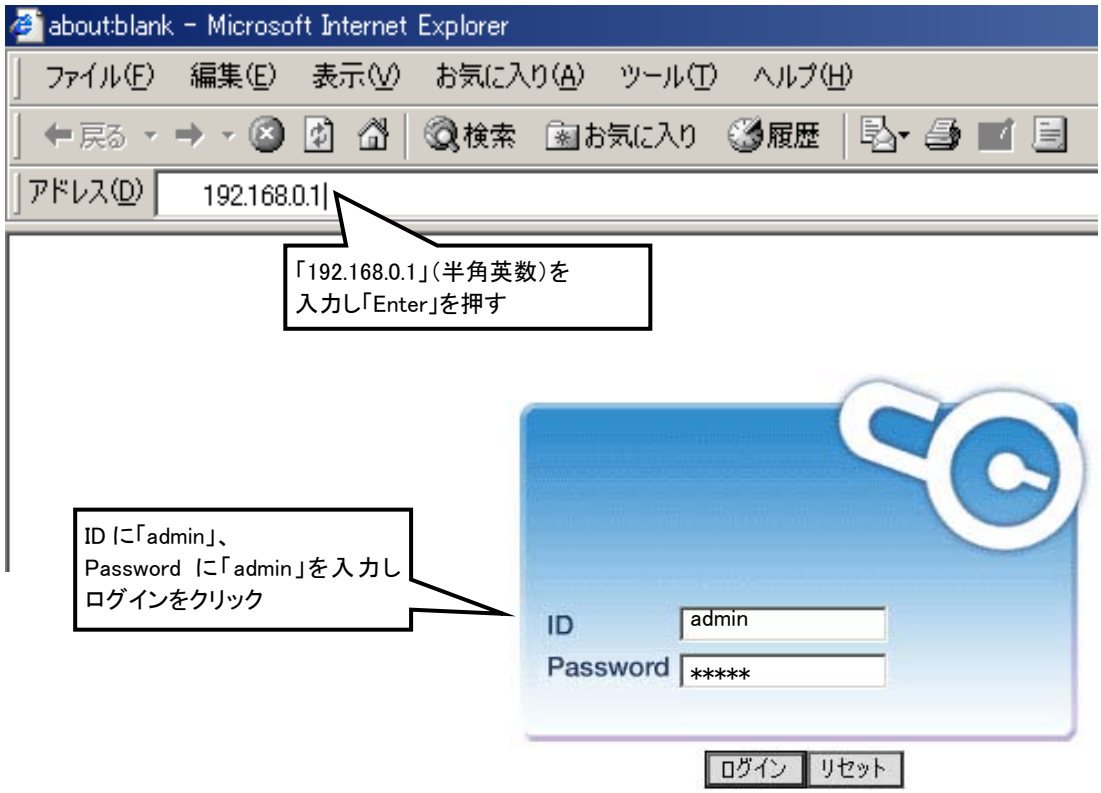
IP 電話の設定を始めるためには、ADSL 回線が接続されていることが必要です。「第 3 章 IP 電話機能付き ADSL モデムの設定」(19 ページ)を行ってから、IP 電話の設定を始めてください。

⚠ 注意　ADSL 系フォルダ内『詳細設定』において、「ADSL サービス選択」の選択を“BRIDGE”にしている場合には、IP 電話機能を使うことはできません。

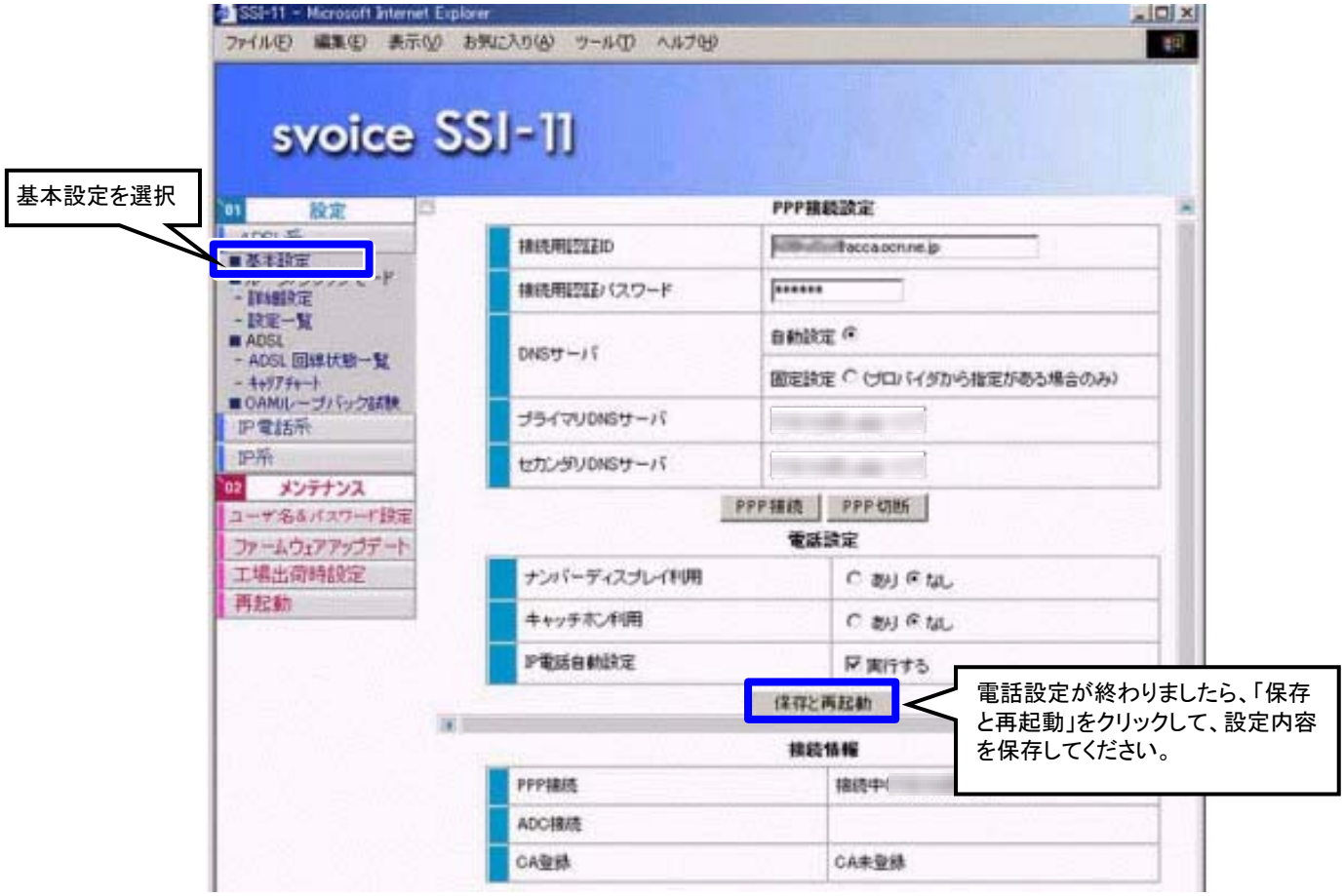
⚠ 注意　以下(2).IP 電話機能の設定方法に記載されている項目以外の設定は変更しないでください。

(2). IP 電話機能の設定方法

① 「3-3-1 IP アドレスの確認」(25 ページ)を参照の上、パソコンの IP アドレスを確認してください。
Web ブラウザを起動し、アドレスバーに「192.168.0.1」(半角英数)と入力し「Enter」キーを押してください。



② IP 電話を使用する際の登録設定は、Web 画面左側にある『ADSL 系』フォルダの『基本設定』をクリックしてください。画面の下部に「電話設定」画面が表示されます。「IP 電話自動設定」項目の『実行する』にチェックをすることで、IP 電話に関する登録設定を自動的に実行しますので、お客様による IP 電話サーバへの登録設定は不要となります。



ナンバー・ディスプレイ利用	ナンバー・ディスプレイ機能のあり/なしを指定します。	デフォルト：なし
キャッチホン利用	キャッチホン機能のあり/なしを指定します。	デフォルト：なし
IP 電話自動設定	IP 電話に関する登録設定を自動的に実行します。	デフォルト：実行する

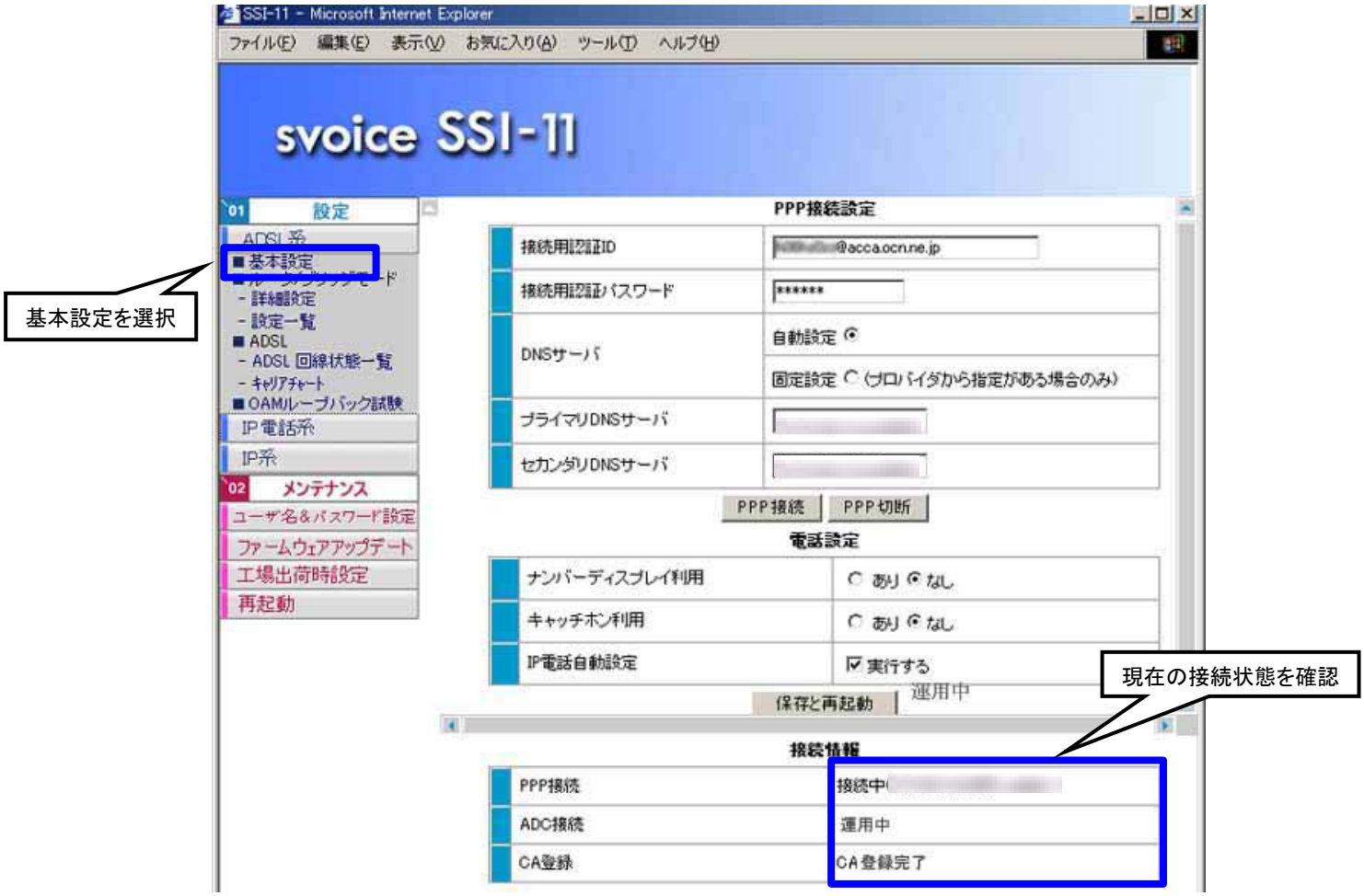
③設定変更後は、本装置が再起動します。

④再起動が終了しログイン画面を表示させたら、ADC ランプと CA ランプの点灯を確認します。IP 電話通話を行うためには、プロバイダの ADS 機能センターへの接続により IP 電話サーバへ登録されます。通常、IP ネットワークへの接続が正常にできている場合、数分で登録されます。登録された結果は、正面パネルの ADC ランプ点灯と CA ランプが点灯することで確認することが可能です。また、Web 画面上の『基本設定』の『接続情報』から接続状態を確認することも可能です。
背面パネルの「TEL」ポートに接続した電話機を使用して、IP 電話通話が可能になります。

⚠ 注意　CA ランプが消灯や点滅したままの場合は、再度『基本設定』画面から「保存と再起動」を押してください。その後も CA ランプが消灯や点滅する場合は、ADS 機能センターへの接続エラーや IP 電話サーバダウン等が考えられますので、ご契約のプロバイダへお問い合わせください。

(3). 接続情報の確認

『ADSL 系』フォルダの『基本設定』をクリックしてください。『PPP 接続』、『ADC 接続』、『CA 登録』の現在の接続状態情報が表示されます。



『ADC 接続』表示のご説明

① 正常に接続が完了すると、WEB 画面は『運用中』と表示され、ADC ランプは『点灯』します。

② 正常な接続の流れ

WEB 画面 ：『ブランク』⇒『通信中』⇒『PSTN 認証成功』⇒『通信中』 ⇒『運用中』

通信中 ： センター側と通信している状態
運用中 ： IP 電話通信に必要な情報を取得完了している状態
PSTN 認証成功 ： PSTN 回線での認証成功を通知表示
回線抜け ： PSTN 回線が抜けている状態
通信リトライ中 1 ： PSTN 発信が完了せず、次回の発信まで待機している状態
通信リトライ中 2 ： IP 発信が完了せず、次回の発信まで待機している状態
強制停止中 ： 認証失敗や機器の異常、またはセンター側から運用停止の指示を受信した状態
優先通話 ： 通信中に電話機をオフフックした状態の表示
再起動待ち(※) ： 機器のファームウェア更新等により、ダウンロードが完了した状態

※ 『再起動待ち』の表示がされましたら、お客様により『再起動』または、『電源 OFF/ON』をお願いします。

『CA 登録』表示のご説明

① 正常に登録が完了すると、WEB 画面は『CA 登録完了』と表示され、CA ランプは『点灯』します。

② 正常な登録の流れ

WEB 画面 ：『CA 未登録』⇒『CA 登録中』⇒『CA 登録完了』

CA 未登録 ： CA の ID とパスワードが未登録
CA 登録中 ： CA 登録の実行中
CA 登録完了 ： CA に登録が完了され、IP 電話が可能である状態
CA 無応答 ： CA からの応答が無い状態
CA サーバーエラー ： CA サーバのエラー状態
ネットワークエラー ： ネットワーク状態の問題により通信不可の状態
認証失敗 ： CA の ID とパスワードの認証に失敗した状態

⚠ 注意 ADC 接続及び CA 登録は、PPP 接続が完了した後、ADC 接続から CA 登録を実行します。ADC 接続及び CA 登録が実行されない場合は、再度 PPP 接続をご確認ください。

⚠ 注意 CA 登録の流れで、『CA 登録中』の表示がされない場合がありますが、本装置の故障ではございません。
※ CA 登録が 10 秒以内に完了する場合には、表示確認はされません。

⚠ 注意 ダウンロードが完了しますと、同時に「CA」と「ADC」の LED ランプが点滅しますが、交互に点滅する場合もございます。

(4). ADS 機能の LED ランプ動作

IP 電話通信を実行する前に、ADS 機能センターから IP 電話情報を端末が取得する必要があります。

ADS 機能通信状態表示

ADS 機能の通話状態	ランプのつき方	
	CA ランプ	ADC ランプ
運用停止受信	消灯	消灯
通信中	消灯又は点灯（緑）	点滅（緑）
通信リトライ中	消灯又は点灯（緑）	点滅（緑）
ダウンロード中	点灯（緑）	点滅（緑）
正常終了	点灯（緑）	点灯（緑）
ダウンロード完了（※）	点滅（緑）	点滅（緑）

※ ダウンロードが完了すると、Web 管理画面に『再起動待ち』が表示されます。
その場合は、Web 管理画面から『再起動』を行うか、本装置電源の『OFF/ON』を行ってください。

5-2. IP 電話機能の操作

本装置背面の「TEL」ポートに接続した電話機から利用します。

(1). 電話のかけ方

「TEL」ポートに接続した電話機の受話器を上げて、下記の図に従ってダイヤルしてください。

1. 市内通話の場合

市内通話の場合
（ IP 電話発信 ）

従来のダイヤル方法と同じです。
例： 3658- xxxx （x は数字）
通常の市内電話をかける要領で、市内局番からダイヤルしてください。

2. 市外通話の場合

市外通話の場合
（ IP 電話発信 ）

従来のダイヤル方法と同じです。
例： 04x-xxx- xxxx （x は数字）
通常の電話をかける要領で、市外局番からダイヤルしてください。

3. 国際通話の場合

国際通話の場合
（ IP 電話発信 ）

従来のダイヤル方法と同じです。
例： 010 - xxx - xxxx、0033 - 010 - xxxx （ x は数字 ）
“010”および“0033-010”で始まる国際通話ダイヤルは、IP 電話発信の NTT コミュニケーションズ国際通話となります。前述以外の事業者識別番号をダイヤルした場合は、一般電話回線への発信となります。

⚠ 注意

3. 国際通話の場合について、
IP 電話発信時、本装置から約 24 秒経過しても応答がない場合は、話中音（ビジートーン）が発生します。

4. 携帯電話へ発信する場合

携帯電話へ発信する場合
（ IP 電話発信 ）

従来のダイヤル方法と同じです。
例： 090 - xxxx - xxxx （ x は数字 ）
通常の携帯電話をかける要領でダイヤルしてください。

5. 一般電話回線を利用しての発信の場合

一般電話網へ発信する場合
（ 一般電話発信 ）

先に“0000”をダイヤルし通話先の電話番号をダイヤルします。
例： 0000 - 03x - xxx - xxxx （ x は数字 ）
意図的に一般電話発信をしたい場合は、“0000”+電話番号でダイヤルしてください。
＊一般電話回線を利用する場合の発信は音声ガイダンスサービスを受ける場合など、電話で確実にやり取りしたい方にお勧めです。

6. 国内移動体(PHS)へ発信する場合

国際移動体 PHS へ発信の場合
（ 一般電話発信 ）

従来のダイヤル方法と同じです。
例：070 – xxxx – xxxx （x は数字）
一般電話回線への発信となります。

7. 184/186 による一般電話回線を利用しての発信の場合

一般電話網へ 184/186 発信する場合
（ 一般電話発信 ）

意図的に“184/186”をつけて一般電話発信をしたい場合は、“0000”＋“184/186” ＋ 電話番号でダイヤルしてください。
例： 0000 - 184/186- 03x - xxx - xxxx (x は数字)
＊ “0000” + “184/186”の組み合わせによる一般電話発信は、必ず“0000”を先にダイヤルしてください。“0000”を後にダイヤルすると発信不可となります。

(2). 電話の受け方

従来の電話と同じです。
「TEL」ポートに接続した電話機のベルが鳴ったら、受話器を持ち上げ、通話を開始してください。

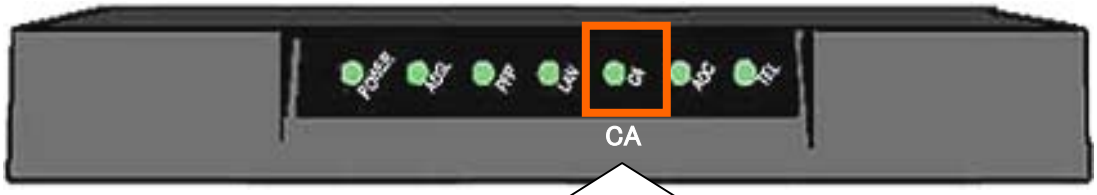
※本装置は、ナンバー・ディスプレイ対応電話機に対応しています。
ナンバー・ディスプレイ契約回線をご利用になっている場合は、ナンバー・ディスプレイ対応電話機を使用することで、IP 電話発信者の電話番号を表示できます。ナンバー・ディスプレイ対応電話機をご利用になる場合には、45 ページの画面を参照して、『ナンバー・ディスプレイ利用』を『あり』にしてください。電話機にも同様の設定が必要な場合もありますので、電話機の取扱説明書もご確認ください。電話機によっては、ナンバー・ディスプレイ機能を利用して、特定番号からの着信拒否と番号非通知の着信拒否を行うことが可能です。詳しくは電話機の取扱説明書をご確認ください。

⚠ 注意　お客様の一般電話回線がナンバー・ディスプレイ契約回線ではない場合、電話機のナンバー・ディスプレイ利用を『あり』にすると、一般電話回線から正しく着信できなくなることがあります。そのような場合には、本装置および電話機のナンバー・ディスプレイ利用を『なし』にしてご使用ください。

(3). IP 電話通話と一般電話通話について

IP 電話通話は、音声をデータに変換して、IP ネットワークを利用する通話のことです。
一般電話通話とは、従来ご使用されている一般のアナログ電話回線での通話のことです。

通信可能状態表示（CA ランプによる識別）



CA ランプが点滅（緑）もしくは消灯
→IP 電話通話が使用できない状態
（話中音（ビジートーン）が発生します。）
意図的に一般電話への発信が必要な場合、
″0000″+電話番号でダイヤルしてください。

⚠ 注意　IP 電話通話は、CA ランプが点灯していないと使用することができません。

(4). IP 電話通話と一般電話通話との区別

本装置のランプ及びガイダンス音で IP 電話通話なのか一般電話通話なのかを区別することができます。通話の際、本装置の前面ランプと受話器からのガイダンス音をご確認ください。

通信状態表示とガイダンス音

通話状態	ランプのつき方		受話器による ガイダンス音
	CA ランプ	TEL ランプ	
IP 電話サーバ未登録時 （この状態では IP 電話通話のご利用はできません）	消灯	消灯	なし
IP 電話サーバ登録時の待受 （IP 電話通話可能）	点灯（緑）	消灯	なし
IP 電話通話 （IP⇒IP 通話）	点灯（緑）	点灯（緑）	ドミソ
IP 電話通話 （IP⇒一般電話通話）	点灯（緑）	点滅（緑）	ドミ
IP 電話通話 （携帯電話）	点灯（緑）	点滅（緑）	ドミ
一般電話通話 （ﾙｰﾃｨﾝｸﾞﾃｰﾌﾞﾙ使用時）	点灯（緑）	消灯	なし
一般電話通話 （PHS）	点灯（緑）	消灯	なし
プレフィックスダイヤル通話時	点灯（緑）	消灯	なし

※プレフィックスダイヤルとは、「0000」＋「電話番号」をダイヤルして一般電話発信する機能のことです。
※一般電話へ発信されると、「プ、プ、プ、、、」というガイダンス音（セカンドダイヤルトーン：SDT）が聞こえます。（機器電源断時にはガイダンス音は発生致しません。）
※NTT 東日本・西日本が提供する IP 電話対応機器をご利用のお客様に電話をかけたときに、聞こえる、ガイダンス音は IP 電話から IP 電話の通話でも「ドミ」になります。

着信通信状態表示

通話状態	ランプのつき方		
	CA ランプ	TEL ランプ（リンギング中）	TEL ランプ（通話中）
IP 電話着信表示	点灯（緑）	点灯（緑）	点灯（緑）
一般電話着信表示	点灯（緑）	消灯	消灯

(5). 通話種類について

通話種類には、以下のような種類があります。

IP 電話　→　IP 電話通話　：IP 電話サービス加入者同士の通話
IP 電話　→　一般電話通話　：IP 電話サービス加入者以外への通話
一般電話　→　一般電話通話　：特殊番号(110, 119, 0570(ﾅﾋﾞﾀﾞｲﾔﾙ)等)、「0000」発信)

※ IP 電話 → IP 電話通話は、IP ネットワークに接続されているサービス加入者同士の通話です。
※ IP 電話 → 一般電話通話は、サービス加入者以外への通話ですが、IP 電話通話を行います。
この場合、IP ネットワーク上にある IP 電話→一般電話ゲートウェイ(IP ネットワークと一般電話回線を接続するためのサーバ)を利用して通話します。
※ 一般電話 → 一般電話通話は、通常の一般電話回線を利用した通話のことで、特殊番号などに発信する場合に使用します。本装置はこれらの電話番号を自動的に判別し、一般電話回線へ発信します。
また、「0000」を電話番号に先立ってダイヤルすることで、手動で一般電話回線へ発信することも可能です(プリフィックスダイヤル機能)。

(6). 通話中の電話着信について

通話状態	第 3 者の発信種別	音の発生状態	
		通話中の割り込み音	第 3 者からの音
IP 電話通話中	IP 電話発信	割り込み音なし	話中音
IP 電話通話中	一般電話発信	割り込み音あり(※1)	呼出し音
一般電話通話中	IP 電話発信	割り込み音なし	話中音
一般電話通話中	一般電話発信	割り込み音あり / なし (※2)	呼出し音/話中音

※1 割り込み音が鳴った後、受話器を置くと再度電話が鳴ります。
受話器をあげると第 3 者と通話可能ですが、通話中の方とは通話が切断されます。
※2 キャッチホン契約をされている場合のみ、「割り込み音あり」、「呼出し音」となります。

⚠ 注意　IP 電話通話中に一般電話発信で割り込み音が発生しない場合は、『5-3(2). 電話詳細設定(57 ページ)』の「通信中着信通知音」設定内容をご確認ください。

IP 電話サーバ(CA:コールエージェント)について

IP 電話サーバは、IP ネットワーク上で電話交換機の役割をします。
IP ネットワーク上での識別番号(IP アドレス)は、必ずしも固定ではありません。そのため、IP 電話サーバはお客様の IP 電話番号と IP アドレスを関連付けるデータベースを保持しています。
IP 電話を利用するときには、本装置が IP 電話サーバに対して発信先 IP 電話番号を通知し、IP 電話サーバが発信先の IP アドレスを検索して仲介を行います。IP 電話サーバは、CA(コールエージェント)とも言われています。

ADS 機能センターについて

ADS 機能センターは、お客様の端末と一般回線及び IP 網経由でネットワーク側サーバ類と接続しており、お客様の電話番号情報による認証の後、IP 電話通信に必要な情報を取得します。
IP 電話サーバに登録する為の情報や端末が必要とする最新データを自動的に実行します。

一般電話について

本マニュアルでは、IP 電話(通話)に対して、従来ご利用になられている電話のことを一般電話(通話)としています。

(7). IP 電話サービスご利用にあたっての注意事項

IP 電話サービスを利用されるにあたって、下記についてご注意ください。

IP 電話サービスに障害が発生した場合は、IP 電話通話はできません。
一般電話自動再発信の設定(「5-3. IP 電話機能のその他の設定画面」の「(2)電話詳細設定(57 ページ参照)」)が有効になっている場合、受話器から『ピピ』のガイダンス音が発生し、自動的に一般電話のご利用となります 尚、無効に設定している場合は、『ピピ』のガイダンス音は発生せず、話中音(ビジートーン)が発生します。
エラーの内容は、表示ランプと識別音にて確認できます。

エラー状態表示(正面ランプとエラー音)

エラー状態	ランプのつき方		受話器による ガイダンス音	一般電話自動再発信の設定※
	CA ランプ	TEL ランプ		
IP 電話サーバシステムエラー、接続障害など	点滅(緑)	消灯	ピピ	有効
	点灯(緑)	消灯	なし	無効

⚠ 注意 IP 電話サービスに障害が発生した場合は、IP 電話で電話をかけることはできません。
その際、受話器から『ピピ』のガイダンス音が発生する場合は、自動的に一般電話のご利用となります。『ピピ』のガイダンス音が発生しない場合は、話中音(ビジートーン)が発生します。

⚠ 注意 停電やご利用の本装置が故障の時は、一般電話のみの発着信となります。

⚠ 注意 ダイヤル後、受話器からピピの音が出ている場合は、一般電話発信になっています。IP 発信にするためには、もう一度設定の情報をご確認ください。

⚠ 注意 FAX が送れない場合は、“0000”+相手先電話番号をダイヤルして一般電話でご利用ください。

⚠ 注意 電話をかける相手が非通知の着信を拒否している場合、“0000”+「186」+相手先電話番号をダイヤルして一般電話でご利用ください。

⚠ 注意 PB 信号を使うサービス(銀行の残高照会等)がご利用できない場合、“0000”+相手先電話番号をダイヤルして一般電話でご利用ください。

⚠ 注意 本装置のリセット中(保存と再起動中)は、IP 電話通信をご利用いただけませんのでご注意ください。
※一般電話通信は、通常通りにご利用頂けます。

⚠ 注意 本装置は、お客様の電話回線を自動的に認識する機能が搭載されています。
本機能が正しく動作するには、電話機の PB(プッシュボタン)/DP(ダイヤルパルス)設定が正常に設定されていることが前提となります。その為、本装置の電源投入前に一般電話への発信が可能であるかご確認してください。

⚠ 注意 お客様の電話回線のダイヤル送出方式が DP(ダイヤルパルス)の場合は、一般電話発信時及び受話器を上げますと“カチカチ”と本装置から音が発生する装置がございます。
この音は不良ではございません。DP 送出される為に発生する音です。

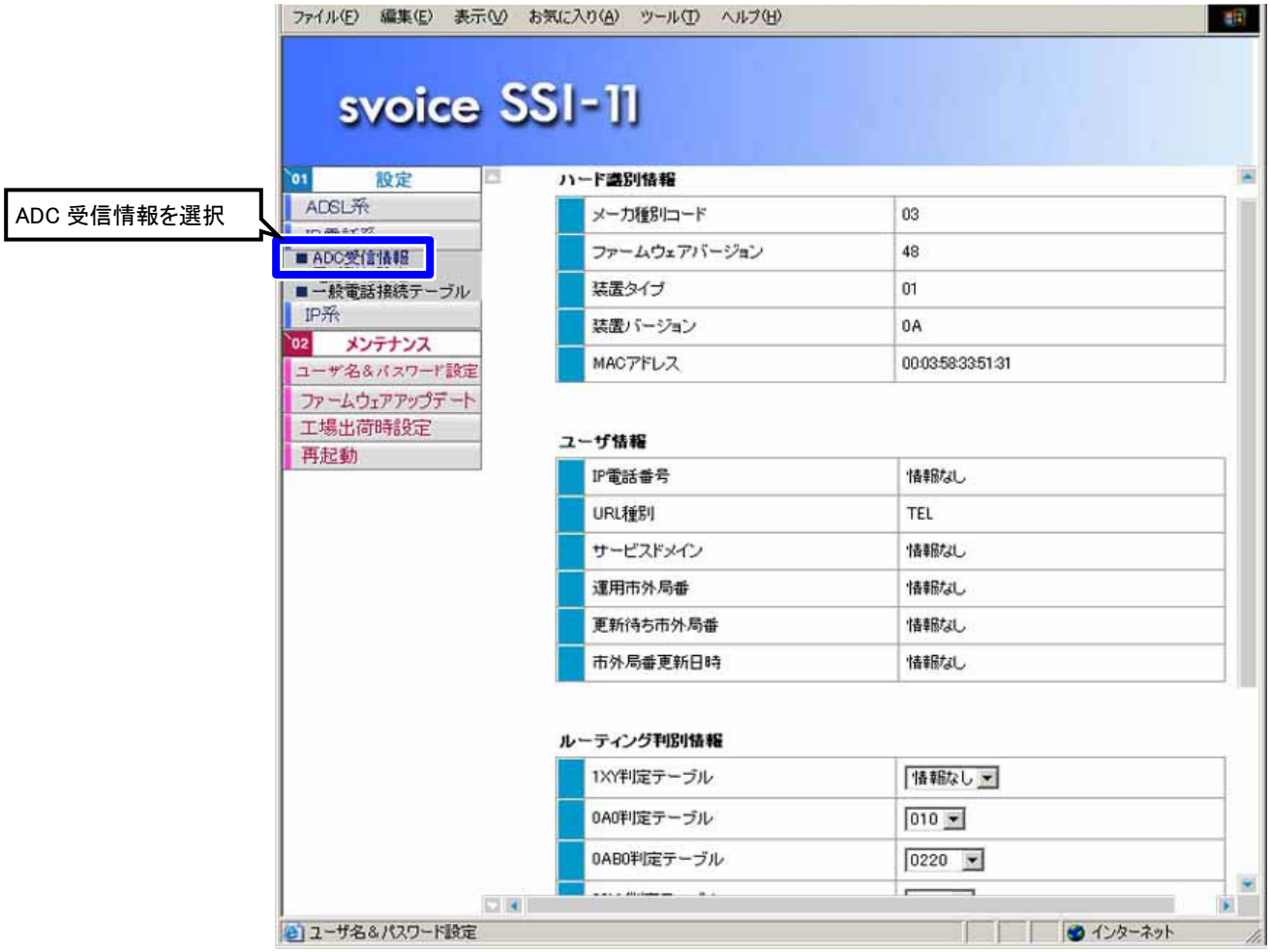
⚠ 注意 誤ダイヤル等でかけ直しをされる際は、TEL ランプが一度消灯するまで確実に受話器を置いてからダイヤルしてください(約 3 秒)。一度消灯せずにダイヤルすると一般電話発信と なることがあります。

⚠ 注意	本装置では、“Arcstar Internet FAX”の無鳴動着信がご利用頂けません。 “Arcstar Internet FAX”の無鳴動着信をご使用する場合には、当端末機を外し、直接 Arcstar Internet FAX 対応 FAX 機と電話線をつないでご使用ください。
⚠ 注意	お客様の環境によっては、本装置では“コミスタ”の着信メロディのダウンロードをご利用頂けない場合があります。ご使用する場合には、本装置を外し、直接コミスタ対応電話機と電話線をつなぎ、ご使用ください。
⚠ 注意	本装置では、IP 電話通話中に“L モード”のメッセージ到着お知らせ機能は利用できません。
⚠ 注意	お客様の環境によっては、本装置では“キャッチホンⅡ”をご利用頂けない場合があります。 →“キャッチホンⅡ”をご契約されている場合、本装置では受話器をあげてもメッセージありを通知するお知らせ音は聞こえません。
⚠ 注意	本装置で “NTT ナンバーディスプレイアダプタ 20”の機器を使用すると、相手先電話番号が表示されません。
⚠ 注意	本装置は、IP 電話と ACR(LCR)機能を同時に利用することはできません。 ACR(LCR)機能付きアダプタをご使用の場合は、ACR(LCR)機能付きアダプタのご使用を控えて頂くか、アダプタの電源を切ってご使用ください。 また、ACR(LCR)機能付き電話機をご使用の場合は、ACR(LCR)機能の設定を OFF にしてご使用ください。
⚠ 注意	本装置は、特殊な電話機をご使用の場合、“着信音”が発生しないことがあります。 着信音が発生しない場合は、電話機の機能に『着信感度』等の設定があれば、High モードもしくは高感度に設定してください。 詳しくは、電話機の取扱説明書をご参照ください。
⚠ 注意	本装置は、特殊な電話機をご使用の場合、“ナンバーディスプレイ”が表示されないことがあります。
⚠ 注意	2 配分岐アダプタなどを使用しますと、ADS 機能センターへの発信や CA 登録がされず、IP 電話が利用できない場合がございます。また、ADS 機能センターと CA 登録が完了した後、2 配分岐アダプタなどを使用しますと、IP 電話ができず端末が正常に動作しない恐れがありますので、ご使用しないでください。
⚠ 注意	本装置は、ダイヤル後即発信する機能を搭載されておりません。 ダイヤル後に「*」や「＃」を実行した場合、話中音(ビジートーン)が発生します。
⚠ 注意	本装置は、お客様の電話回線種類を自動的に選択する機能が搭載されています。初期設定のみ「自動」と表示されていますが、その後は、自動で選択及び設定された回線種類(PB/DP)が表示されます。
⚠ 注意	本装置の「PSTN」ポートを抜き差し後、10 秒以内に一般電話へ発信すると途中で発信が切断される場合があります。 「PSTN」ポートの抜き差し後は、必ず 10 秒以上お待ちになってから発信してください。
⚠ 注意	本装置の TEL ポートの配下に電話分岐コネクタなどを利用して、複数台の電話機、FAX 機を接続しないでください。
⚠ 注意	本装置の各種 LED ランプが点滅している時に、回線(ADSL 側、PSTN 側)を抜き差しすると、IP 電話ができず端末が正常に動作しない恐れがあります。回線抜き差しをする際は、電源を切ってから、回線(ADSL 側、PSTN 側)抜き差しして下さい。

5-3. IP 電話機能のその他の設定画面

(1). ADC 受信情報

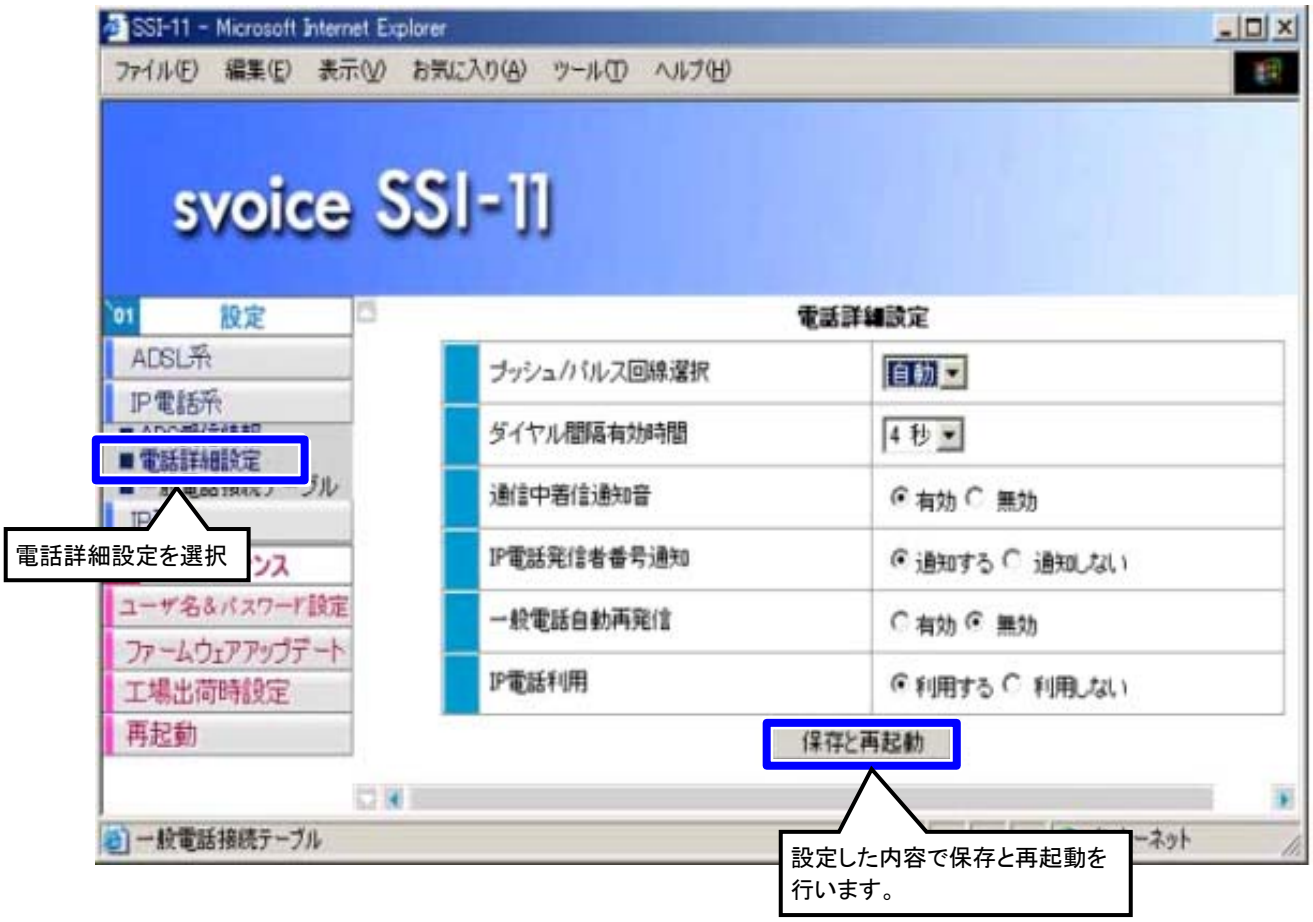
『IP 電話系』フォルダの『ADC 受信情報』をクリックしてください。
『ハード識別情報』、『ユーザ情報』、『ルーティング判別情報』の情報が表示されます。
ADS 機能センターから取得した現在の情報が表示されます。



ハード識別情報	メーカ種別コード	端末メーカの識別コードが表示されます。 例） 03
	ファームウェア バージョン	ファームウェアのバージョンコードが表示されます。 例） 40
	装置タイプ	端末の装置種別コードが表示されます。 例） 01-
	装置バージョン	端末の装置バージョンコードが表示されます。 例） 01
	MAC アドレス	MAC アドレスが表示されます。
ユーザ情報	ユーザ電話番号	IP 電話番号が表示されます。
	URL 種別	SIP プロトコルの使用種類が表示されます。 例） TEL、SIP
	サービスドメイン	サービスドメインが表示されます。 例）ocn.ne.jp
	運用市外局番	ご利用になる地域の市外局番が表示されます。 例） 03
	更新待ち市外局番	更新情報を待つ市外局番が表示されます。 例） 046
	市外局番更新日時	市外局番の更新日時の情報が表示されます。 例） 2003 年 8 月 31 日 11 時 20 分 15 秒 00
ルーティング 判定情報	1XY 判定テーブル	1XY 体系の電話番号が表示されます。 例）117,177
	0A0 判定テーブル	0A0 体系の電話番号が表示されます。 例）010,020,030,040,050,060,070,080,090
	0AB0 判定テーブル	0AB0 体系の電話番号が表示されます。 例）0120
	00XY 判定テーブル	00XY 体系の電話番号が表示されます。 例）0033
	更新待ち 1XY 判定 テーブル	更新待ち 1XY 体系の電話番号が表示されます。 例）104,117,177
	更新待ち 0A0 判定 テーブル	更新待ち 0A0 体系の電話番号が表示されます。 例）010,020,030,040,050,060,070,080,090
	更新待ち 0AB0 判定 テーブル	更新待ち 0AB0 体系の電話番号が表示されます。 例）0120,0990
	更新待ち 00XY 判定 テーブル	更新待ち 00XY 体系の電話番号が表示されます。 例）0033,0037
	ルーティングテーブル 更新日	ルーティングテーブルの更新待ち日時が表示されます。 例）2010 年 8 月 31 日 11 時 20 分 15 秒 00

(2). 電話詳細設定

IP 電話通信を使用する上での詳細設定を行います。



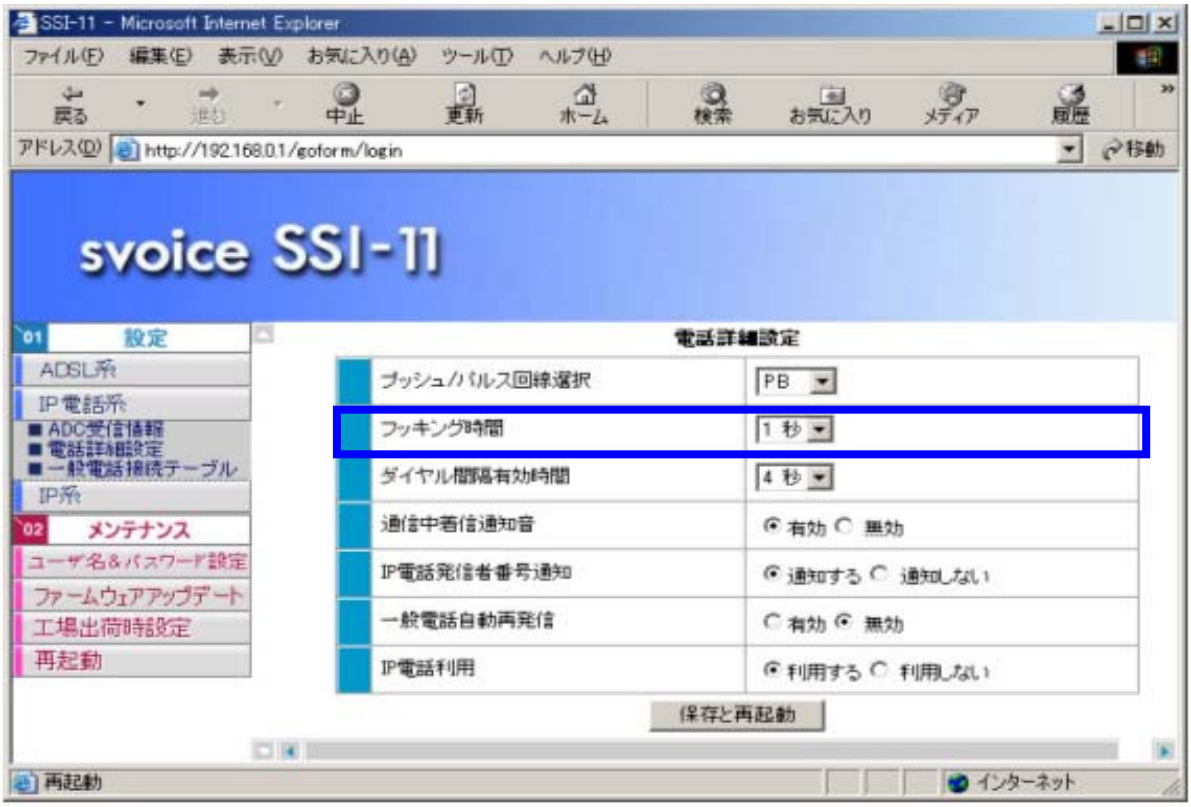
※-1 プッシュ/パルス 回線選択	ダイヤル送出方式 自動、PB、DP(10PPS、20PPS)のいずれかを選択し、設定します。 (PB:プッシュボタン、DP:ダイヤルパルス) ※『プッシュ/パルス回線選択』において「自動」を設定した場合、回線自動判定中は受話器をあげても一時的に無音または話中音(ビジートーン)となり発信できない場合があります。この場合、一度受話器をおいて、しばらくしてからご利用ください。	デフォルト:自動 (回線種別選択後は、選択された回線種別(DP 又は PB)が表示されます。)
※-2 フッキング時間	キャッチホン機能のあり/なし設定で、ありを選択した場合のみ設定可能。 キャッチホン機能等で使用されるフッキング時間を設定します。	基本設定でのデフォルト:なし 基本設定で「あり」の場合、 デフォルト:1 秒
ダイヤル間隔有効時間	ダイヤル待機タイマー値デフォルト値: 4 秒(短く設定する場合は 3 秒、長く設定する場合は 5 秒を推奨)	デフォルト:4秒
通信中着信通知音	IP 電話通話中に一般回線(一般電話)から着信がある場合の通知音の有効/無効を設定します。	デフォルト:有効

IP 電話発信者番号通知	発信者番号通知を通知する/通知しないの設定。 IP 電話発信を行う場合の電話番号通知方法の設定をします。	デフォルト:通知する
※-3 一般電話自動再発信	IP 電話が不可の時、自動的に一般電話へ発信する機能。 「有効」にすることで、自動的に一般電話へ発信 「無効」にすることで、一般電話へには発信されません。話中音(ビジートーン)が発生します。	デフォルト:無効
IP 電話利用	IP 電話発信の通話設定機能。 利用するで IP 電話有効設定になり、利用しないで IP 電話通話をしない設定となる。	デフォルト:利用する

※-1 本装置は、お客様の電話回線を自動的に認識する機能が搭載されています。
本機能が正しく動作するには、電話機の PB(プッシュボタン)/DP(ダイヤルパルス)設定が正常に設定されていることが前提となります。本装置の電源投入前に一般電話への発信が可能であることをご確認ください。

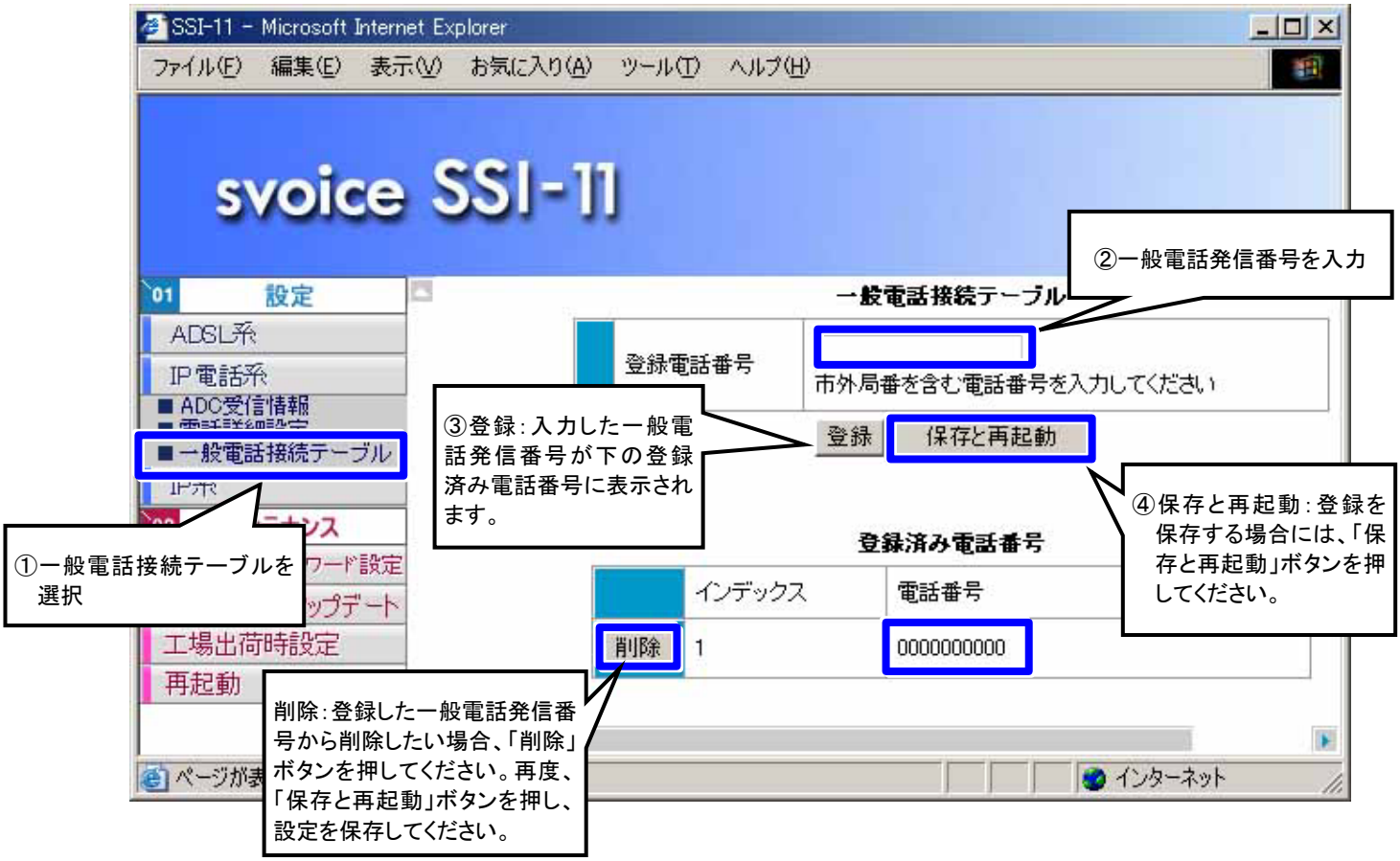
※-2 『基本設定』の「電話設定」にある、『キャッチホン利用』を「あり」にした場合のみ、当設定項目が表示されます。「なし」にした場合は、表示されません。

※-3 一般電話自動再発信が『無効』になっている場合、一般電話へ電話する時は、プレフィックスダイヤル 『0000』を相手先電話番号の前に回すことで発信可能となります。
相手先が『110/117/177 番等の 3 桁番号サービスなどや 0120/0570/0990 など』で始まる番号への通話は、プレフィックスダイヤルなしで発信可能です。
「市外局番＋１７７」でダイヤルした場合、発信できません。その場合もプレフィックスダイヤル(『0000』＋市外局番＋177) をダイヤルしてください。 一般電話でご利用できます。



(3) 一般電話接続テーブル

設定した電話番号は、無条件に一般電話発信となります。
110/117/177 番等の 3 桁番号サービスなどや 0120/0570/0990 などで始まる番号への通話は、設定に関係なく、一般電話発信です。



尚、登録済み電話番号には、お客様が登録された電話番号が表示されます。

※ 登録電話番号の登録制限数は、最大 20 インデックスまでです。
※ 登録電話番号の入力制限桁数は、10 桁～23 桁です。

① 一般電話接続テーブルの登録
- ⅰ. 「登録電話番号」右側の空欄に、ハイフンを除く市外局番を含むすべての電話番号を入力してください。
  例）0123-45-**** → 012345****
- ⅱ. 入力後、「登録」ボタンをクリックしてください。
- ⅲ. 登録した電話番号が、「登録済み電話番号」に表示されます。
- ⅳ. 登録がすべて完了しましたら、「保存と再起動」ボタンをクリックしてください。

② 一般電話接続テーブルの削除
- ⅰ. 登録した電話番号を削除する場合、「登録済み電話番号」左側の「削除」ボタンを押してください。
- ⅱ. 削除した電話番号が、「登録済み電話番号」から削除されます。
- ⅳ. 削除する電話番号がすべて完了しましたら、「保存と再起動」ボタンをクリックしてください。

⚠ 注意 一般電話接続テーブルへ登録した電話番号に発信する場合、登録した番号をそのままダイヤルして発信してください。（市内通話の場合も、市外局番からダイヤルしてください。）
例） 『登録番号 ： 012345****』、『登録した電話番号に発信 ： 012345****』

6-1. ADS 機能について

ADS（Auto Download System)機能は、IP 電話情報や新市外局番の設定、ファームウェアのダウンロードを自動で行う機能です。

この ADS 機能を使用することで、これまでお客様によって設定頂いておりました CA 登録のためのID/パスワード入力などの IP 電話に関する設定の一部が不要になります。

⚠ 注意　ADS 機能は一般電話回線を経由して行われるため、IP 電話のお申込みの際に誤った一般電話番号をお申込みされた場合等は、IP 電話をご利用頂けません。

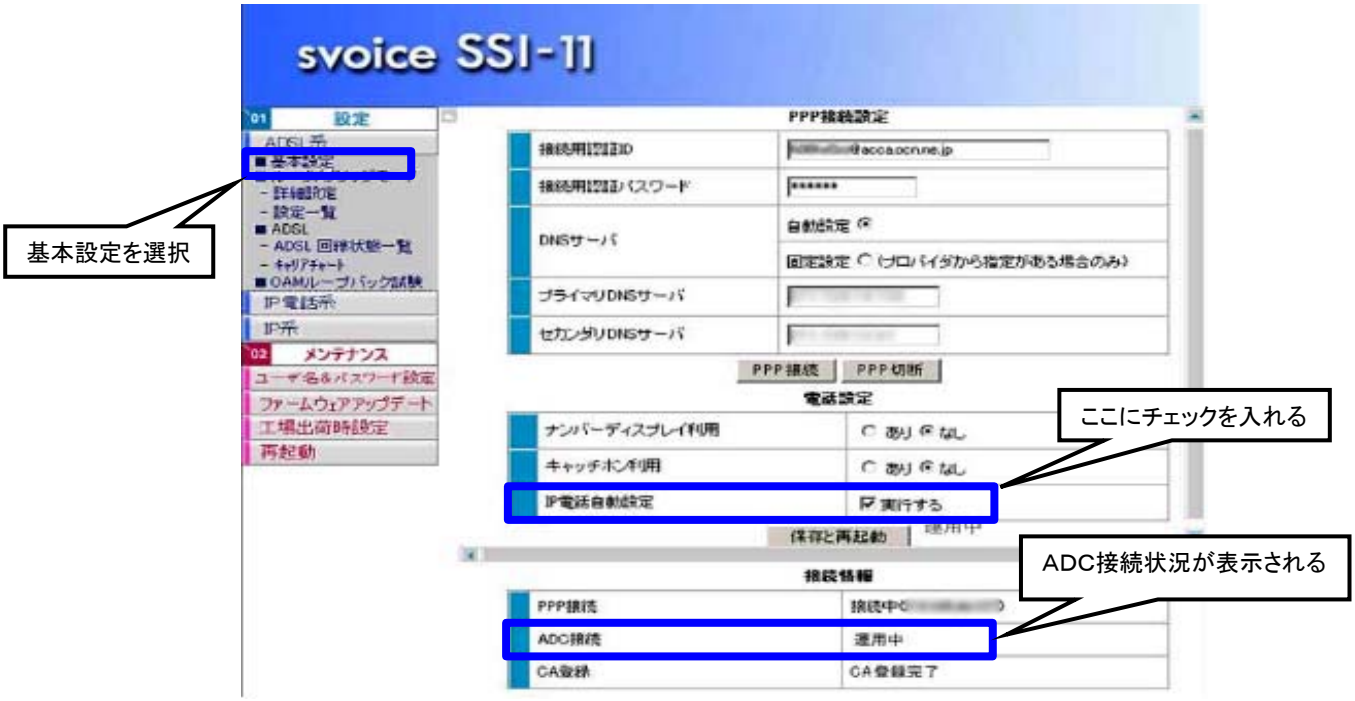
⚠ 注意　ファームウェアの自動ダウンロードが完了すると「CA」ランプと「ADC」ランプが同時または、交互に点滅します。
このあとご利用の本装置が自動的に再起動を実施します。（お客様にて再起動を実施頂いても構いませんが、「ADC」ランプのみ点滅している場合は再起動しないでください。）

⚠ 注意　月１回自動的にNTTコミュニケーションズのセンターへ発信しますが、通話料はかかりません。

6-2. ADS 機能の設定

ADS 機能の設定は、まず、Web 管理画面の『ADSL 系』フォルダ内の『基本設定』を選択してください。
次に、『電話設定』の『IP 電話自動設定』項目で“実行する”にチェックを入れ、その下の「保存と再起動」を実行することで有効になります。

ADS 機能の動作の確認は、『基本設定』の『接続情報』内にある『ADC 接続』で確認することができます。
また、本装置の前面ランプにある ADC ランプの状態で確認することもできます。
『ADC 接続』の表示につきましては、「第 5 章 5-1(3)接続情報の確認」をご参照ください。



6-3. ADS 機能の動作状態表示

ADS 機能の動作状態は、本装置の前面にある LED ランプで確認することができます。

ADS 機能の動作状態に関する LED ランプ表示

動作状態	ランプのつき方		
	ADC	CA	発信時の通話種別
工場出荷時設定状態	消灯	消灯	一般電話
運用停止中	消灯	消灯	一般電話
ADC と通信中	点滅	消灯/点灯	一般電話[※-1]/IP 電話
ADS 機能運用中	点灯	点灯	IP 電話
再起動待ち[※-2]	点滅	点滅	一般電話[※-1]/IP 電話

※-1　一度 IP 電話情報を取得している場合は、IP 電話をご利用頂けます。初めて設置される場合や工場出荷時設定状態に戻された場合、IP 電話情報を取得していない場合は、一般電話での発信となります。

※-2　この状態になりましたら、Web 管理画面の『ADSL 系』フォルダ内の『基本設定』を開き、「保存と再起動」ボタンをクリックして、保存と再起動を行ってください。
もしくは、本装置の背面にある電源スイッチを OFF/ON してください。
尚、そのままの状態にしておいた場合は、一定時間経過後に自動的に再起動を実施します。
（再起動中は、IP 通話とデータ通信ができなくなります。）

SSI-11 IP 電話機能付き ADSL モデム詳細設定

本装置の機能に関しての詳細設定の説明をします。

本装置の LAN 側インターフェース設定変更

HOT!! LAN 側インターフェースを変更する場合は必ず以下の手順で行ってください。以下の手順以外で変更を行った場合、インターネットへ接続できなくなることがあります。

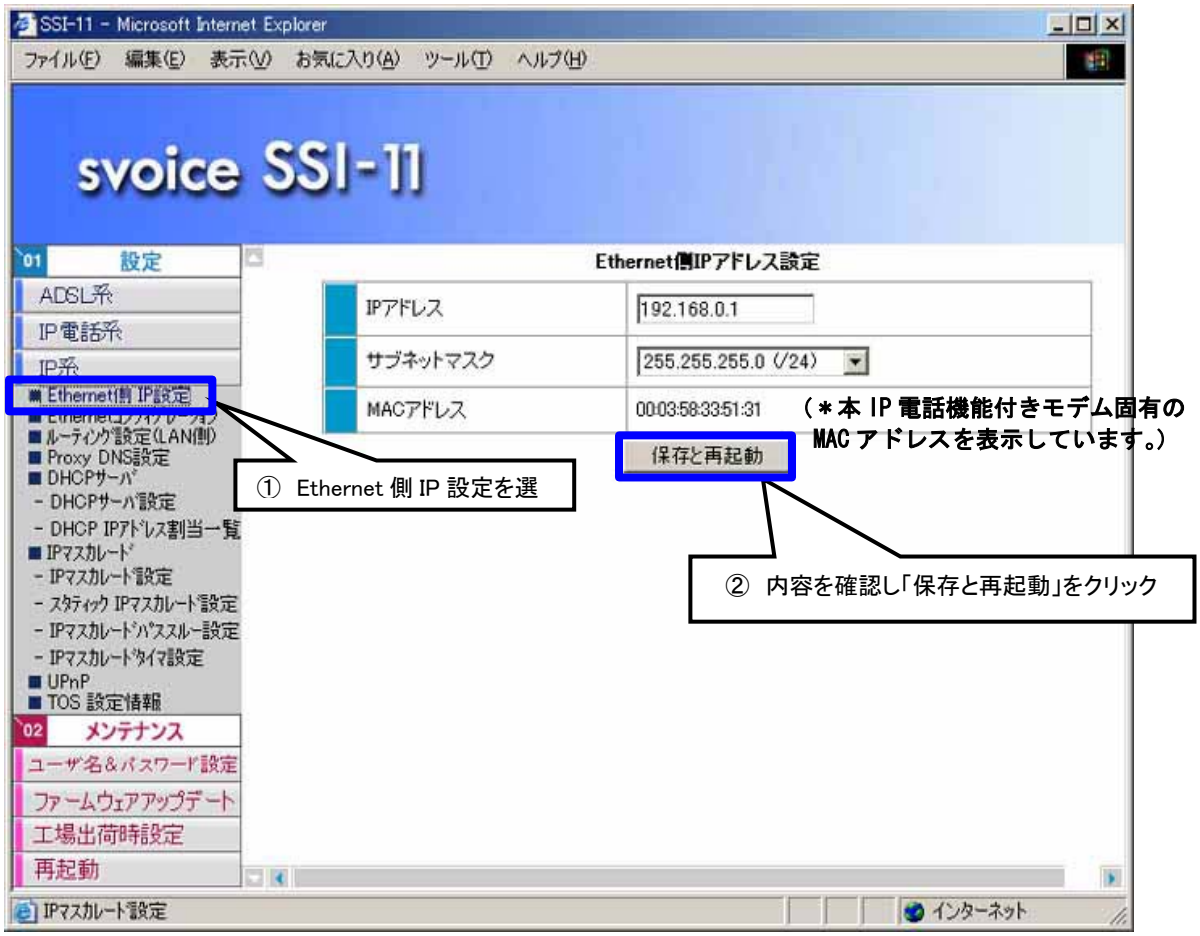
HOT!! 本装置は DHCP サーバ機能を持っています。この DHCP サーバ機能を使用している場合、LAN 側インターフェースを変更した時に、同時に DHCP サーバ機能の配布開始／最終アドレスを変更しなければ、パソコンと送受信できなくなります。

本装置では、LAN 側 IP アドレスを変更する時、自動で DHCP サーバ機能の配布開始／最終アドレスを同時に変更する機能を持っています。但し、本機能を使用しない場合、パソコンの IP アドレスを必ず本装置の LAN 側 IP アドレスと同じサブネットになるよう変更してください。

7-1. Ethernet 側 IP 設定

① 管理画面左側の操作メニューから「Ethernet 側 IP 設定」をクリックすると、下記「Ethernet 側 IP アドレス設定」画面が表示されます。IP アドレス及びサブネットマスクの変更する値を入力します。

② 「保存と再起動」ボタンをクリックすると下記のように「サブネットを変更する場合、DHCP サーバの開始 IP アドレスと最終 IP アドレスも自動的に変更されます。Ethernet 側の設定変更を反映しますか？」とのメッセージが表示されます。



③OK ボタンをクリックすると「変更した設定内容を反映するために、本装置の再起動を行います。再起動終了後、再度ログイン画面から設定を続けてください。（サブネットを変更した場合、ログイン画面にならない事もあります。）」とのメッセージが表示されます。

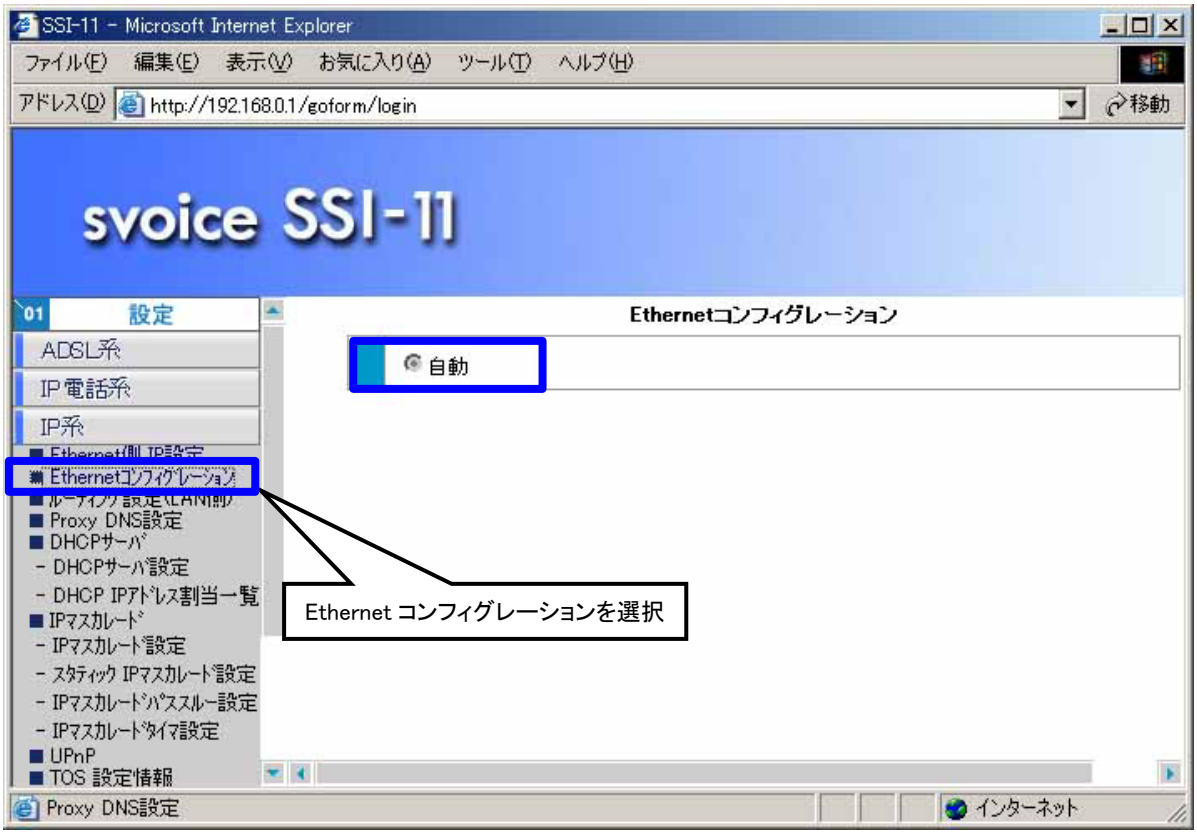
④「OK」ボタンを押します。
再起動終了後、ログイン画面が表示されます。

HOT!! IP アドレス及びサブネットマスクの各項目に入力できる数字は“0～255”の範囲で入力できます。入力した IP アドレスが同時に入力したサブネットマスクの範囲内に必ずあることを確認して OK をクリックしてください。もし入力した IP アドレスが同時に入力したサブネットマスクの範囲内にない場合、本装置の Web 管理画面にアクセスできなくなります。

7-2. Ethernet コンフィグレーション

Ethernet コンフィグレーションは、パソコンの LAN カードおよび LAN アダプタに合わせて、本装置の Ethernet 設定をオートネゴシエーション機能（自動選択）で設定します。

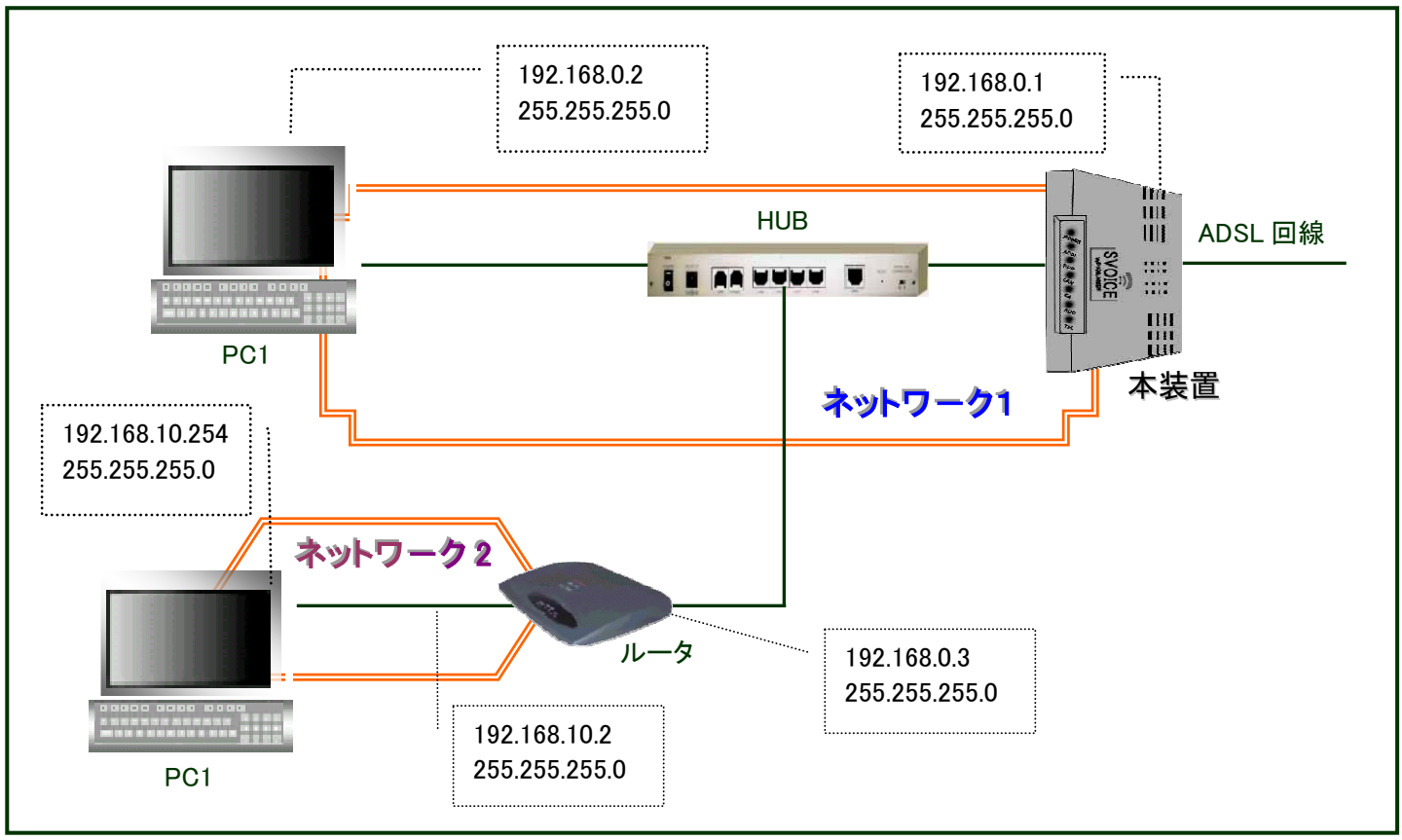
管理画面左側の操作メニュー「IP 系」フォルダから「Ethernet コンフィグレーション」をクリックすると、下記「Ethernet コンフィグレーション」画面が表示されます。 本装置は、対向デバイス(パソコン,HUB など)に対して自動的に対応します。



7-3. ルーティング設定（LAN 側）

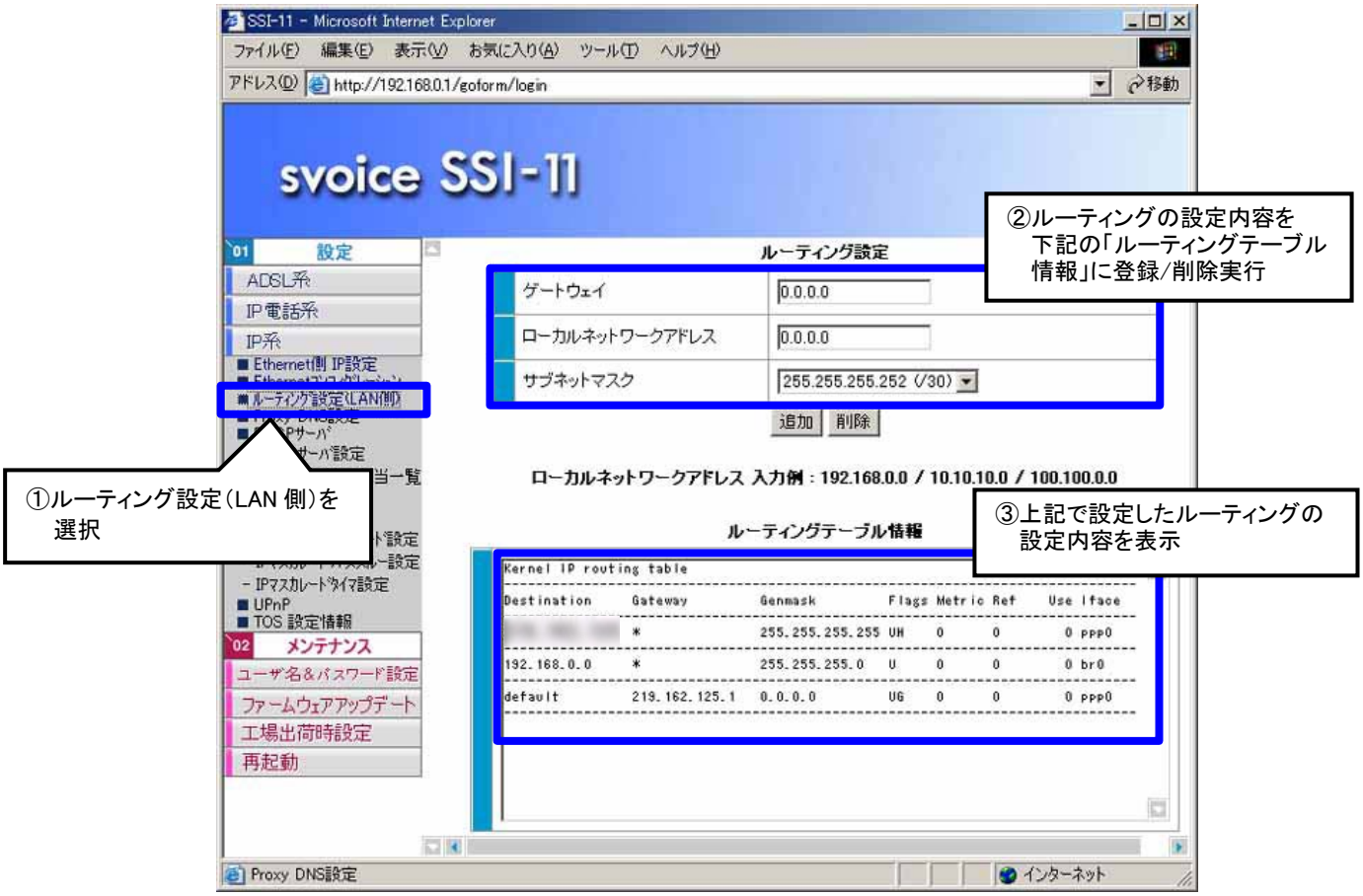
ルーティング設定は、本装置をルータモードで使用し、本装置の配下に別のネットワークがあるときに行います。

ルーティングの設定

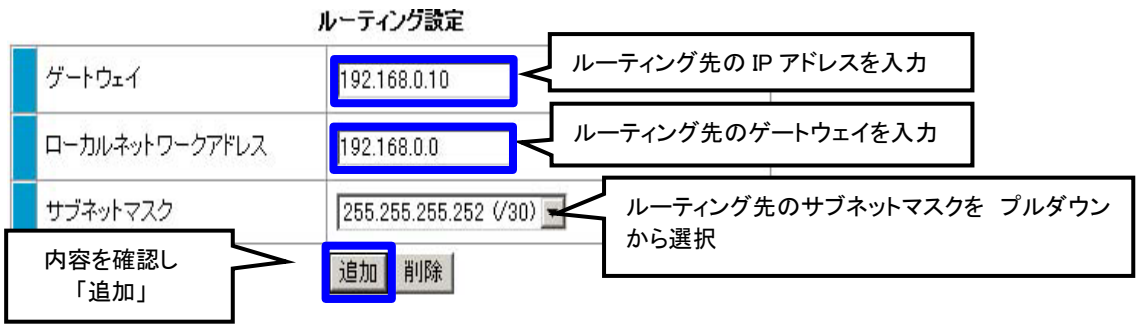


ルータモードとは、本装置を PPPoE に設定して使用している状態です。

① 管理画面左側の操作メニュー「IP 系」フォルダから「ルーティング設定(LAN 側)」をクリックすると、下図「ルーティング設定(LAN 側)」画面が表示されます。下記画面に従ってルーティングの設定をしてください。



②ルーティング設定入力画面



③「ゲートウェイ」、「ローカルネットワークアドレス」を入力、「サブネットマスク」からプルダウンで選びます。

④「追加」ボタンをクリックします。

⑤設定変更後、下のルーティングテーブル情報に表示されます。

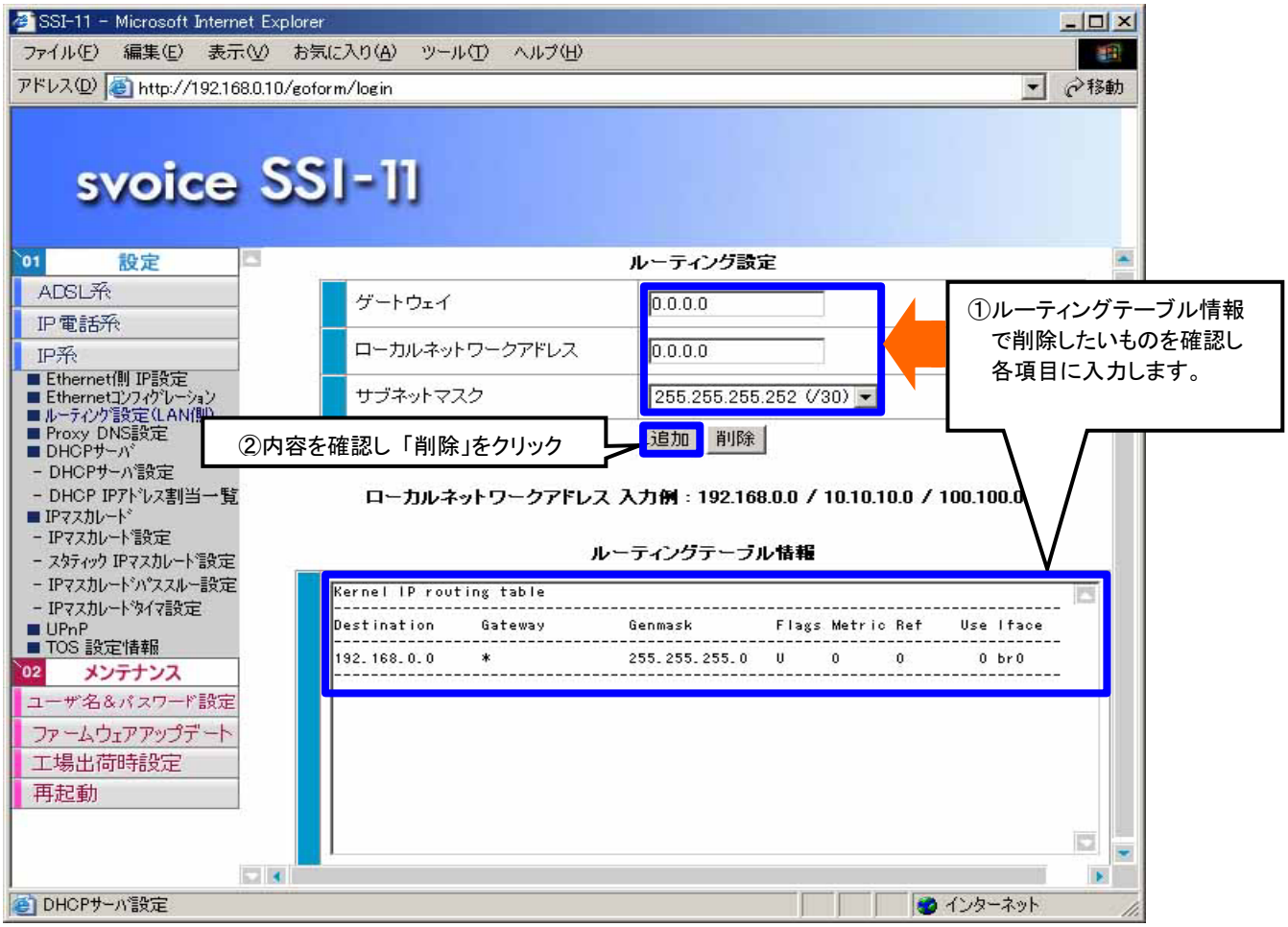
＜ルーティングの削除＞

登録したルーティング設定を削除する際は下記の手順を行います。

①ルーティングテーブル情報で削除したい項目の「ゲートウェイ」、「ローカルネットワークアドレス」を入力、「サブネットマスク」からプルダウンで選びます。

②「削除」ボタンをクリックします。

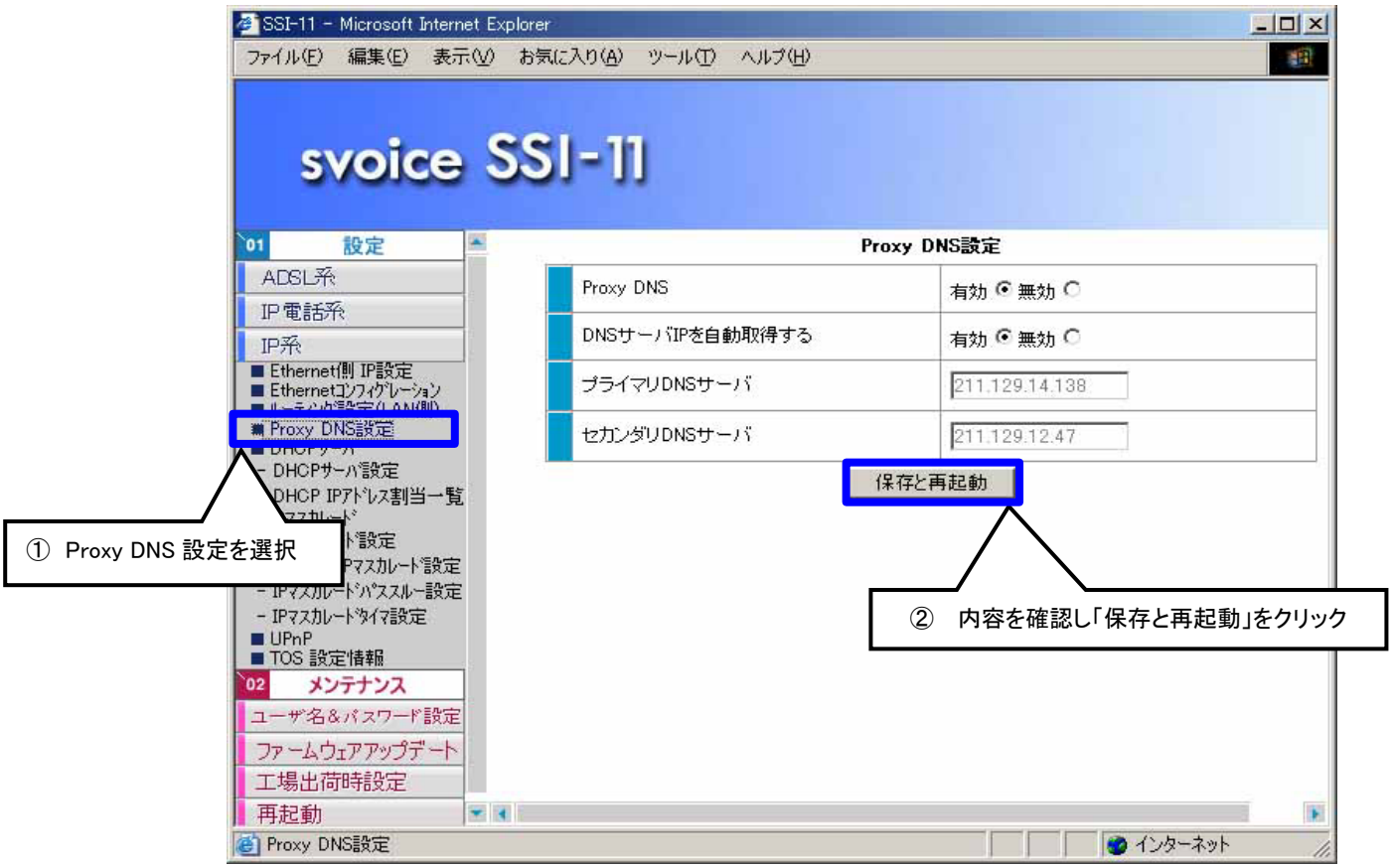
③設定変更後、下図のようにルーティングテーブル情報から情報が削除されていることを確認します。



7-4. Proxy DNS 設定

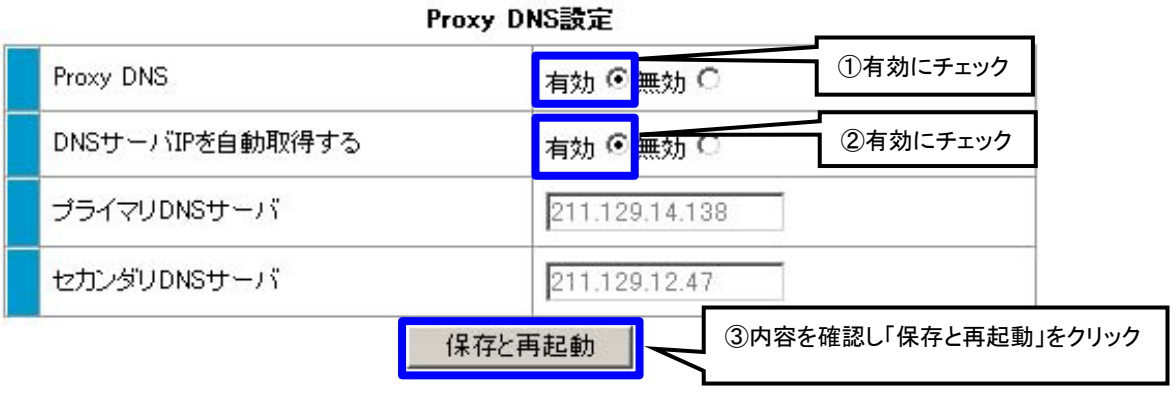
Proxy DNS 設定をすると、PPP 接続時に PPP サーバから配布された DNS サーバの IP アドレスと、DHCP サーバの IP アドレスとして配布する Ethernet 側 IP アドレスを内部で変換することにより、DNS サーバの IP アドレスが変更されても、ユーザがそれに合わせて設定を変更する必要がなくなります。

①メインメニューの「IP 系」フォルダの下にある「Proxy DNS 設定」をクリックして、Proxy DNS 設定メニューを開きます。



②-1 DNS サーバ IP を自動取得する設定

「Proxy DNS」を「有効」にチェック、「DNS サーバ IP を自動取得する」を「有効」にチェック。
設定内容を確認の上「保存と再起動」ボタンをクリックします。自動的に再起動を行います。



Proxy DNS を利用する場合には、パソコンの DNS サーバアドレス設定に本装置の Ethernet 側 IP アドレスを指定する必要があります。(設定方法は、Ethernet 側 IP 設定(63 ページ)を参照)また、本装置の DHCP サーバ機能を利用している場合は、DHCP サーバ設定内の DNS サーバ IP アドレスに、ご契約されているサービスプロバイダの DNS サーバの IP アドレスを指定します。(DNS サーバ IP を自動取得に設定している場合は、DHCP サーバ設定内の DNS サーバ IP アドレスが自動的に設定されます。)

②-2 DNS サーバ IP を自動取得にしない設定
「Proxy DNS」を「有効」にチェック
「DNS サーバ IP を自動取得する」を「無効」にチェック
「プライマリ DNS IP アドレス」を入力
「セカンダリ DNS IP アドレス」を入力
＊プライマリ／セカンダリ DNS IP アドレスはお客様の契約されているサービスプロバイダの項目を入力します。

設定内容を確認の上「保存と再起動」ボタンをクリックします。

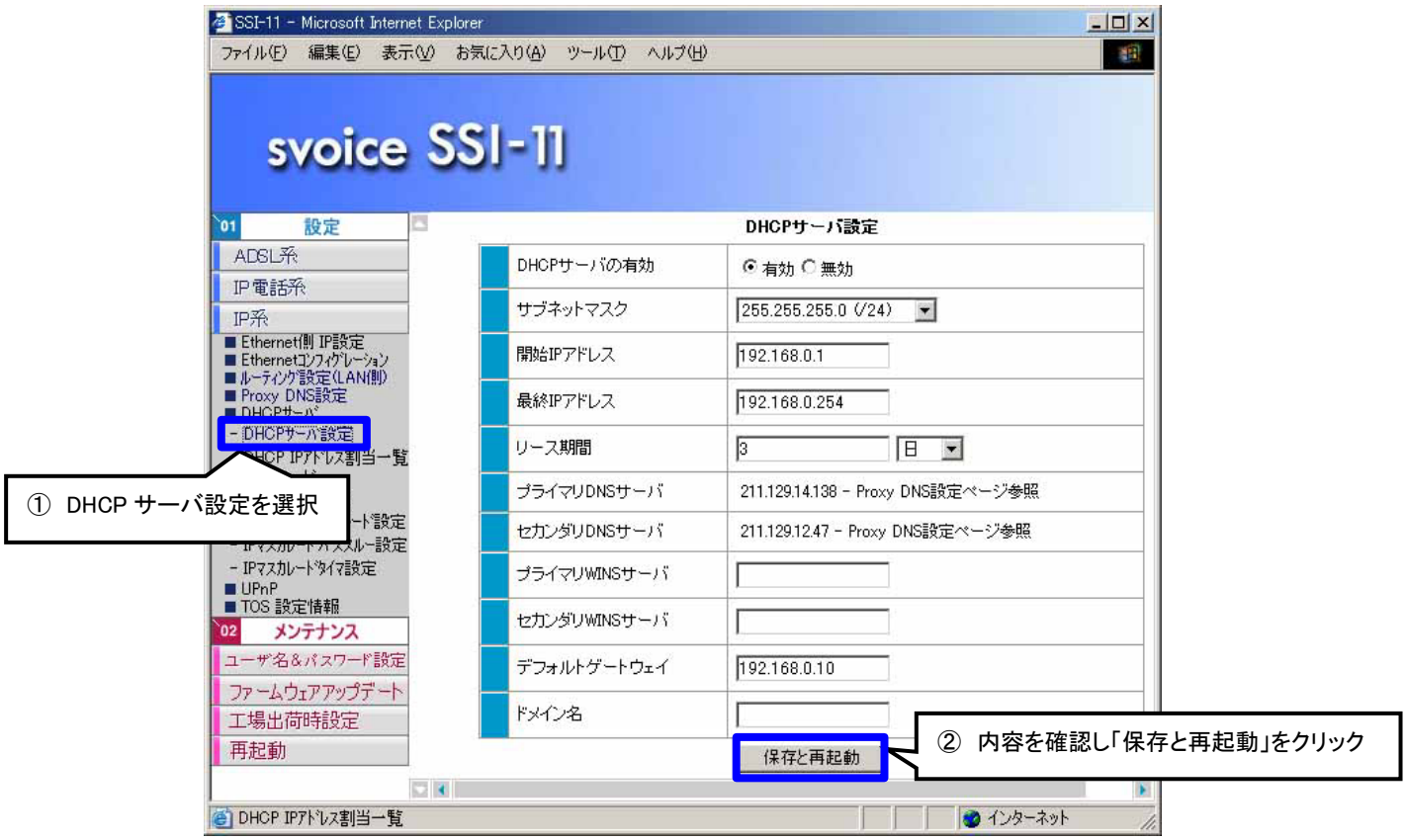
②-3 Proxy DNS を無効にする設定
「Proxy DNS」を「無効」にチェック

＊ 「Proxy DNS」を「無効」にチェックを入れ、「DNS サーバ IP を自動取得する」を「有効」にチェックをいれると、プライマリ DNS/セカンダリ DNS の項目の入力が不可能になります。
設定内容をご確認の上、「保存と再起動」ボタンをクリックしてください。

HOT!!! Proxy DNS を無効にする場合は、DHCP サーバ設定でパソコンの DNS サーバ設定を行ってください。

7-5. DHCP サーバ設定

本装置は、DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）機能を持っています。この機能により、本装置は Ethernet LAN 内のホストに対して IP アドレスを割り当てることができます。管理画面左側操作メニューの「IP 系」フォルダの下にある「DHCP サーバ設定」をクリックして、「DHCP サーバ設定」画面を開きます。



① DHCP サーバの有効

DHCP サーバを有効にします。

② サブネットマスク

「サブネットマスク」を指定します。プルダウンメニューの中から選択してください。
デフォルト値は（255.255.255.0(/24)）です。

③ 開始 IP アドレス

パソコン（クライアント）に配布する IP アドレスの「開始 IP アドレス」を指定します。
このアドレスは Ethernet LAN 内で未使用である必要があります。

④ 最終 IP アドレス

パソコン（クライアント）に配布する IP アドレスの「最終 IP アドレス」を指定します。
このアドレスは Ethernet LAN 内で未使用である必要があります。
本装置では最大 253 の IP アドレスを割り当てることができます。

⑤ リース期間

本装置のパソコン（クライアント）に配布する情報のリース時間を指定します。 単位は、日・時間・分・秒を選択できます。

⑥ プライマリ DNS サーバ IP アドレス
Proxy DNS 設定で DNS サーバ IP アドレスを自動取得している場合は、本装置の Ethernet 側 IP アドレスが自動的に表示されます。

⑦ セカンダリ DNS サーバ IP アドレス
Proxy DNS 設定で DNS サーバ IP アドレスを自動取得している場合は、本装置の Ethernet 側 IP アドレスが自動的に表示されます。

⑧ プライマリ WINS サーバ IP アドレス
パソコン（クライアント）に配布する「プライマリ WINS サーバ IP アドレス」を指定します。
空欄でも結構です。

⑨ セカンダリ WINS サーバ IP アドレス
パソコン（クライアント）に配布する「セカンダリ WINS サーバ IP アドレス」を指定します。
空欄でも結構です。

⑩ デフォルトゲートウェイ
パソコン（クライアント）に配布する「デフォルトゲートウェイ」を指定します。
デフォルト値は「192.168.0.1」です。

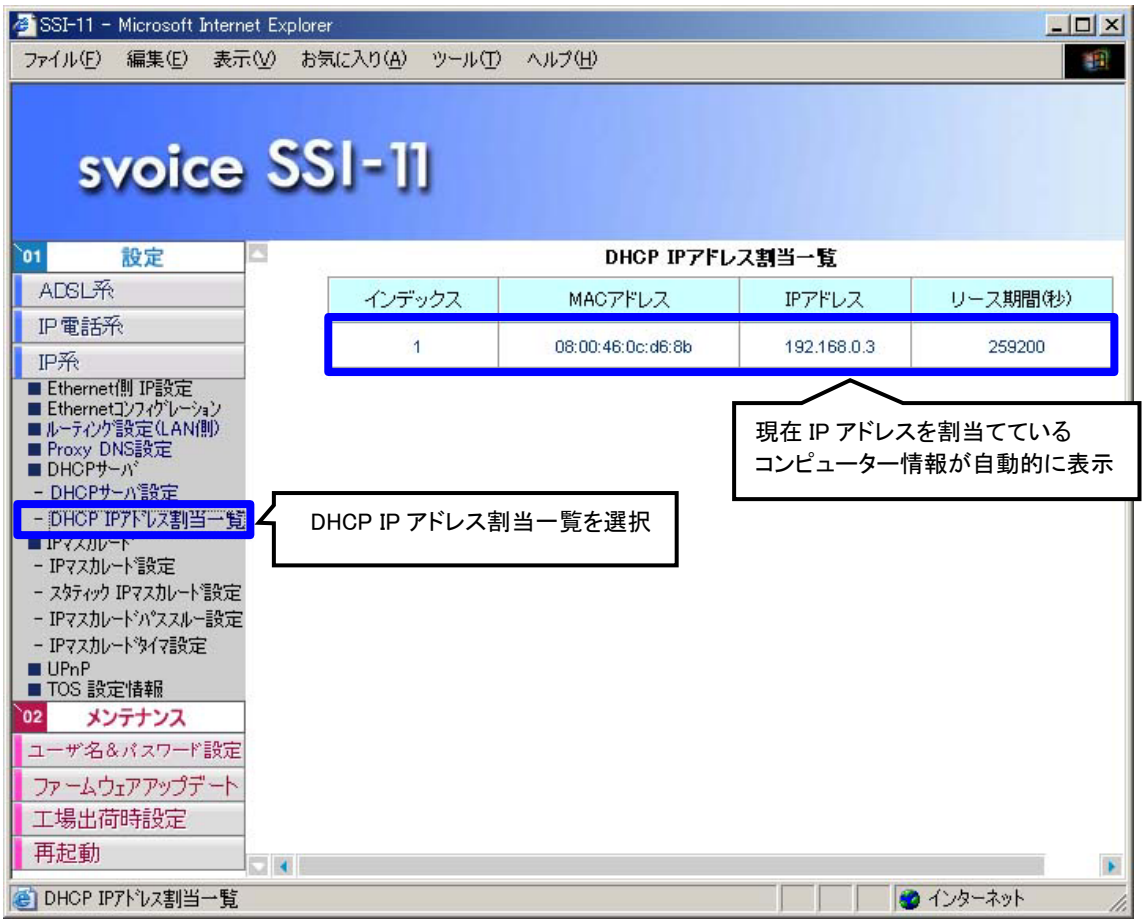
⑪ ドメイン名
パソコン（クライアント）に配布する「ドメイン名」を指定します。
「ドメイン名」には半角英数字と‘．’(ドット)のみ入力可能です。
空欄でも結構です。

設定を終了したら、「保存と再起動」 ボタンをクリックしてください。

7-6. DHCP IP アドレス割当一覧

管理画面左側の操作メニュー「IP 系」フォルダから「DHCP IP アドレス割当一覧」をクリックすると、下記「DHCP IP アドレス割当一覧」画面が表示され、本装置の DHCP サーバ機能の割り当てた IP アドレスの情報を表示させることができます。

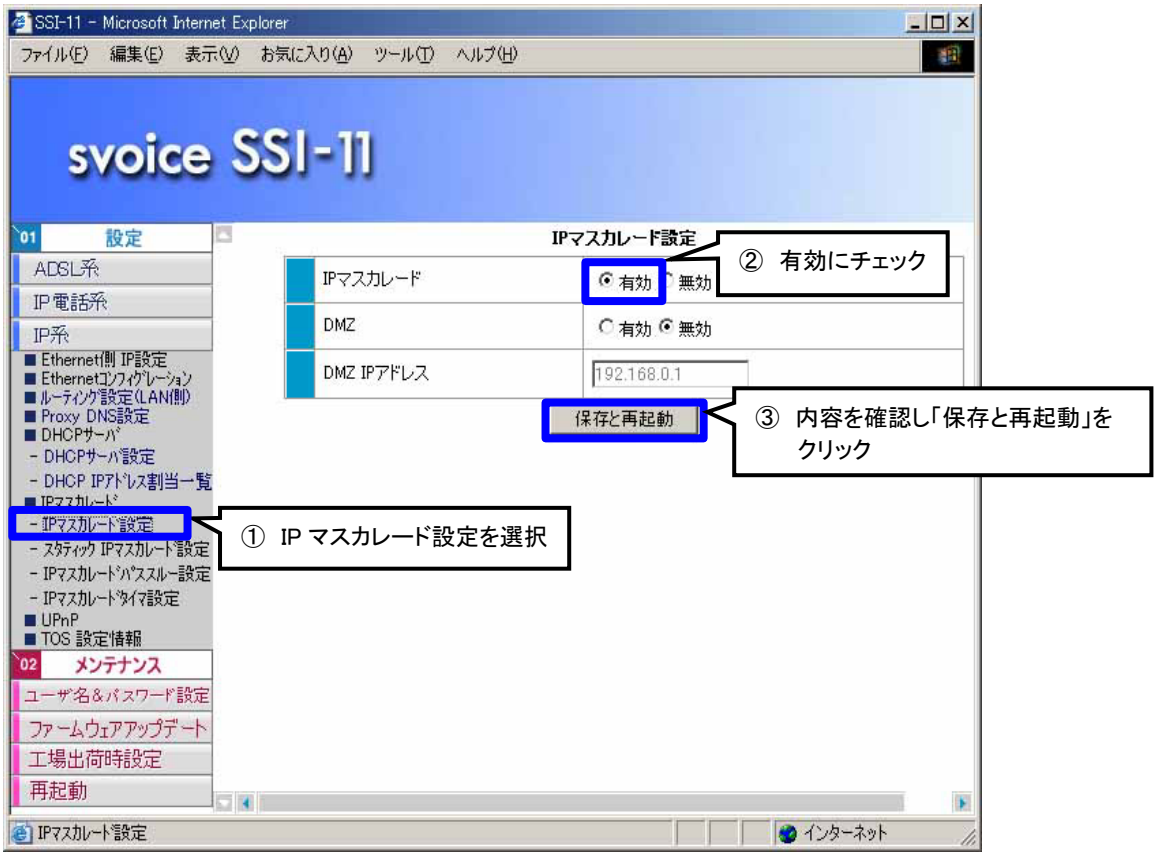
本装置が、IP アドレスを割り当てたパソコン（クライアント）の情報を表示します。ただし、DHCP サーバが無効の時と、IP アドレスが固定になっているパソコンは、表示されません。



7-7. IP マスカレード設定

IP マスカレードは、インターネット上で使用できる 1 つのグローバル IP アドレスを、プライベートネットワーク上でのみ使用できる（インターネット上では使用できない）複数のローカル IP アドレスに変換する機能です。この機能により、1 つのグローバル IP アドレスを使用して多くのユーザがインターネットにアクセスすることができます。

管理画面左側の操作メニュー「IP 系」フォルダを開き「IP マスカレード設定」をクリックすると、「IP マスカレード設定」画面が表示されます。下図の管理画面に従って IP マスカレード機能の設定をしてください。

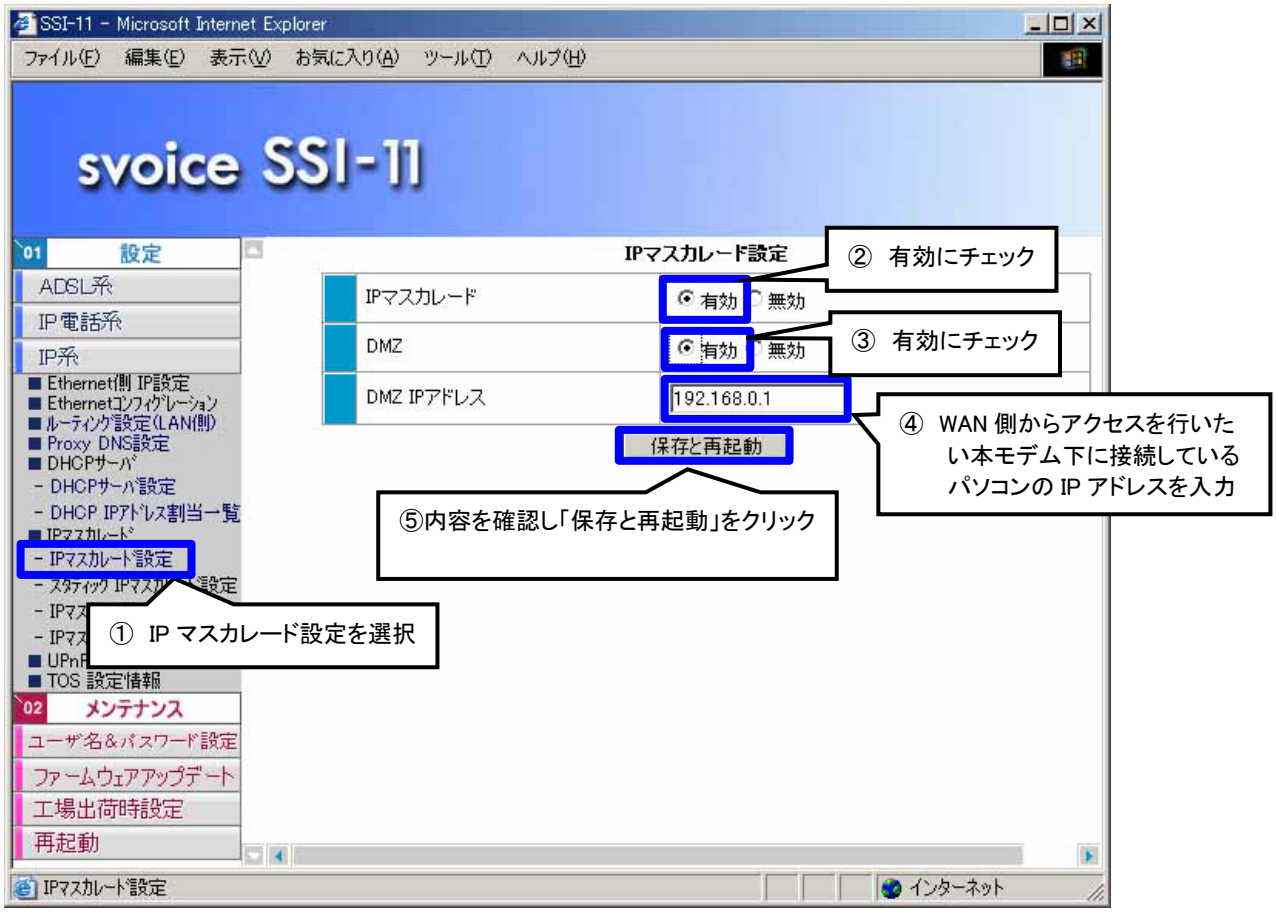


HOT!! 本装置の IP マスカレードの初期設定値は、「有効」に設定されています。IP マスカレードを使用しない場合は、「無効」を選択してください。

7-8. DMZ の設定

IP マスカレードの設定を行うと、WAN 側から本装置の配下に接続しているパソコンが直接アクセス出来なくなります。DMZ は、ユーザが本装置の WAN 側 IP アドレスにアクセスすれば、インターネットから DMZ にて設定した IP アドレスのパソコンにアクセスでき、指定した PC サーバを外部へ公開する為の機能です。DMZ 機能は、IP マスカレードが「有効」設定時に使用できます。

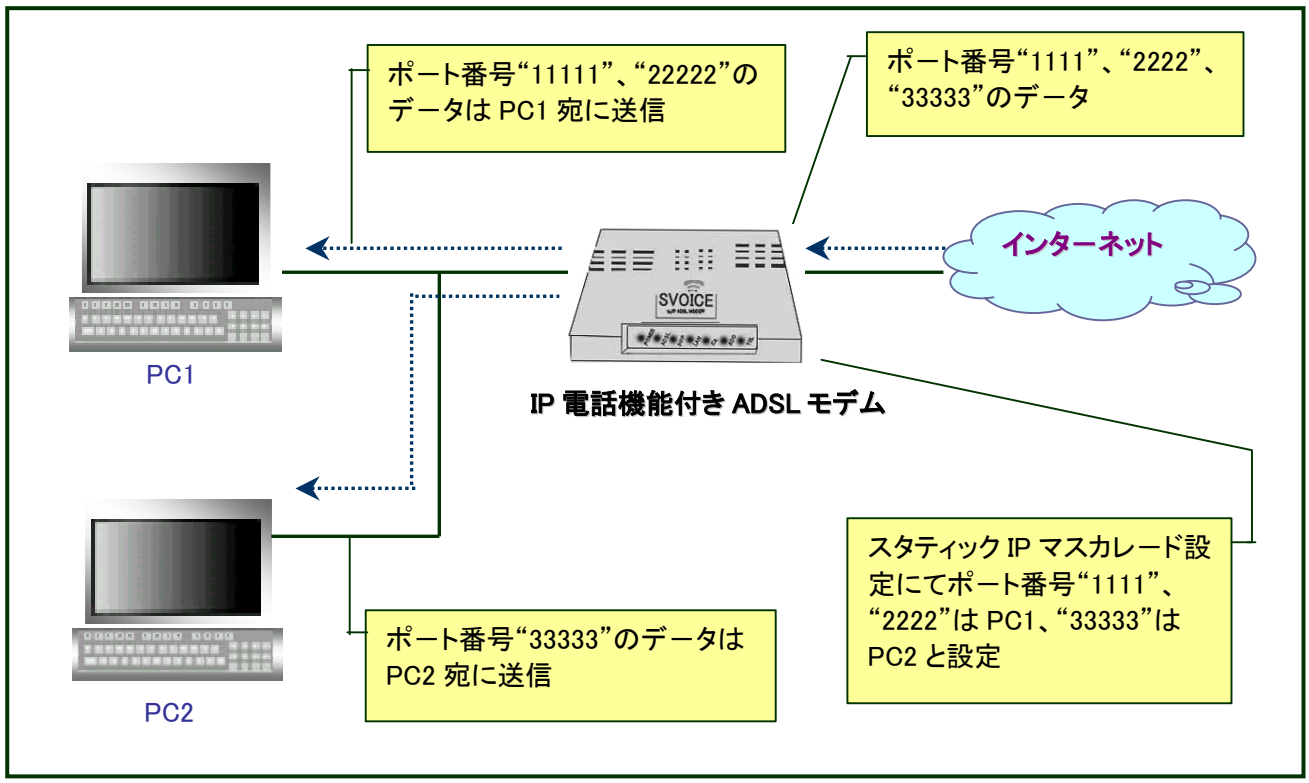
管理画面左側の操作メニューから「IP マスカレード設定」をクリックすると、下記「IP マスカレード設定」画面が表示されます。下記画面に従って DMZ 機能の設定をしてください。



HOT!! DMZ 機能を使用するときは必ず IP マスカレードを「有効」にしてください。
HOT!! 本装置の DMZ の初期設定値は、「無効」に設定されています。
HOT!! 設定内容を確認後、「保存と再起動」ボタンをクリックすると設定が変更されます。

7-9. スタティック IP マスカレード設定

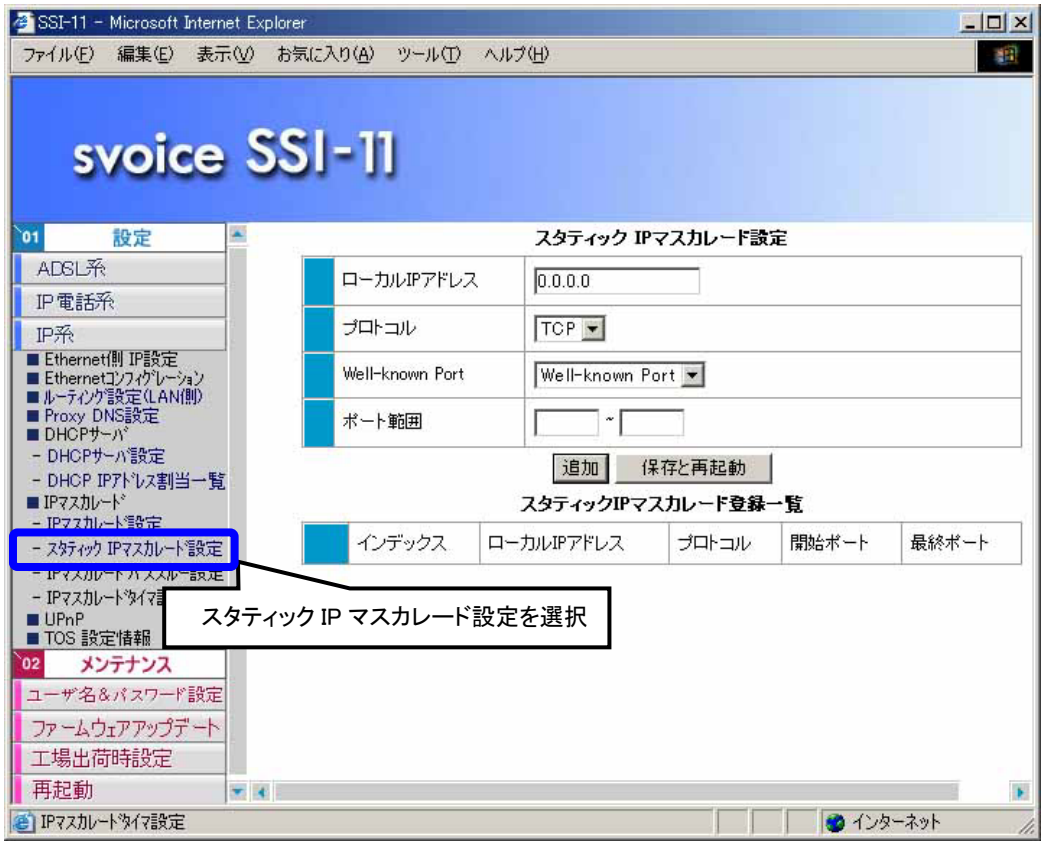
スタティック IP マスカレードは、WAN側から送られてくるデータを本装置下の特定のパソコンへ転送する機能です。このスタティック IP マスレード設定は、ポート毎に転送先を指定することが出来ます。また、UPnP 有効時には設定なしで自動的に割り当てます。
一例として、本装置で受信したデータのうち、ポート番号“11111”から“22222”のデータはPC1 へ、ポート番号“33333”のデータはPC2 へ転送する場合のイメージ図を以下に示します。



- 指定できるインターネットポート番号は“1～65535” になります。
- DMZ も同様の機能ですが、DMZ の場合は、すべてのポートを 1 つのパソコンにのみ転送する機能です。通常 DMZ の機能は、本装置配下に接続されたパソコンが 1 台のときに使用します。
- スタティック IP マスカレード／UPnP／DMZ で同時に同じポートを設定した場合の優先順位は、IP マスカレード＞DMZ＞スタティック IP マスカレード＞UPnP となります。
- IP マスカレードにて指定していないポートのデータを受信した場合は、本装置にて廃棄されます。

スタティック IP マスカレード設定

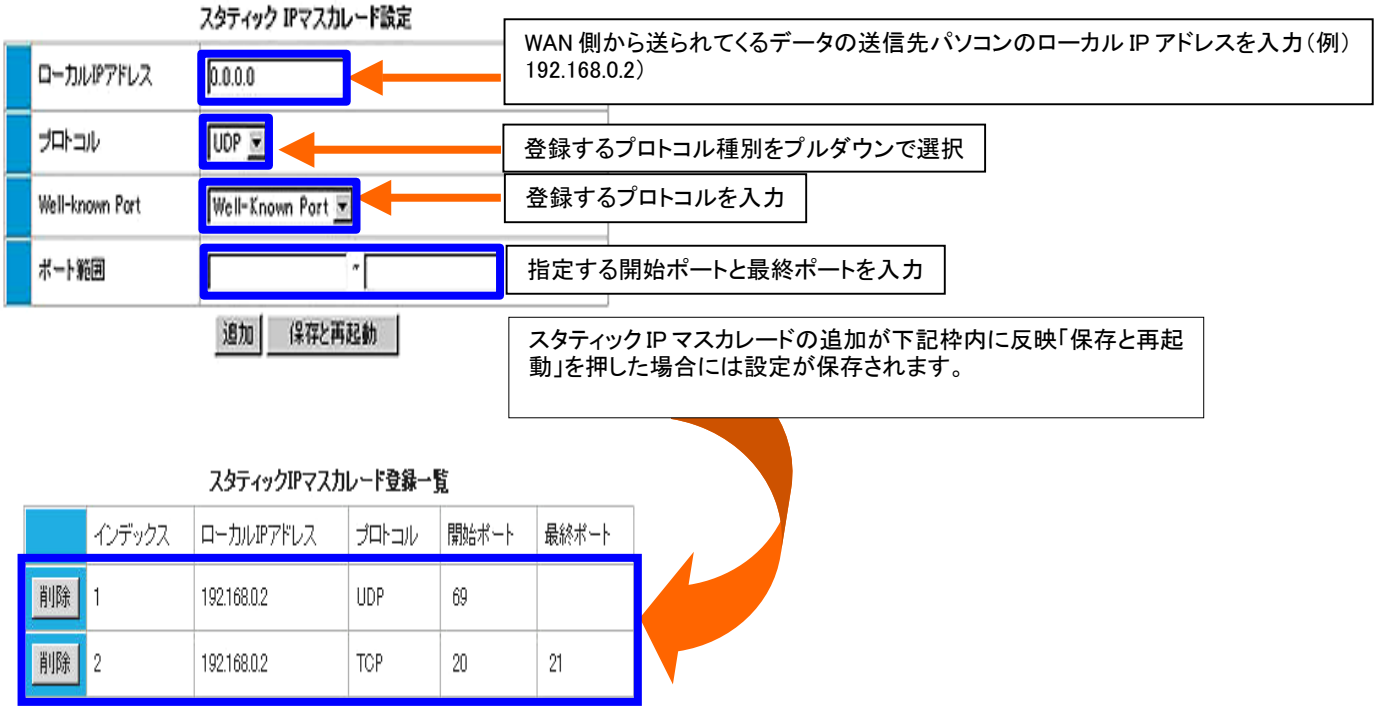
① 管理画面左側の操作メニュー「IP 系」フォルダから「スタティック IP マスカレード設定」をクリックすると、下図「スタティック IP マスカレード設定」画面が表示されます。下記画面に従って、スタティック IP マスカレード機能の設定をしてください。



HOT!! スタティック IP マスカレードの最大設定数は 32 個です。設定番号毎に転送ポートを範囲で指定することが出来ます。

HOT!! スタティック IP マスカレードのデフォルト値は何も登録されていません。

② 設定入力画面



HOT!! プロトコルの選択により（「UDP」と「TCP」）Well known-Port の内容が異なります。
先にプロトコルを選択して Port を選択してください。

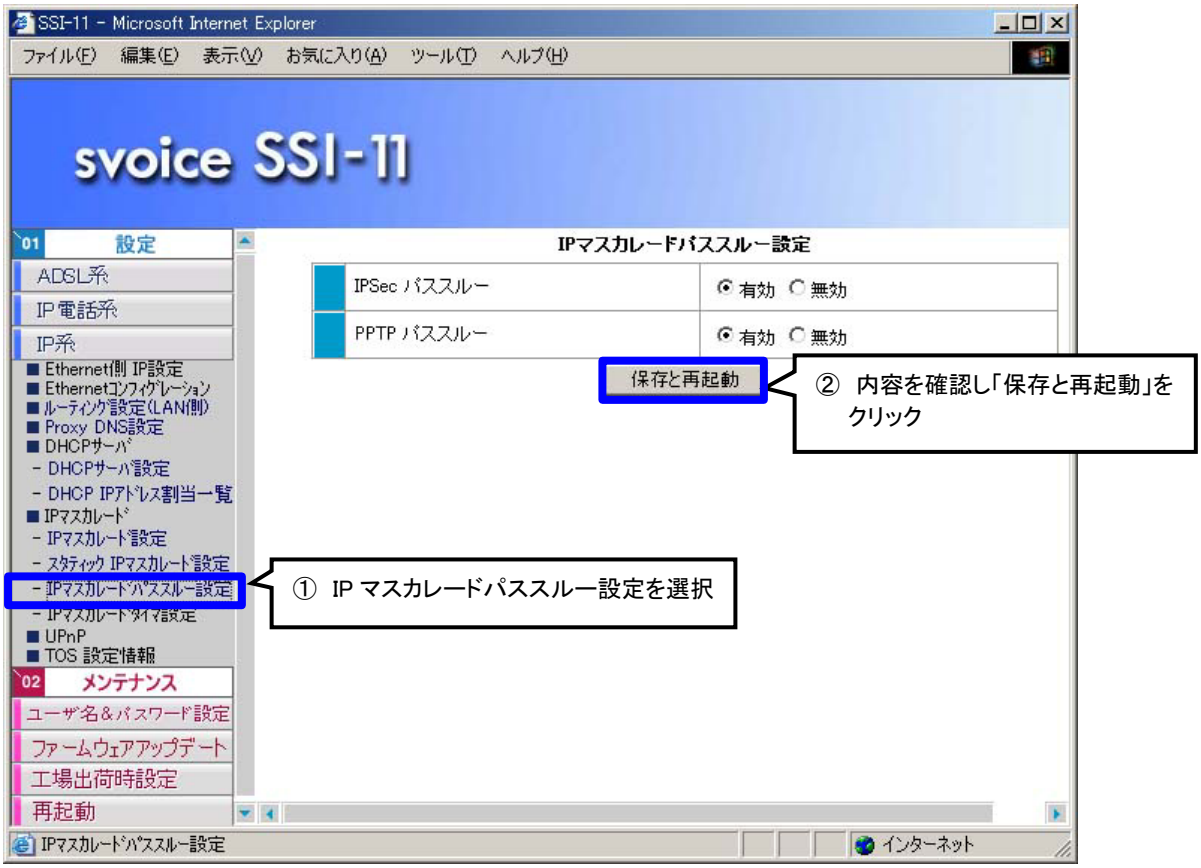
HOT!! インターネット側開始ポート／最終ポート番号は 1～65535 の数字が入力できます。

7-10. IP マスカレードパススルー設定

IP マスカレードパススルー設定は、VPN(virtual private network)を利用する為に IP Sec や PPTP のプロトコルをパススルーさせる機能です。

管理画面左側の操作メニューから「IP 系」フォルダの「IP マスカレードパススルー設定」をクリックすると、下のような「IP マスカレードパススルー設定」画面が表示されます。
画面に従って IP マスカレードパススルーの設定をしてください。

IP マスカレードパススルー設定のデフォルト設定では、IP Sec パススルー／PPTP パススルー設定ともに「有効」にチェックが入っています。
IP Sec をパススルーさせることによって、IP Sec を使用した VPN を利用する事ができます。
PPTP をパススルーさせることによって、PPTP を使用した VPN を利用する事ができます。



HOT!! VPN を利用した場合、本装置配下にある他のパソコンは、インターネット等の外部に接続する事はできません。また、VPN 利用後も IP マスカレードタイマ設定で設定してある時間までは NAT テーブルが保持している為、インターネットに接続する事はできません。すぐにご利用になる時には、一度 PPP のセッションを切断後、再接続してください。

HOT!! 設定内容を確認後、「保存と再起動」ボタンをクリックすると設定内容を保存します。

7-11. IP マスカレードタイマ設定

IP マスカレードタイマ設定は、NAT テーブルのタイムアウト時間を設定します。

① 管理画面左側の操作メニューから「IP 系」フォルダの「IP マスカレードタイマ設定」をクリックすると、下のような「IP マスカレードタイマ設定」画面が表示されます。下記画面に従って、IP マスカレードタイマの設定をしてください。

IP マスカレードタイマ設定のデフォルト設定は、下記の通りです。
ICMP「30 秒」
UDP「180 秒」
TCP「3600 秒」(fin flag 無しの場合)
「15 秒」(fin flag または reset flag 有りの場合)
各項目はそれぞれ 6 桁(999999)まで入力可能です。

NAT テーブルがタイムアウトすると、現在ご利用中のインターネットゲームや FTP サーバのアクセスが切断されます。

② 設定内容を確認後、「保存と再起動」ボタンをクリックすると、設定内容の保存を行います。

7-12. UPnP 設定

UPnP 設定を有効にすると、Windows® Messenger や MSN Messenger 、UPnP に対応したインターネットゲーム等が、本装置の設定を行わず、そのままご利用できます。

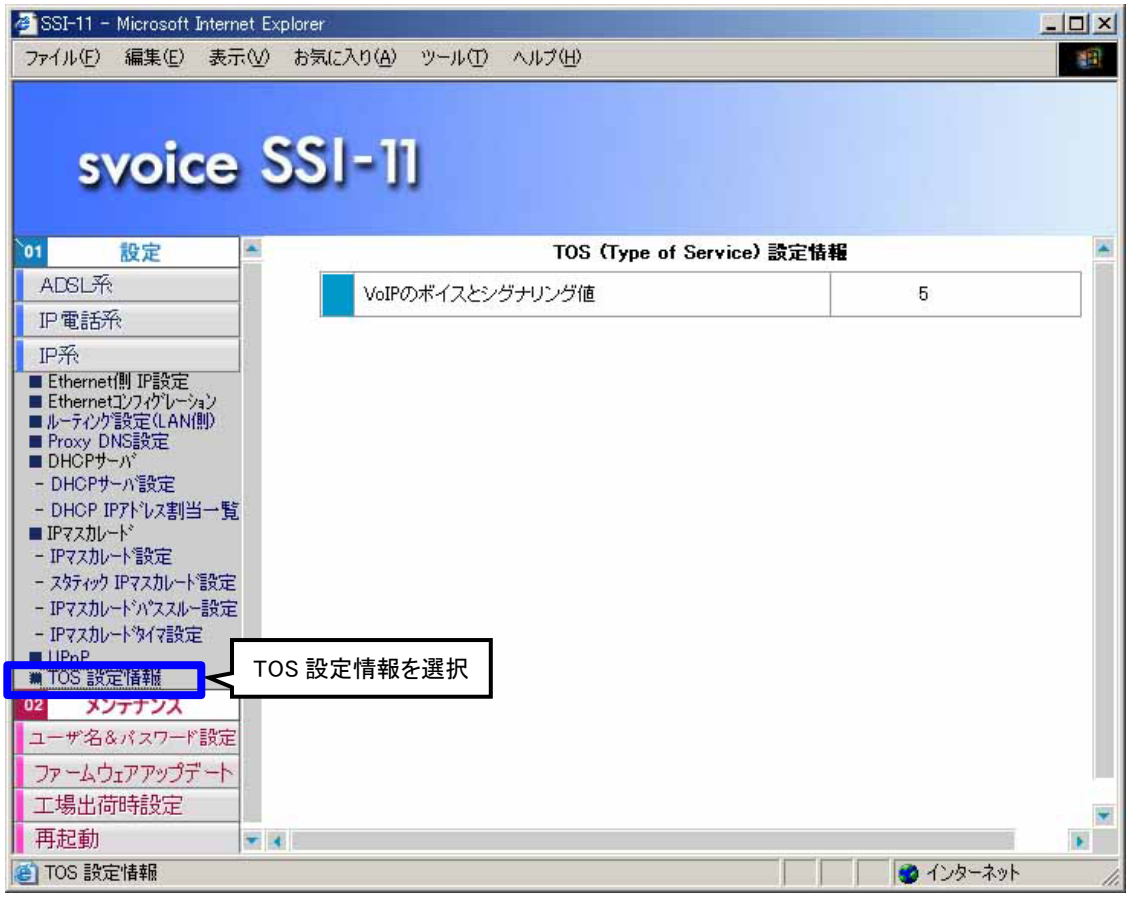
管理画面左側の操作メニュー「IP 系」フォルダから「UPnP 設定」をクリックすると、上図「UPnP 設定」画面が表示されます。説明に従って UPnP の設定をしてください。

UPnP 設定のデフォルト設定では「有効」になっています。
設定を変更した場合には設定内容を確認後、「保存と再起動」ボタンをクリックすると、設定内容の保存を行います。お使いのアプリケーションによっては、UPnP を無効にするとスタティック IP マスカレード設定等を行わないと使用できない場合があります。

HOT!! UPnP 設定を使用できるパソコンの OS は Windows® XP と Windows® Me になります。

7-13. TOS 設定情報

TOS（Type of Service）情報では、IP パケットのヘッダーにある TOS フィールドの情報を確認できます。
管理画面左側の操作メニュー「設定」フォルダから「TOS 設定情報」をクリックすると、下図「TOS 設定情報」画面が表示されます。
TOS 値とは Voice に関連するパケットである SIP シグナル、Voice データ、RTP、RTCP のデータの値です。
値として「5」から「0」までがあり、「5」が Voice を最優先にする値です。設定値は、「5」で固定されています。



7-14. MAC フィルタリング設定

この設定画面は「ブリッジモード」の時のみに設定が可能です。(ブリッジモードの設定は「ブリッジモード接続で動作させるとき」(34 ページ)を参照ください。)
MAC フィルタリング設定では MAC フレームでのフィルタリングを指定できます。
通過させたくない MAC フレームのチェックを外す事で MAC フレームを遮断する事ができます。
・チェックをいれる:パケットの通過
・チェックをしない:パケットを遮断

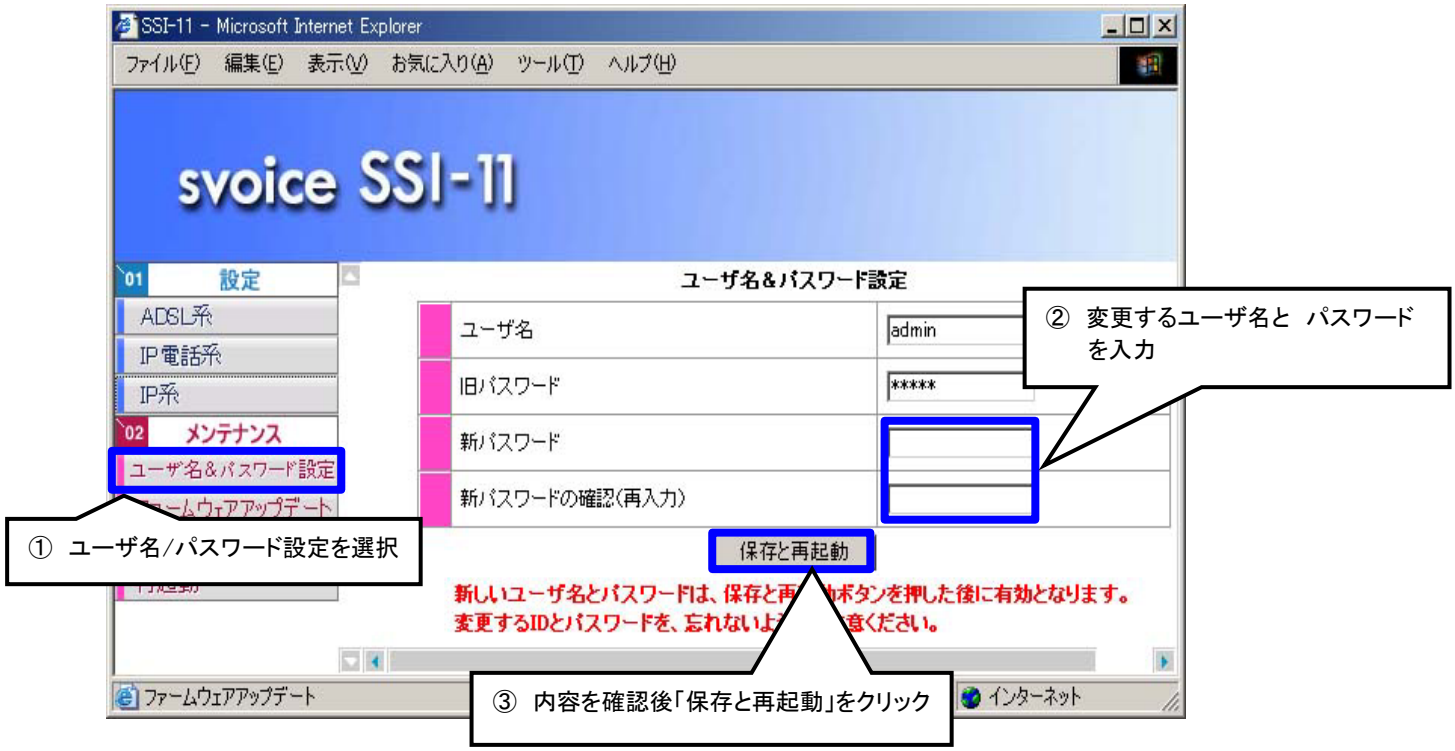
管理画面左側の操作メニュー「IP 系」フォルダから「MAC フィルタリング設定」をクリックすると、下図画面が表示されます。

デフォルト値では PPPoE/IP Multicast/IPv6 Multicast/IP Broadcast/RARP がチェック(通過する)になっています。

設定を変更した場合には設定内容を確認後、「保存と再起動」ボタンをクリックすると、設定内容の保存を行います。

8-1. ユーザ名とパスワードの変更

管理画面左側の操作メニュー「メンテナンス」フォルダから「ユーザ名&パスワード設定」を選択します。下記の説明に従ってユーザ名&パスワードの変更を行ってください。



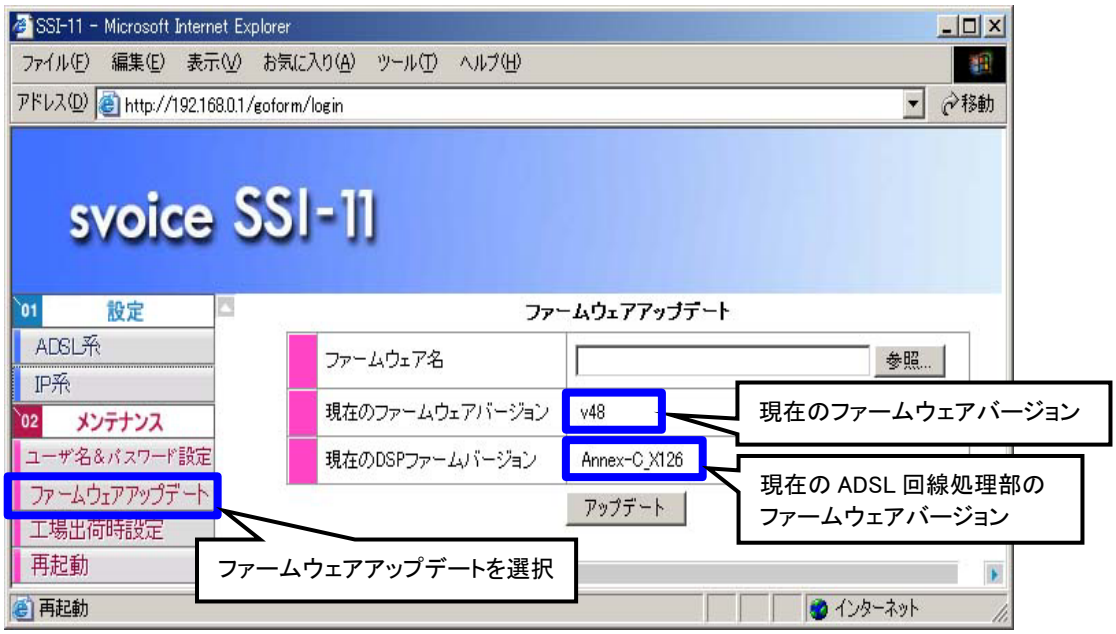
この画面にて本装置設定画面のユーザ名&パスワードを変更します。

ユーザ名：ユーザ名を変更する場合はこちらに入力します。
旧パスワード：現在使用しているパスワードを入力します。
新パスワード：新たに使用したいパスワードを入力します。
新パスワードの確認（再入力）：新パスワードを再度入力します。

HOT!! デフォルト設定はユーザ名：admin、パスワードは：admin です。
新しいユーザ名とパスワードを忘れてしまうと、本装置の設定画面には入れませんので忘れないように気をつけてください。

8-2. ファームウェアアップデート

本装置はファームウェアアップデートをする事により機能を最新版にアップデートする事ができます。



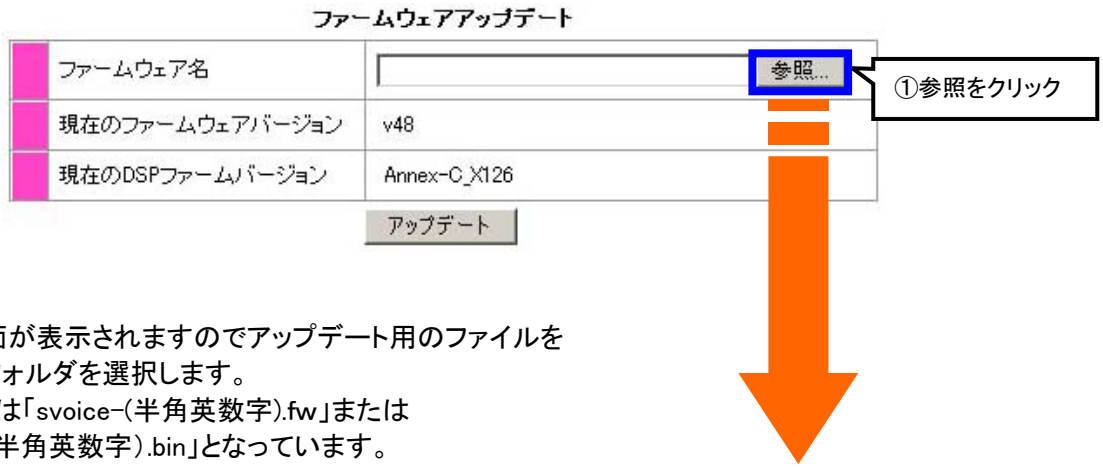
HOT!! ファームウェアアップデートを行う時は、本装置とパソコンの間を HUB 等で中継せず直接接続してください。

⚠ 本装置のファームウェアは、必要に応じて、ご契約されているサービスプロバイダから提供されます。
定期的にサービスプロバイダのユーザ情報などをご確認されることをおすすめします。

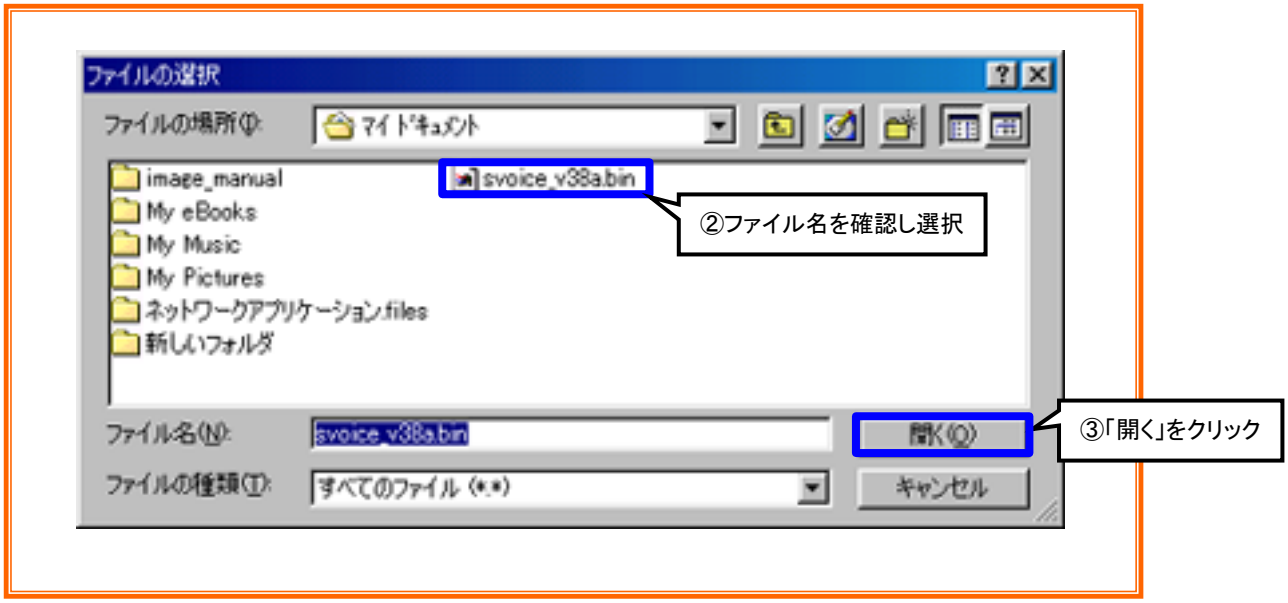
⚠ ファームウェアのアップデートは、お客様により手動で実施して頂く場合と、ADS 機能を利用して、自動で行う場合があります。尚、本マニュアルでは前者の場合をご説明しております。
ファームウェアのアップデートに関しては、手動/自動の方法を含め、ご契約されているサービスプロバイダの指示にしたがって行ってください。

ファームウェアアップデートの手順

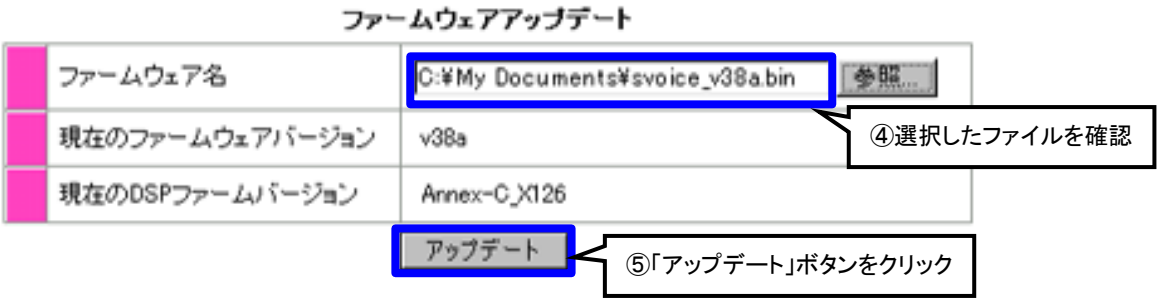
① ファームウェア名の「参照」をクリックします



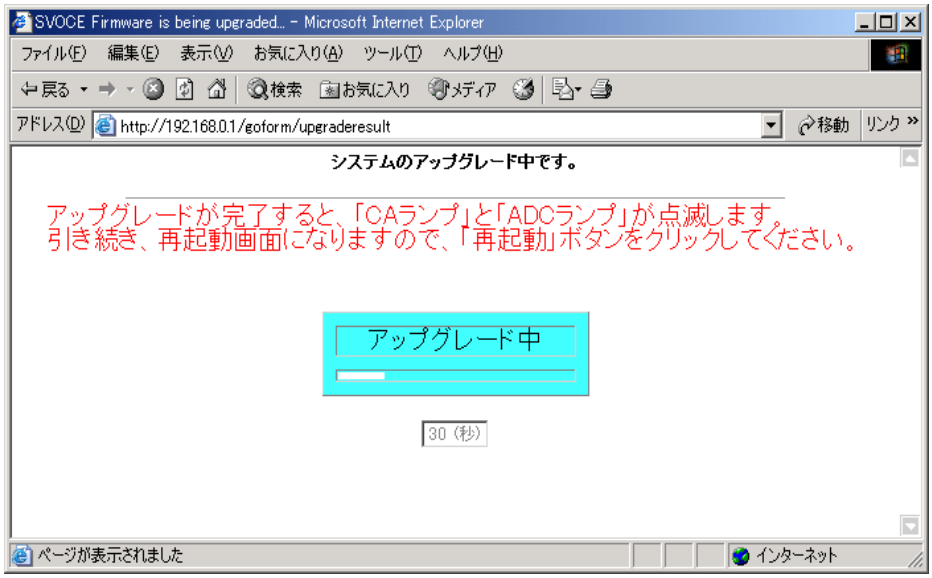
② 下記の画面が表示されますのでアップデート用のファイルを
保存したフォルダを選択します。
ファイル名は「svoice-(半角英数字).fw」または
「svoice-(半角英数字).bin」となっています。



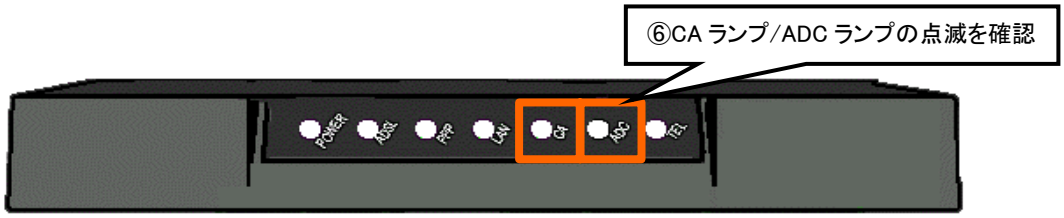
③上記ウィンドウが閉じるとファームウェアアップデートの「ファームウェア名」にファイル名が表示されます。
表示を確認したら「アップデート」ボタンをクリックします。



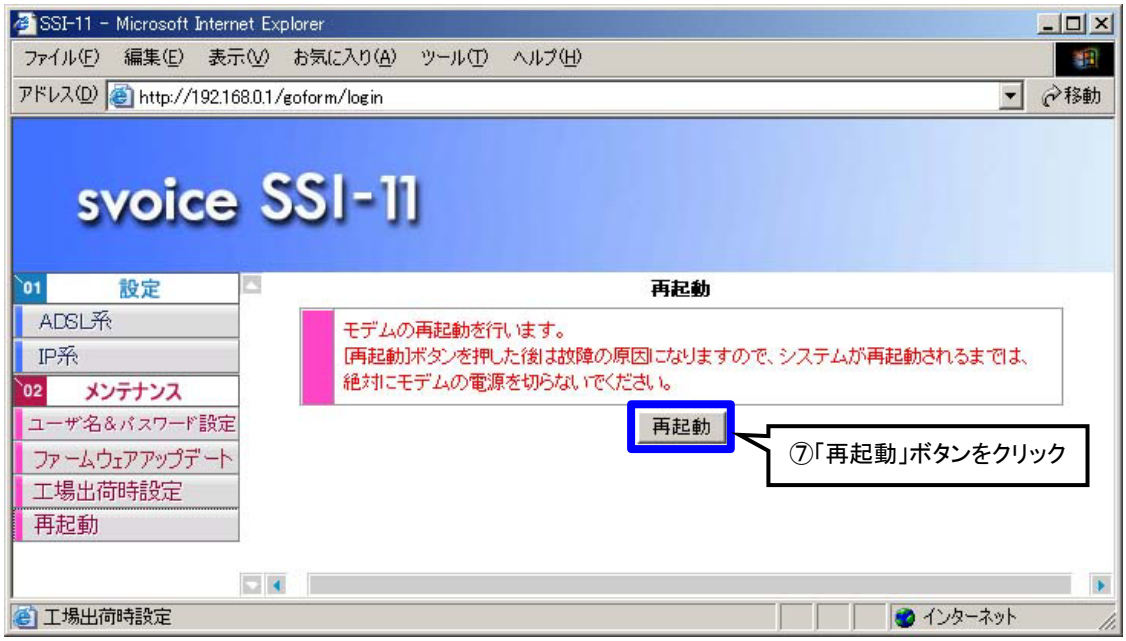
④システムのアップデートが行われます。(50 秒程かかります)



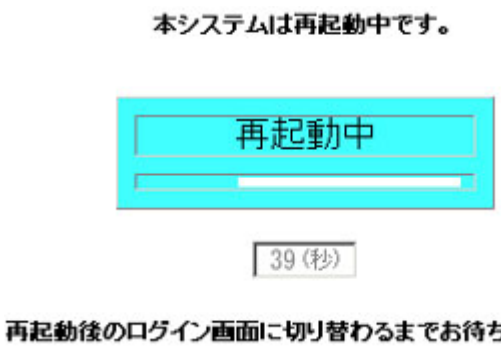
⑤システムのアップデートが終わると本装置のランプの CA ランプ/ADC ランプが点灯するのを確認します。



⑥画面は再起動画面になりますので「保存と再起動」ボタンをクリックし再起動を行います。

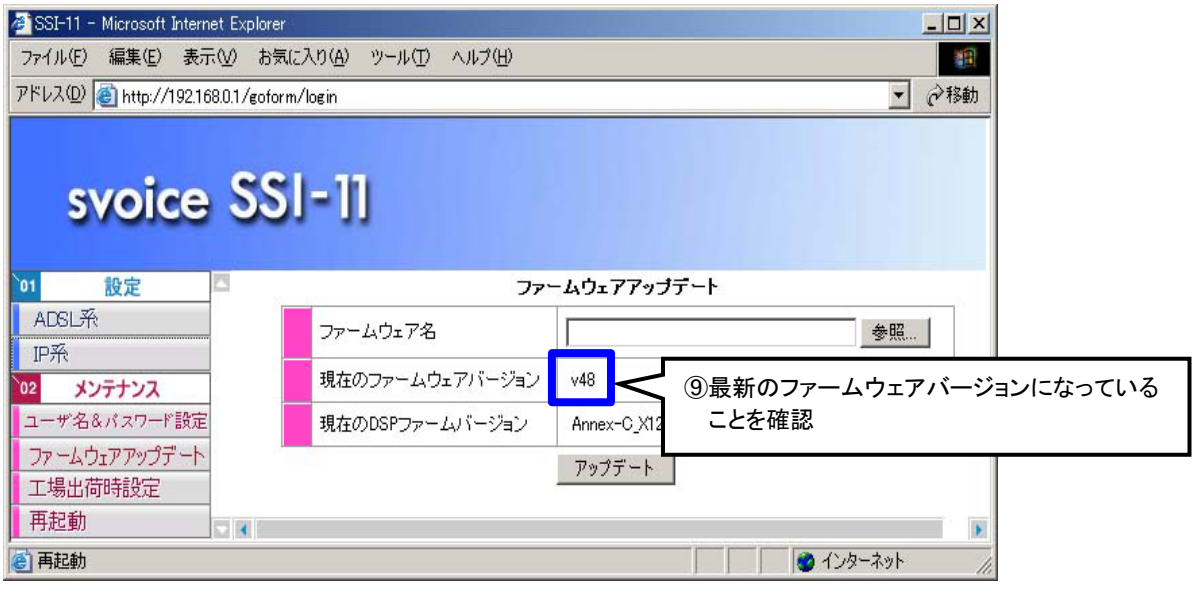


⑦再起動を行います。



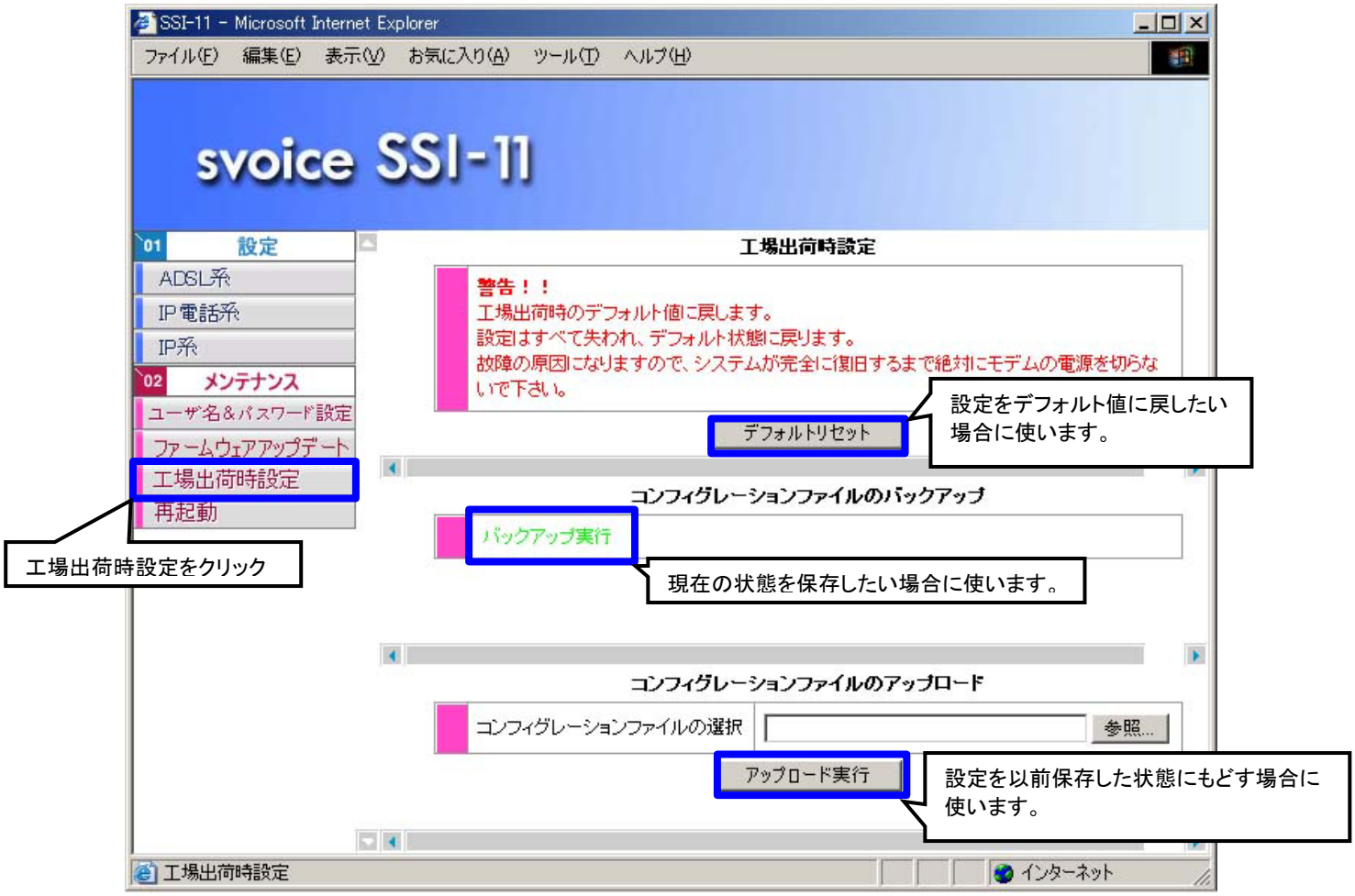
⑧PPP ランプが点灯したのを確認し、ログイン画面にて ID：admin/ Password：admin を入力し、Web 管理画面に入ります。

⑨本装置の設定画面の「ファームウェアアップデート」を選択します。



8-3. 工場出荷時設定

本装置の設定内容をすべてデフォルト値にしたい場合は、「工場出荷時設定」画面にて「デフォルトリセット」をクリックして工場出荷時状態に戻します。「コンフィグレーションファイルのバックアップ」は、設定内容を保存し、「コンフィグレーションファイルのアップロード」は、保存した時点の設定に戻す機能です。



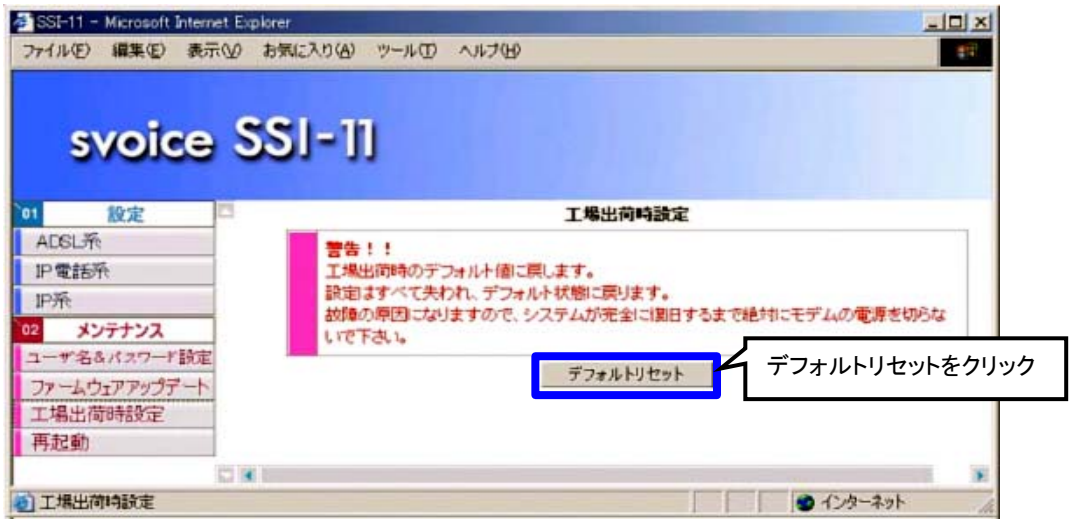
※ コンフィグレーションファイルのバックアップができない項目

- 『電話設定』(ADSL 系-『基本設定』内)
- 『IP 電話系』

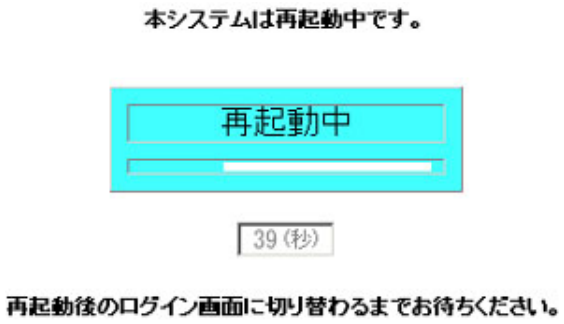
⚠ 注意　コンフィグレーションバックアップを行うと、IP 電話機能が使えなくなります(CA 登録状態:CA 未登録)。コンフィグレーションバックアップを行った後は、『ADSL 系』フォルダの『基本設定』画面の「保存と再起動」ボタンをクリックし、保存と再起動を行ってください。

①デフォルト値（工場出荷時設定）に戻したい場合

①-1. 「デフォルトリセット」をクリックします。



①-2. 自動的に再起動を行います。

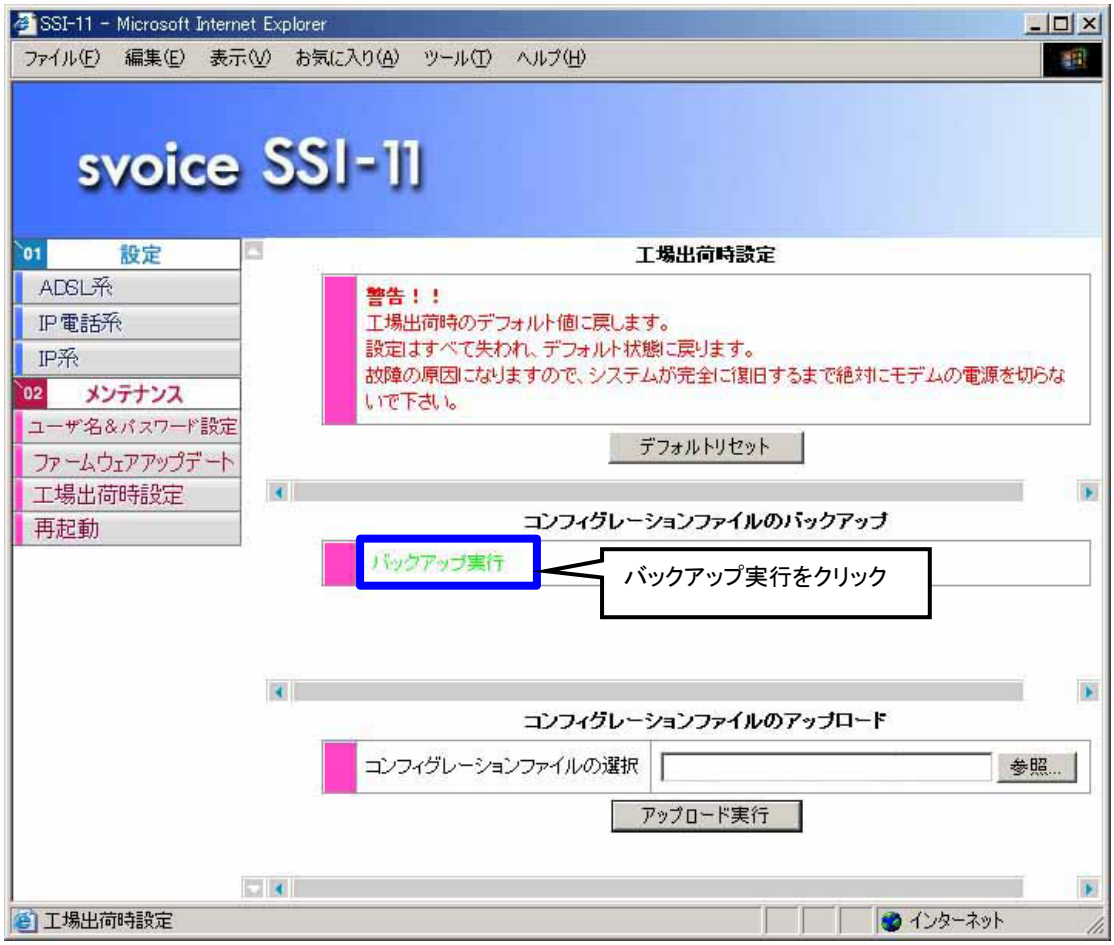


①-3. PPP ランプが点灯したのを確認し、ログイン画面にて ID:admin/ Password:admin を入力し管理画面に入ります。設定がすべて工場出荷時に戻っています。

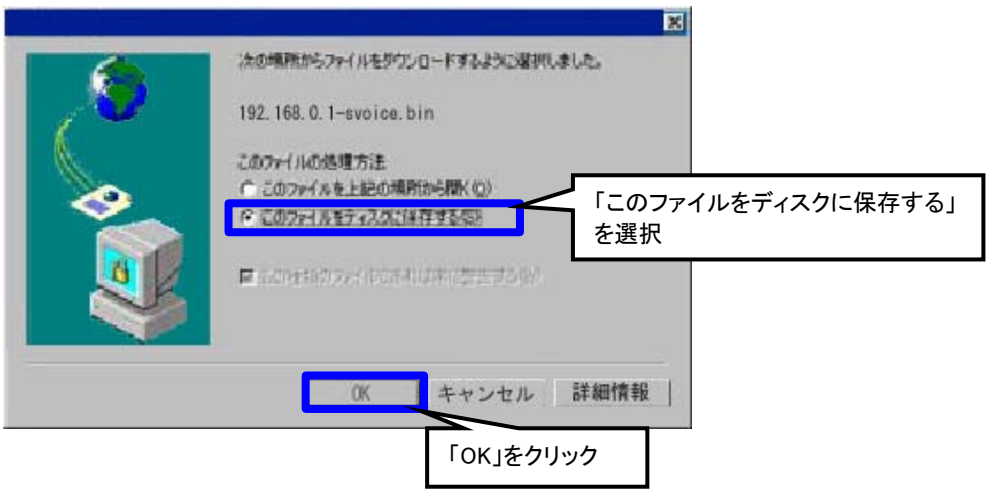
参考 ： 本装置背面にある INIT（または Reset）ボタンでも工場出荷時設定に戻すことができます。ボールペンの先などでボタンを 1 回押下して、前面「TEL」ランプが点滅したら、出荷時設定がスタートします。
尚、「TEL」ランプ点滅後の約 2 分間は、本装置の電源を切らないでください。

②コンフィグレーションファイルのバックアップ（現在の設定を保存）したい場合

②-1 「バックアップ実行」をクリック。



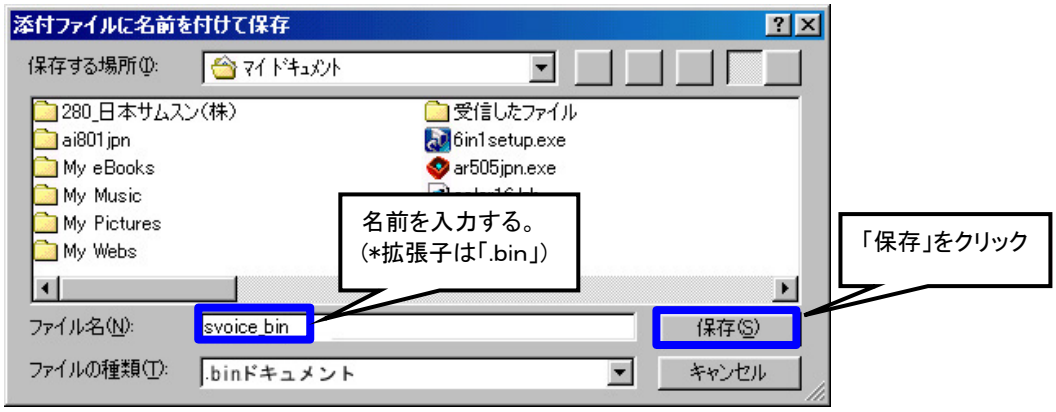
②-2 「ファイルのダウンロード」のポップアップが表示されますので、「このファイルをディスクに保存する」を選択し、「OK」をクリックします。



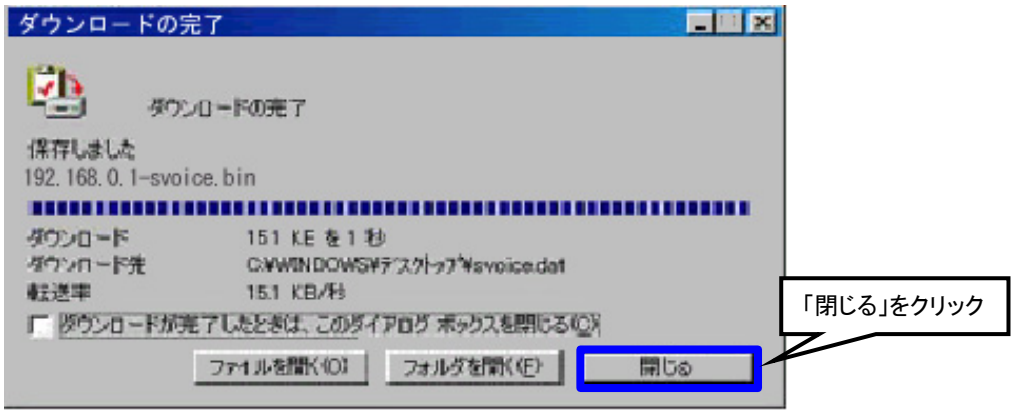
②-3 「名前を付けて保存する」のポップアップが表示されますのでファイル名を指定して、「保存」をクリックします。

名前は「～.bin」の（～）部分は変更できます。

必ず拡張子は「.bin」にしてください。



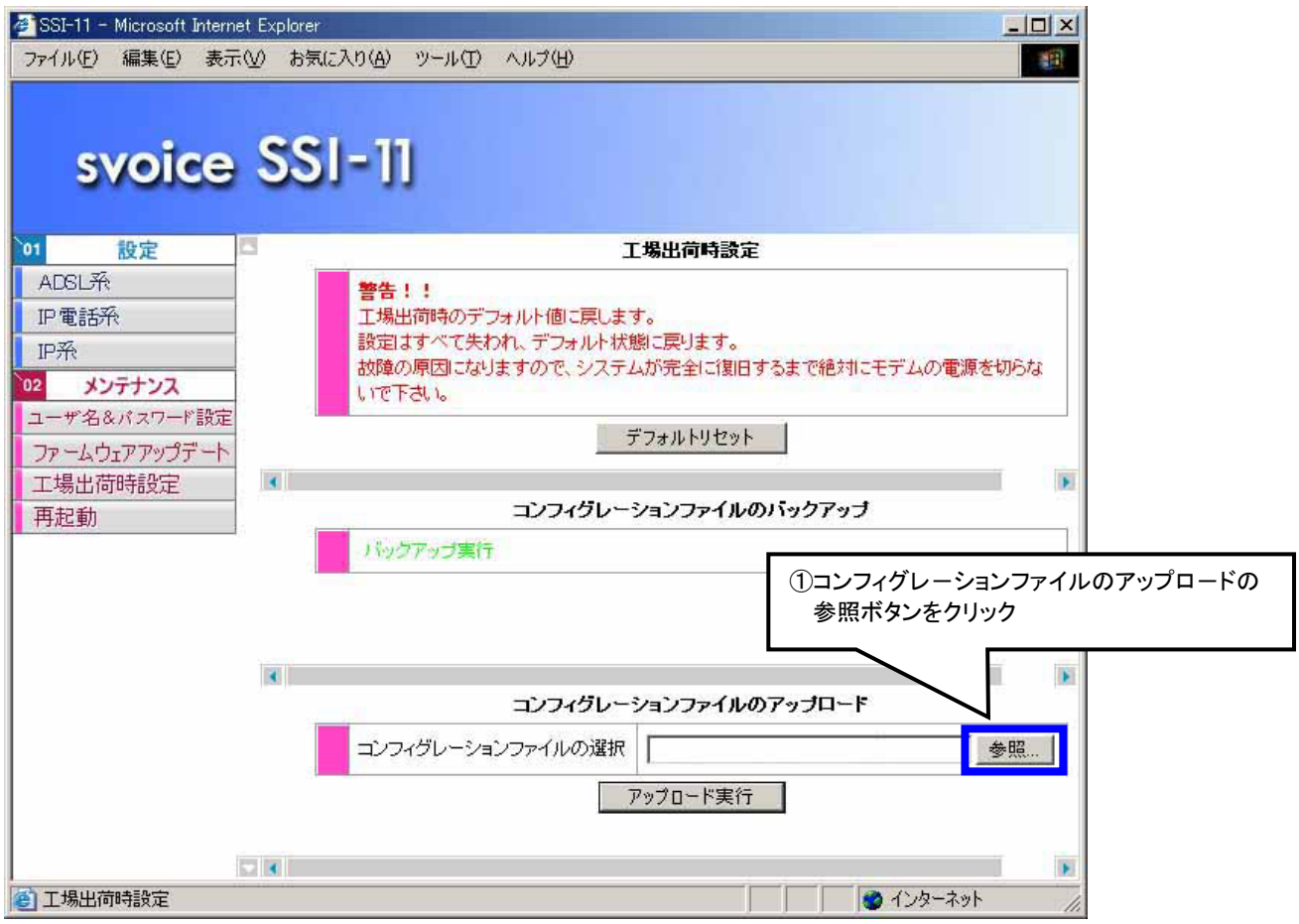
②-4 「ダウンロード完了」のポップアップが表示されますので「閉じる」をクリックします



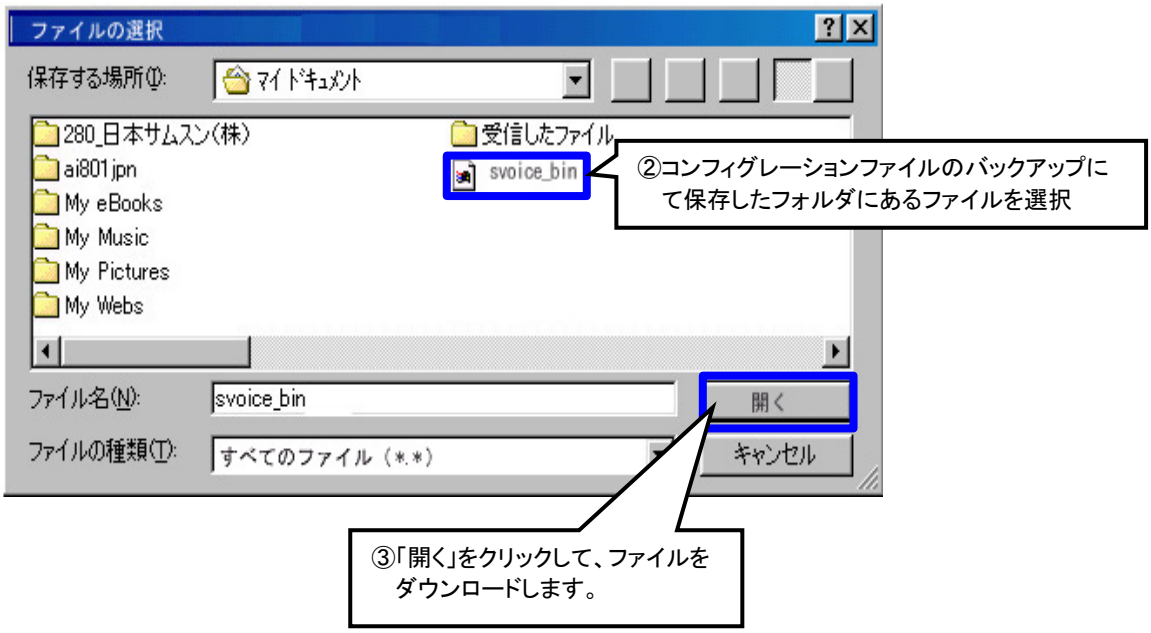
以上でコンフィグレーションファイルのバックアップ（現在の設定を保存）は完了です。

③コンフィグレーションをアップロード（設定を保存した状態に戻す）する場合

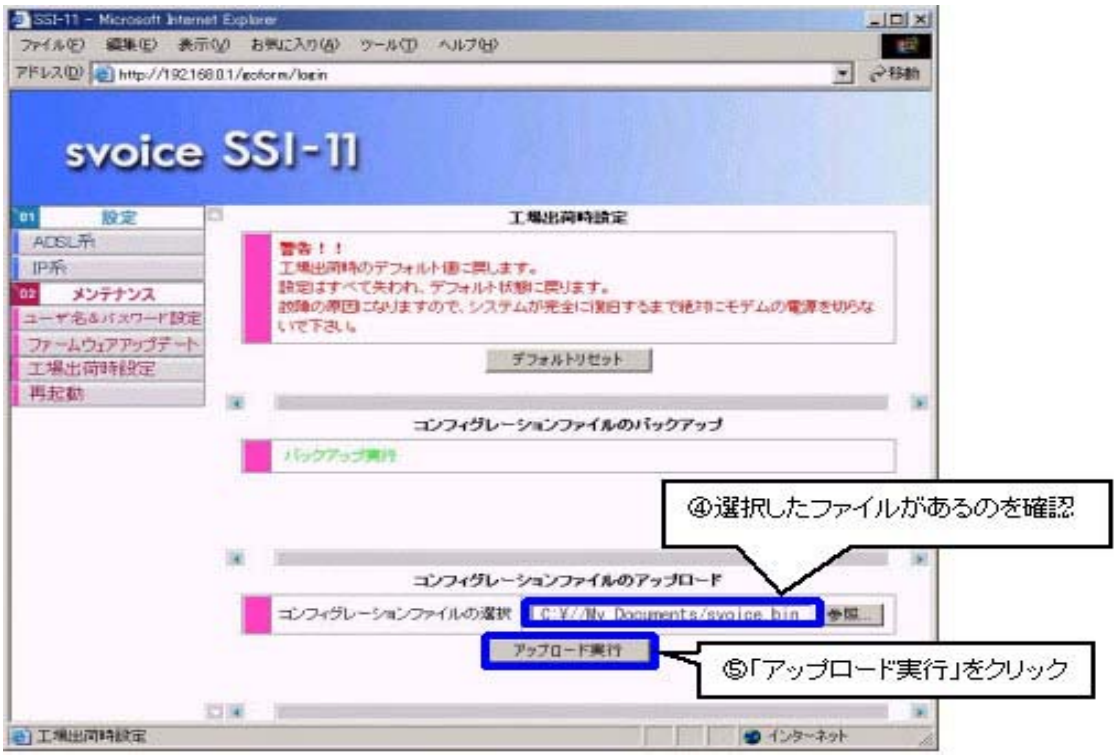
③-1　コンフィグレーションファイルの選択の「参照」をクリック。



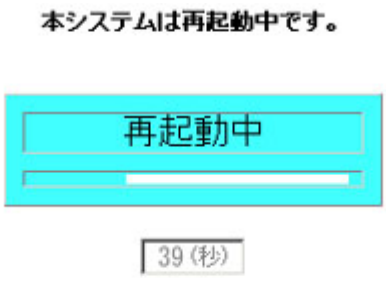
③-2 「ファイルの選択」のポップアップが出ますのでバックアップファイルを保存したファイルを選択し「開く」をクリック。



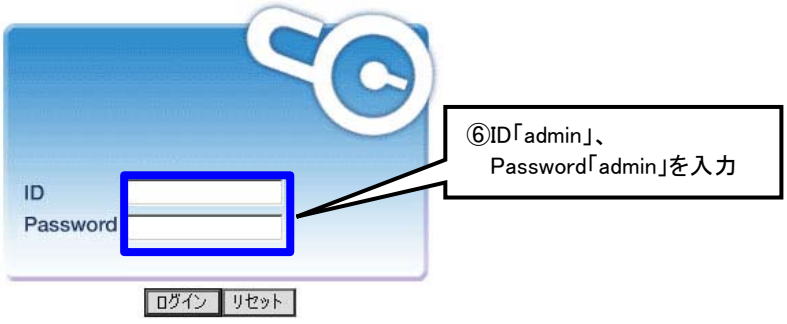
③-3 「コンフィグレーションファイルの選択」に選択したファイル名があるのを確認し「アップロード実行」をクリックする。



③-4 下記のような再起動の画面が表示されます。
（下記の画面になるまで数秒かかることがあります。）



③-5 PPPランプが点灯したのを確認し、ログイン画面にてID：admin/ Password：adminを入力し管理画面に入ります。設定がバックアップされています。

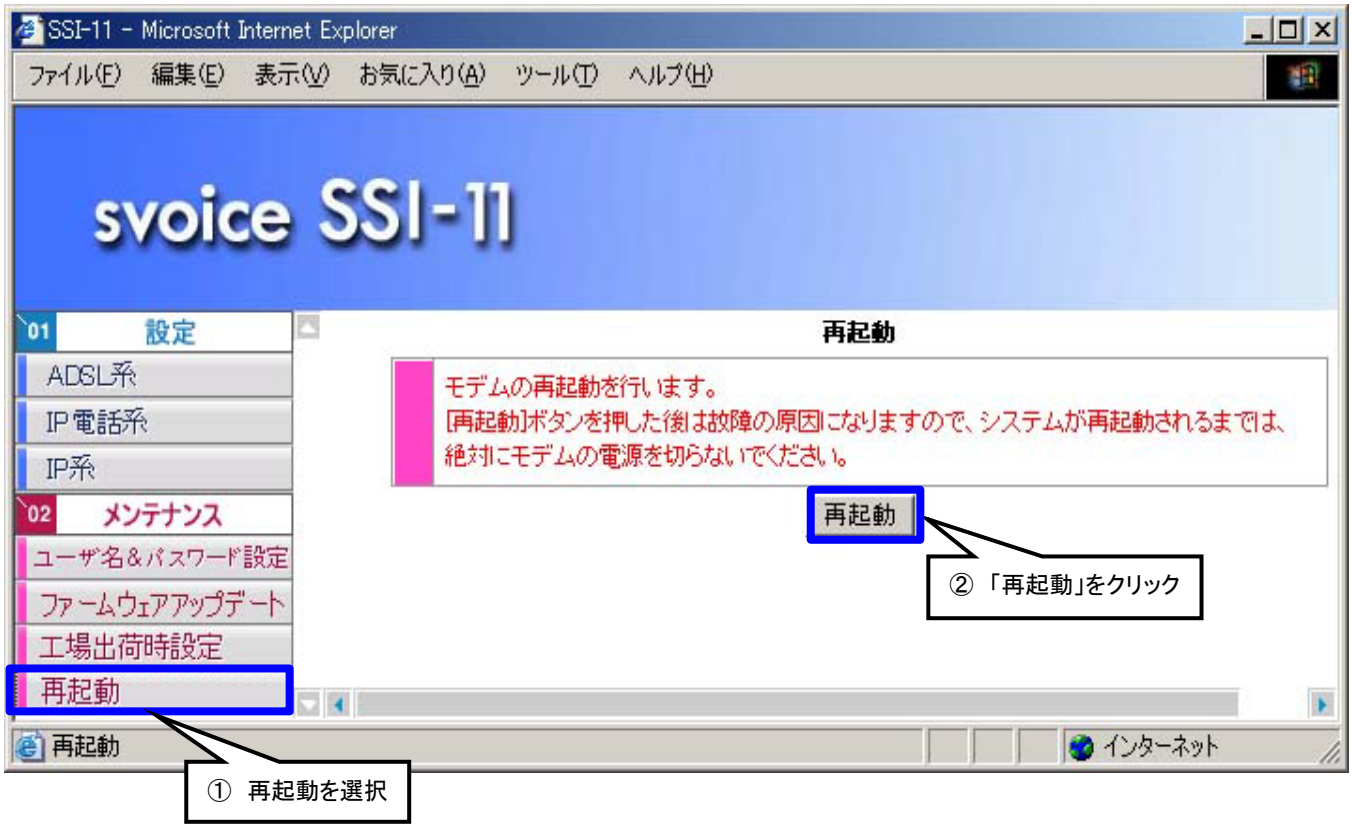


③-6 以上でコンフィグレーションのアップロードが完了です。

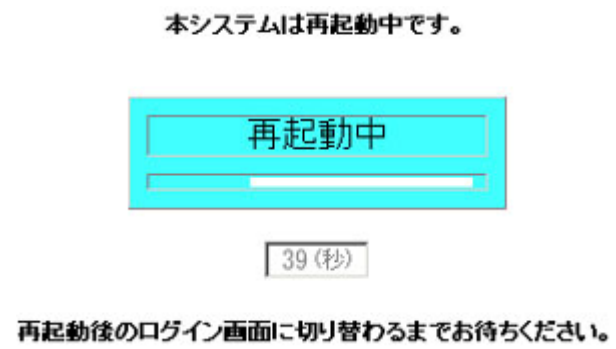
8-4. 再起動

本装置へ変更内容を保存するには、再起動する必要があります。
管理画面左側の操作メニュー「メンテナンス」フォルダから「再起動」を選択します。

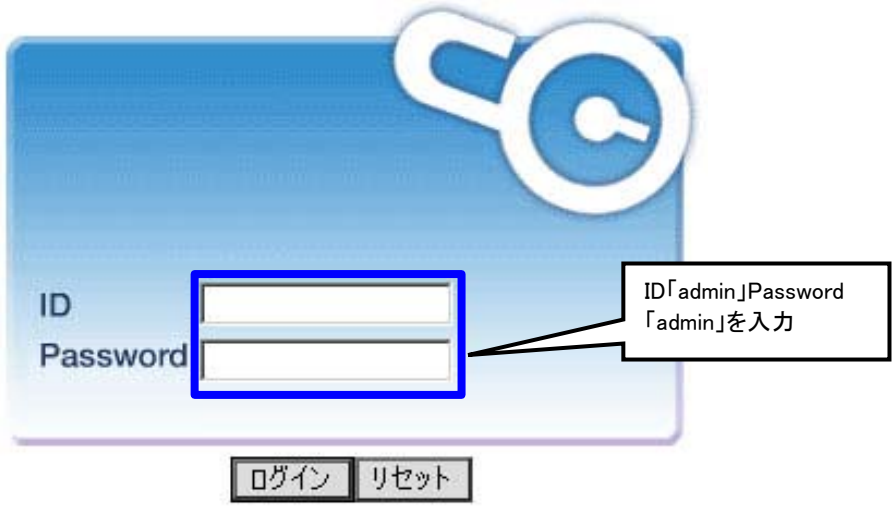
①「再起動」ボタンをクリックします。



②下記のような再起動の画面が表示されます。



③PPP ランプが点灯したのを確認し、ログイン画面にて ID：admin/ Password：admin を入力し、Web 管理画面に入ります。



HOT!! ログイン画面が表示される前に本装置の電源が切れた場合、正常に起動及び動作しなくなる事があります。再起動中に本装置の電源の切断、Ethernet ケーブルの抜き差しは故障の原因となりますので行わないようお願いします。

9-1.　本装置設定のトラブル

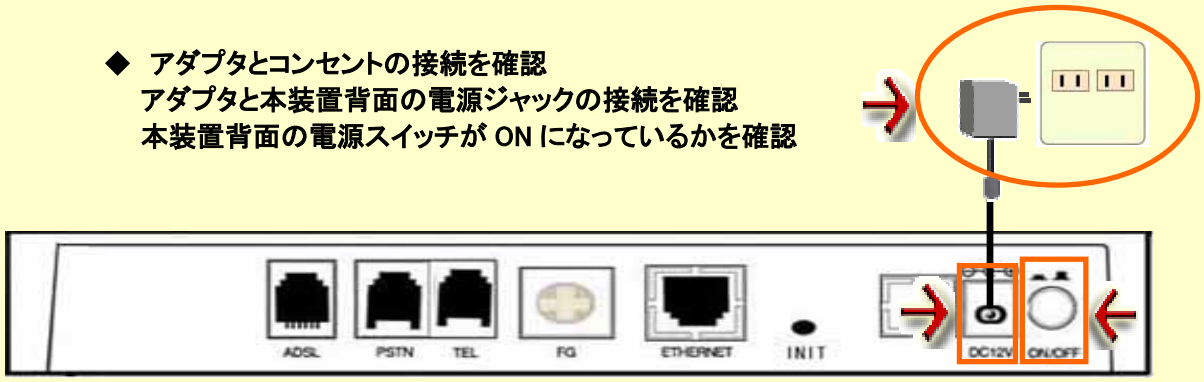
▷ POWER ランプが点灯しません。

AC 電源アダプタがコンセントに正しく接続されていますか？
➔ AC 電源アダプタをコンセントに正しく接続してください。

AC 電源アダプタを本装置背面の電源ジャックにきちんと差し込んでください。
※AC 電源アダプタは、必ず本装置付属の製品をご使用ください。

本装置の電源スイッチが ON になっていますか？
➔ 装置背面の電源スイッチを ON にしてください。スイッチを押し込んだ状態が ON になります。

◆ アダプタとコンセントの接続を確認
アダプタと本装置背面の電源ジャックの接続を確認
本装置背面の電源スイッチが ON になっているかを確認



▷ 本装置に電源投入後、すぐに Web 管理画面に接続できない。

本装置の起動が終わるまでお待ちください。
➔ 本装置の起動が完了し、パソコンとの接続作業が終わるまでは、Web 管理画面に接続できません。電源投入後は 1 分程度お待ちになり、LANランプが点灯しているのをご確認の上、Web 管理画面の接続を行ってください。

▷ Web 管理画面に接続できません。

LAN ランプは点灯していますか？
➔ LAN ランプが点灯していない場合は、再度「3-2. IP 電話機能付き ADSL モデムの接続方法」を参照して配線の確認をしてください。また、パソコンが LAN カードを認識しているか、LAN カードに付属されているマニュアルを参照の上、ご確認ください。

パソコンのネットワーク設定に問題はありませんか？
➔ ネットワーク設定が間違っていないかどうか、「2-4. ネットワーク設定のご準備」を参照してください。

プロキシの設定がしてありませんか？
➔ プロキシサーバを使用してインターネットに接続している方は、モデムの Web 管理画面が表示できません。正しい設定は「2-4. ネットワーク設定のご準備」を参照してください。

9-2. ADSL 接続に関するトラブル

▷ ADSL ランプが消灯のまま変化がありません。

ADSL 契約回線が収容されているウォールジャックに接続していますか？
➔ 宅内に複数の電話回線が配線されている場合には、ADSL 契約をした回線に接続してください。

配線の繋ぎ間違えはありませんか？
➔ 再度「3-2. IP 電話機能付き ADSL モデムの接続方法」を参照して配線の確認をしてください。

セキュリティ装置が設置されていませんか？
➔ 宅内にセキュリティ装置が設置されている場合は別途配線工事が必要になる場合があります。特に集合住宅の場合は、管理会社、管理組合にお問い合わせください。
（遠隔警備システム・火災報知機・ガス検知機など）

▷ ADSL ランプが点滅後、点灯せずに消灯に戻ってしまいます。

宅内のモジュラージャックが複数ありませんか？
➔ 使用していないモジュラージャックも含めて複数ある場合は、スプリッタの増設が必要になる場合があります。また、スプリッタを増設しても上手くいかない場合は、宅内の配線工事が必要になる場合があります。
詳しくはご契約されているサービスプロバイダまでお問い合わせください。

ADSL モデムの設置位置に問題はありませんか？
➔ 冷蔵庫・TV・電子レンジなど、ノイズを発生させる要因のある機器の上、横などに置かれている場合は、本装置をその機器から離してください。

▷ ADSL 接続が時々切れてしまいます。

ADSL モデムの設置位置に問題はありませんか？
➔ 冷蔵庫・TV・電子レンジなど、ノイズを発生させる要因のある機器の上、横などに置かれている場合は、その機器から離してください。

セキュリティ装置が設置されていませんか？
➔ 宅内にセキュリティ装置が設置されている場合は、別途配線工事が必要になる場合があります。特に集合住宅にお住まいの方は、管理会社様、管理組合様にお問い合わせください。（遠隔警備システム・火災報知機・ガス検知機など）

電話線の配線に問題はありませんか？
➔ 電話線はノイズを拾いやすいのでモジュラージャックとパソコンの間隔がある場合は、長い LAN ケーブルを使用し、電話線はなるべく短くなるようにしてください。

AC 電源アダプタのコンセントを変えてみてください。
➔ TV 等の電源からのノイズが混入して本装置が不安定になっている可能性があります。

保安器の問題の可能性があります。
➔ 保安器の一部（6PT という種類）では、電話着信時に ADSL 回線が切断もしくは著しく速度低下することが確認されており、保安器の交換をおすすめすることがあります。詳しくはご契約のサービスプロバイダにお問い合わせください。

▷ OAM セルループバック試験で失敗してしまいました。

ADSL ランプは点灯していますか？

➔ ADSL ランプが点灯しないと OAM セルループバック試験は失敗します。
ADSL ランプが点灯するように「3-2. IP 電話機能付き ADSL モデムの接続方法」から行ってください。

マニュアルを見て本装置を設定しましたか？

➔ 正しく設定されていないと OAM セルループバック試験は行えません。「3-2. IP 電話機能付き ADSL モデム機能の設定方法」から行ってください。

VPI 値／VCI 値はそれぞれ正しく設定されていますか？

➔ 本装置は基本的にプロバイダ指定の値をデフォルト値（VPI 値：0／VCI 値：35）として設定してあります。
お客様で数値の変更をされた場合、

◆ADSL 系 ＞
ルータ・ブリッジモード ＞
詳細設定画面
※詳しくは、『4.2 詳細設』
をご確認ください。

＜図＞VPI/VCI 値の設定画面

▷ PPP 接続ができません。

接続用認証 ID、接続用認証パスワードは正しく入力されていますか？

➔ プロバイダから指定された ID、パスワードを正しく入力してください。特に大文字、小文字の区別、数字「0(ゼロ)」と英字「O（オー）」の区別などにご注意ください。

9-3. 本装置動作時に関するトラブル

▷ 設定した通りに本装置が動作しません。

本装置を設定後、(保存と再起動)を実行しましたか?

➔ 本装置は、設定入力・設定変更後、その内容を有効にする為に『保存と再起動』を実行する必要があります。

※接続用認証 ID、接続用認証パスワードを入力後、『PPP 接続』をクリックした場合、PPP の認証が可能ですが、本装置の電源 OFF→ON 後も入力内容を有効にするには、同基本設定画面の中段にある『保存と再起動』の実行が必要です。

▷ キャリアチャートが文字化けして表示されません。

お客様のご使用の OS は Microsoft Windows NT ではありませんか？

➔ キャリアチャートを表示するには、Microsoft Virtual Machine が必要です。Microsoft Windows NT は、初期インストール時には「標準」を選択すると、Microsoft Virtual Machine がインストールされていません。初期インストール時は「標準」ではなく「完全」を選択し、Microsoft Virtual Machine にチェックが入っていることを確認してください。
また、現在インストールされていない場合は、Windows NT の取扱説明書等をご参照の上、正しくインストールしてください。

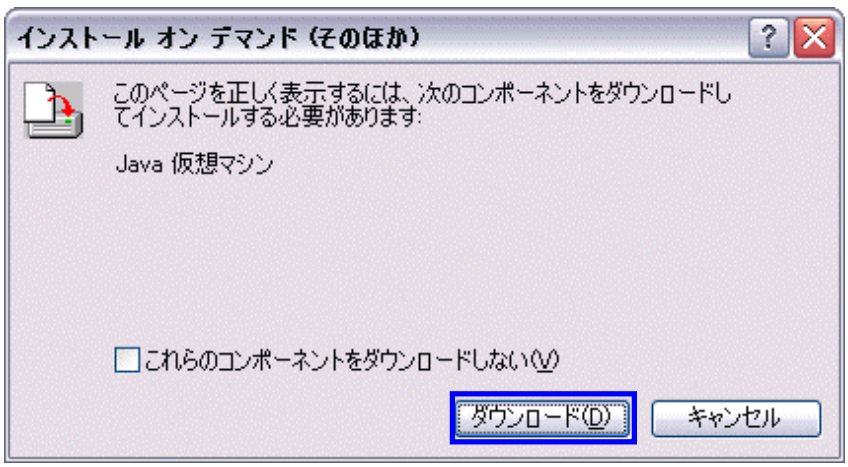
ブラウザ標準の Java Runtime 以外の Java を利用していませんか？

➔ ブラウザ標準の Java Runtime を利用していない場合、キャリアチャートが文字化けすることがあります。Java Runtime の設定で、ブラウザとの関連付けを外すことで、正常に表示されます。

お客様のご使用の OS は Microsoft Windows XP ではありませんか？

➔ キャリアチャートを表示するには、Java 仮想マシンが必要です。Microsoft Windows XP は、初期インストール時には「標準」を選択すると、Java 仮想マシンがインストールされません。初期インストール時は「標準」ではなく「完全」を選択し、Java 仮想マシンにチェックが入っていることを確認してください。

『ADSL キャリアチャート』をクリックすると以下の画面が表示されます。
Java 仮想マシンをダウンロードし、インストールすることによって、キャリアチャートを表示させることができます。



〈上図下段の「ダウンロード」ボタンをクリックしてダウンロードを開始してください。〉

Windows Messenger／MSN Messenger が使えなくなりました。

ADSL リンクダウン、本装置設定による『保存と再起動』、本装置電源 OFF などをした後に Messenger が正常に利用できなくなる場合があります。

➔ Messenger をサインインしなおしてください。もしくは、パソコンを再起動してください。

9-4. IP 電話に関するトラブル

IP 電話が使えなくなりました。

CA ランプが点灯し、IP 電話サーバ（CA:コールエージェント）に登録が完了しているかをご確認ください。「5-1. IP 電話の基本設定」「5-2. IP 電話機能の操作」を参照して、設定の確認をしてください。

一般電話が使えなくなりました。

本装置及びご使用になる電話機のダイヤル方式が、電話回線のダイヤル方式と一致しているかご確認ください。

➔「5-3. IP 電話機能のその他の設定画面（2）. 電話詳細設定」を参照して、ダイヤル方式の確認をしてください。本装置は、ダイヤル方式を自動で選択する機能を搭載しておりますが、手動にて設定される場合、 自動選択が正しく行われなかった場合には、お客様のご契約されている電話回線のダイヤル方式を選択して『保存と再起動』を実行してください。また、ご使用になる電話機のダイヤル方式の設定につきましては、電話機付属の取扱説明書を参照して、設定してください。

一般電話接続テーブルに設定した電話番号が IP 電話で発信されます。

登録内容と同じように、市外局番からダイヤルしてください。

➔ 一般電話接続テーブルは、ハイフンを除く市外局番を含む全ての電話番号を登録します。本機能をご利用になる場合、登録した通りにダイヤルする必要があります。再度、「5-3. IP 電話機能のその他の設定画面（3）. 一般電話接続テーブル」をご確認ください。

本装置の状態説明（LED/接続情報）と各ケース別の対処方法を教えてください。

＜図＞本装置前面の LED ランプ

▼下記の表を参考にしてください。

▷ 本装置の状態表示（LED ランプ/接続情報）と ADS 機能センターとの接続状態について

下記の表を参考にしてください。また、必要に応じてお客様にて設定の確認などを行ってください。

NO	LED ランプ			接続情報		IP 電話利用	センターとの接続状態
	PPP	CA	ADC	ADC 接続	CA 登録		
1	点灯	点灯	点灯	運用中	CA 登録完了	○	センターからのダウンロードが利用可能な状態です。
2	点灯	点灯	点滅	優先通話	CA 登録完了	○	センターとの通信中に電話を利用した為、センターとの通信を中断し、待機している状態です。電話が終わり次第、通信を再開します。
3	点灯	消灯	点滅	優先通話	CA 未登録	×	
4	点灯	消灯	点滅	通信中 PSTN 認証成功	CA 未登録	×	センターとの通信中です。
5	点灯	消灯	点滅	通信リトライ中 1	CA 未登録	×	センターとの通信を再開するスタンバイ状態です。しばらくお待ちください。
6	点灯	消灯	点滅	通信リトライ中 2	CA 未登録	×	センターとの通信を再開するスタンバイ状態です。通信再開には時間がかかりますので、お急ぎの場合は、本装置の電源を入れ直すか、Web 管理画面『基本設定』の『保存と再起動』をクリックしてください。
7	消灯	消灯	点灯	運用中	CA 未登録	×	ADSL をご利用頂けない状態です。接続及び設定を確認して、ADSL の利用可能な状態にしてください。
8	点灯	消灯	消灯	〈空欄〉	CA 未登録	×	センターとの通信ができない状態です。Web 管理画面『基本設定』の IP 電話自動設定の「実行する」にチェックを入れ、『保存と再起動』をクリックしてください。
9	消灯	消灯	消灯	〈空欄〉	CA 未登録	×	センターとの通信ができない状態です。マニュアルにしたがって本装置の設定をしてください。
10	点灯	消灯	消灯	強制停止中	CA 未登録	×	センターとの通信ができない状態です。IP 電話サービスの利用可否、開通の時期を確認してください。ご確認後、本装置の電源を入れ直すか、Web 管理画面『基本設定』の『保存と再起動』をクリックしてください。
11	点灯	消灯	点灯	回線抜け	CA 未登録	×	PSTN 回線が抜けています。センターとの通信ができませんので、PSTN 回線を接続してください。
12	点灯	点滅	点滅	再起動待ち	CA 登録完了	○	本装置は再起動を待っている状態です。電源の入れ直し、または再起動を実行してください。再起動を実行しなかった場合でも、一定時間経過後に自動的に再起動を行います。

9-5. メンテナンスに関するトラブル

Web 管理画面へアクセスするユーザ名、パスワードが分からなくなりました。

本装置背面にある INIT（または Reset）ボタンを押して、工場出荷時設定に戻してください。

➔ 電源 ON の状態で、ボールペンの先などを利用して、前面の TEL ランプが点滅するまで（約 3 秒間）、スイッチを押してください。TEL ランプ点滅後、約 2 分間で本端末が工場出荷時状態として起動完了しますので、ユーザ名／パスワード「admin」/「admin」で Web 管理画面にアクセスすることができます。

※INIT（または Reset）ボタンを押すとお客様の行った設定は全て初期化されますのでご注意ください。

第 10 章　付録－ブリッジモードの設定

本装置は、本装置をブリッジモードに設定して、PPP（ダイヤルアップ接続において、ユーザ ID・パスワードを用いて認証し接続する際に用いられる一般的なプロトコル）認証の制御をパソコン上で行うことが可能です。この付録の章では、PPPoE（PPP の機能をイーサネットを通して利用するためのプロトコル）クライアント機能が OS に標準でインストールされている Windows® XP と Macintosh OS X についてその設定方法の手順を説明します。
なお、本装置をブリッジモードに設定にした場合、本装置に HUB を使用して複数台のパソコンを接続しても、インターネットに接続できるパソコンの台数は1台のみとなります。
また、ブリッジモードに設定した場合には、IP 電話はご利用できません。

10-1. IP 電話機能付き ADSL モデムの設定変更

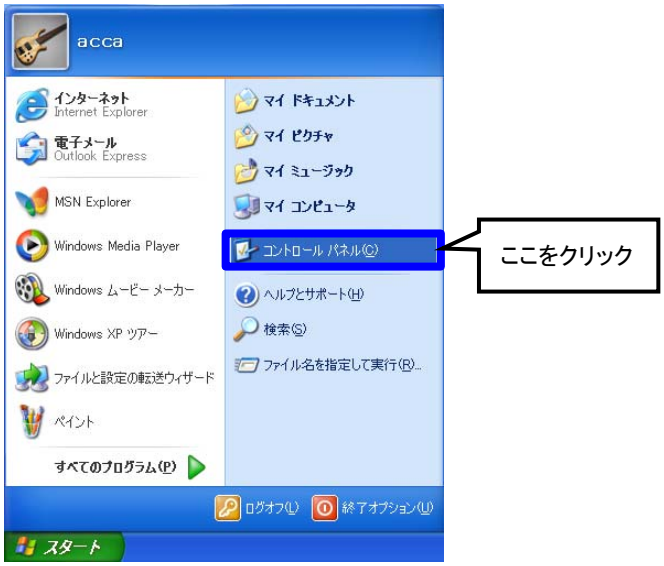
本装置をブリッジモードに設定した場合 DHCP サーバ機能が無効になるため本装置より IP アドレスを割り当てられません。そのため、本装置をブリッジモードに設定する場合は、以降のページをご参照の上、あらかじめパソコンの IP アドレスを手動により設定してください。

（1）. パソコンのネットワーク設定のご準備

Windows® XP	13 ページ
Macintosh OS X	17 ページ

Windows® XP の場合

手順1. スタートメニューより「コントロールパネル」をクリックします。
※クラシック[スタート]メニュー（以前のバージョンの Windows®メニュースタイル）にしている場合は、スタートメニューより「設定」→「コントロールパネル」をクリックします。



＜カテゴリ表示の場合＞

手順2.「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。

手順3.「ネットワーク接続」をクリックします。

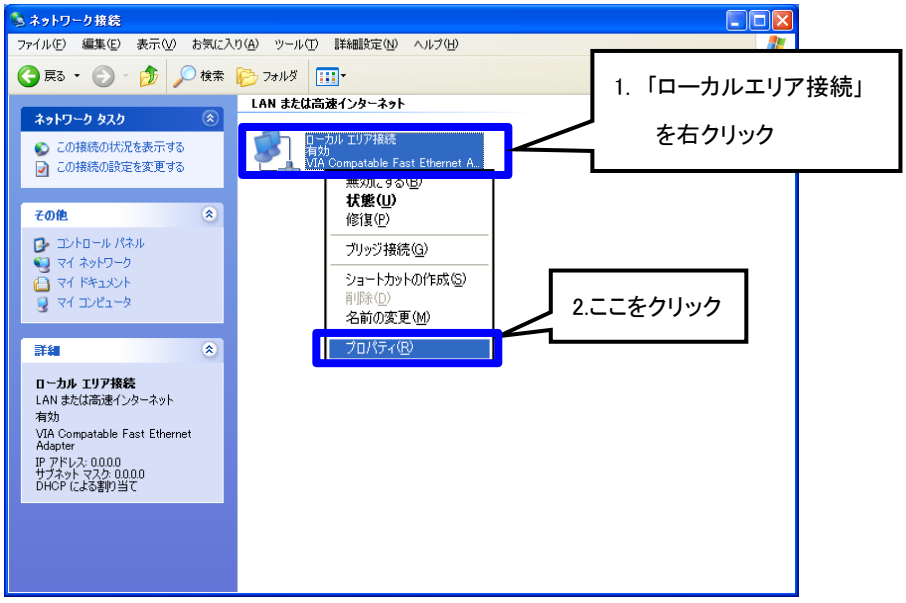
（手順4）.へお進みください。

＜クラシック表示の場合＞

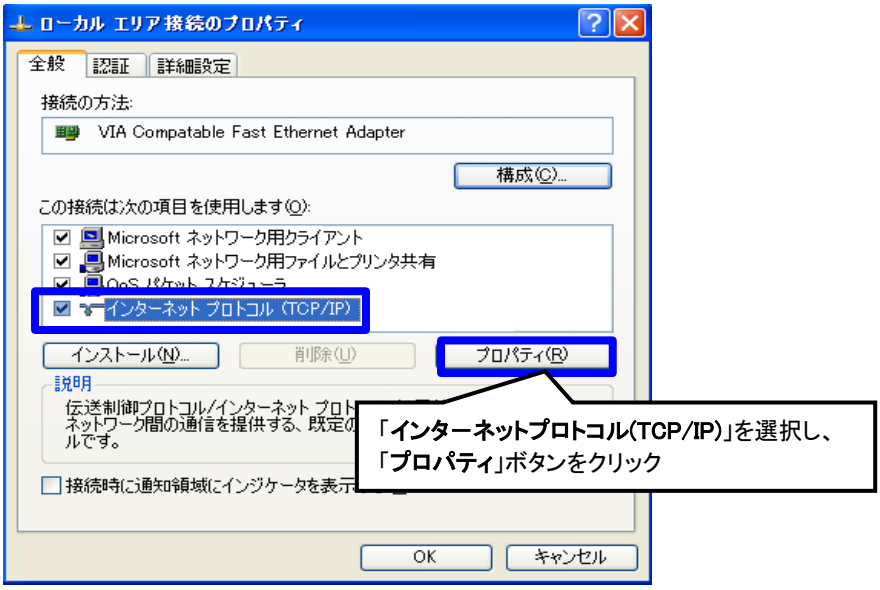
手順2.「ネットワーク接続」をダブルクリックします。

（手順4）.へお進みください。

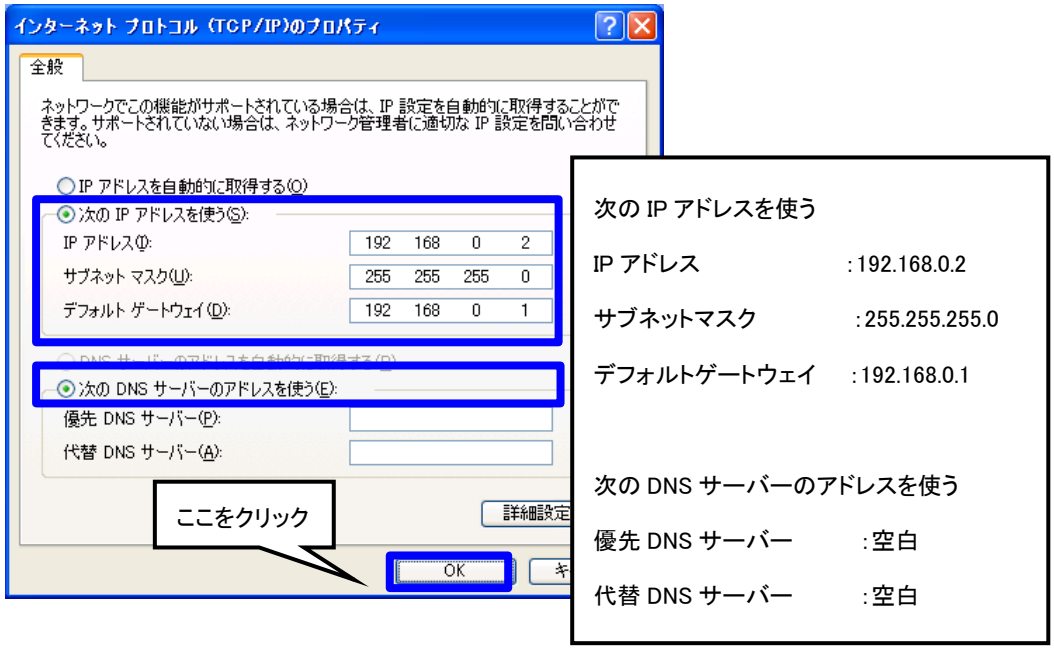
手順4.「ローカルエリア接続」を右クリックして「プロパティ」をクリックします。



手順5.「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し「プロパティ」ボタンをクリックします。



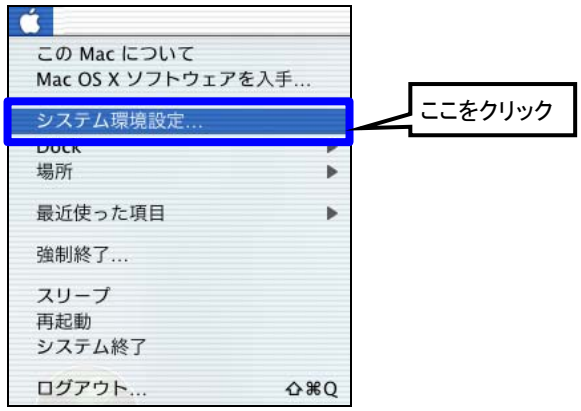
手順6. 以下の設定に変更の上、「OK」ボタンで保存してください。



設定が終わりましたら 110 ページの「(2)IP 電話機能付き ADSL モデム設定をブリッジモードに変更」へお進みください。

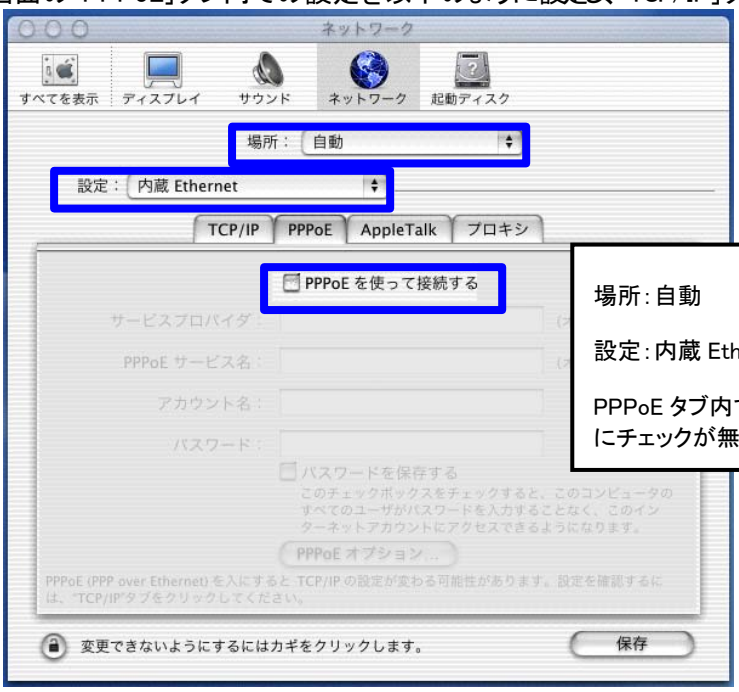
Macintosh OS Xの場合

手順1. アップルメニューより「システム環境設定」をクリックします。



手順2. システム環境設定の中より、「ネットワーク」をクリックします。

手順3.「ネットワーク」画面の「PPPoE」タブ内での設定を以下のように設定し、「TCP/IP」タブを選択します。

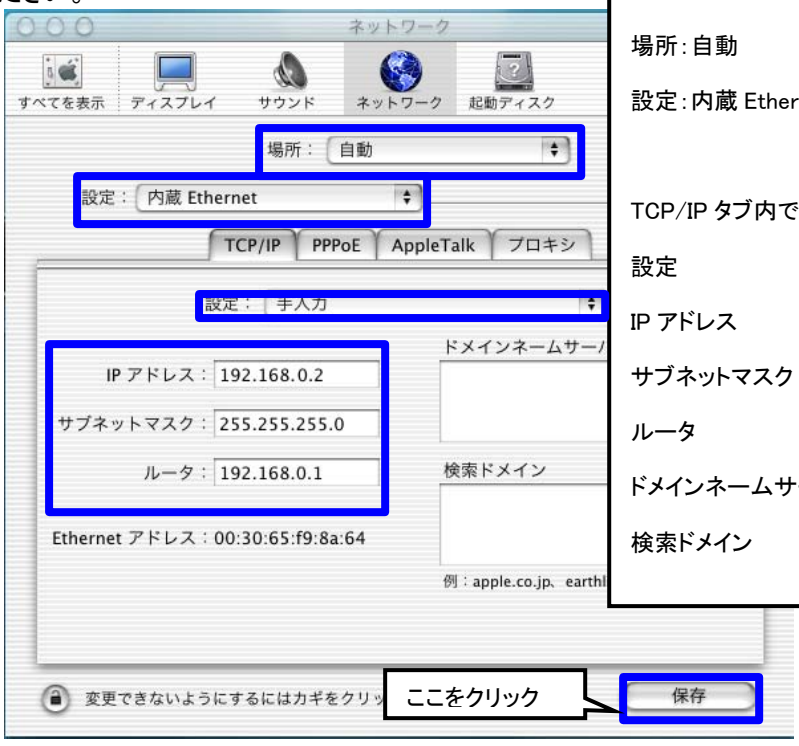


場所：自動

設定：内蔵 Ethernet

PPPoE タブ内で「PPPoE を使って接続する」にチェックが無いことを確認

手順4.「ネットワーク」の画面の「TCP/IP」タブ内の設定を以下のように設定し、「保存」ボタンをクリックして設定を保存してください。



場所：自動

設定：内蔵 Ethernet

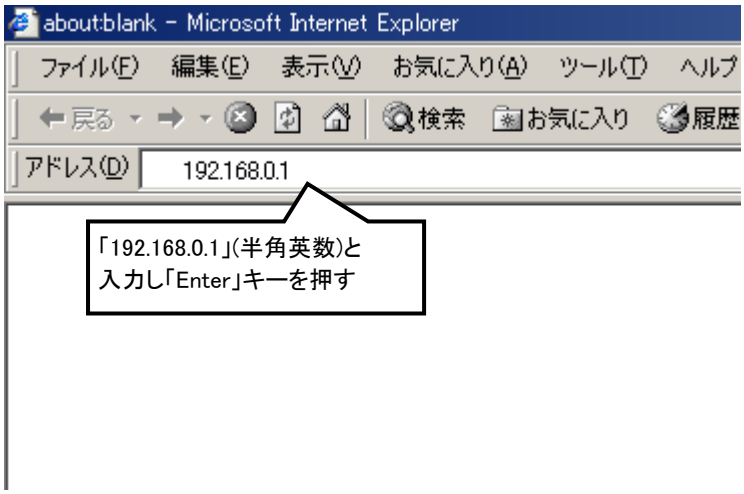
TCP/IP タブ内で

設定	：手入力
IP アドレス	：192.168.0.2
サブネットマスク	：255.255.255.0
ルータ	：192.168.0.1
ドメインネームサーバ	：空白
検索ドメイン	：空白

設定が終わりましたら 110 ページの「(2)IP 電話機能付き ADSL モデム設定をブリッジモードに変更」へお進みください。

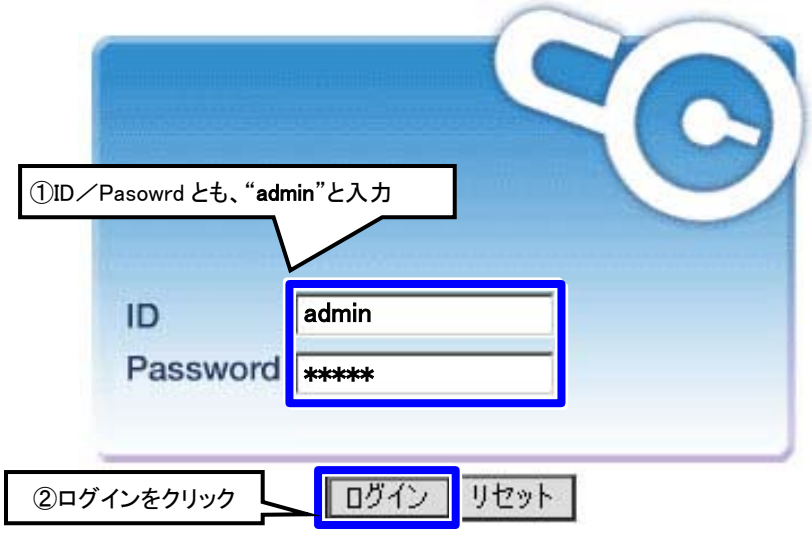
(2). IP 電話機能付き ADSL モデムの設定をブリッジモードに変更

手順1. Web ブラウザを起動し、アドレスバーに「192.168.0.1」(半角英数)と入力し、「Enter」キーを押してください。



⚠ 注意　プロキシサーバを使用してインターネットに接続している場合は、上記画面が表示されません。ブラウザの設定を『プロキシサーバを使用しない』に変更してください。(詳細は 16 ページを参照してください。)

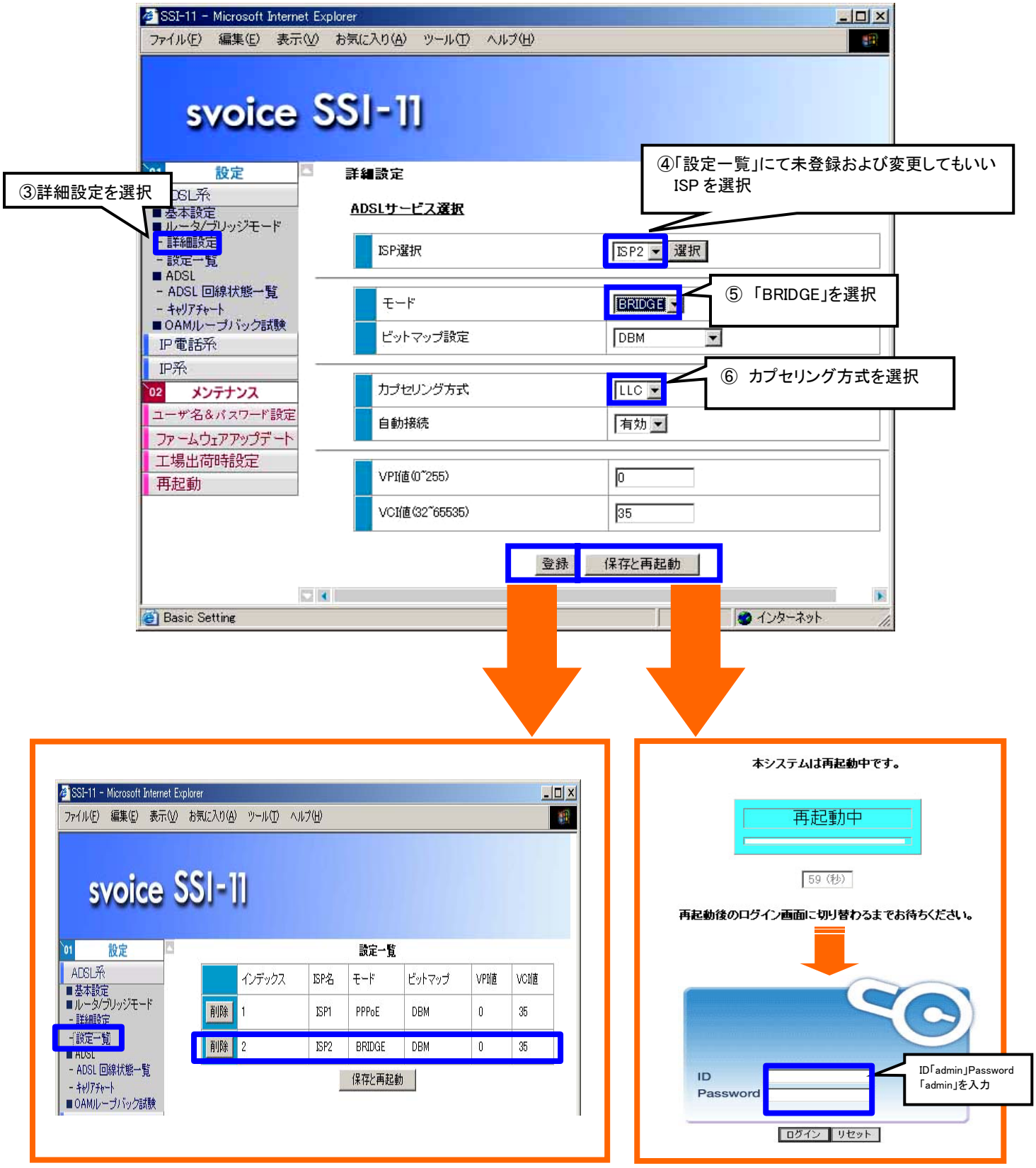
手順2. 『ID』を“admin”、『Password』も“admin”と入力してログインボタンをクリックしてください。



手順3. Web 管理画面にログインし、管理画面左側の操作メニューにある 「ADSL 系」フォルダを開き、「設定一覧」を選択します。

手順4. 設定一覧の「ISP 名」で使用されていない ISP を確認します。
ISP 名は 8 つまで登録可能です。

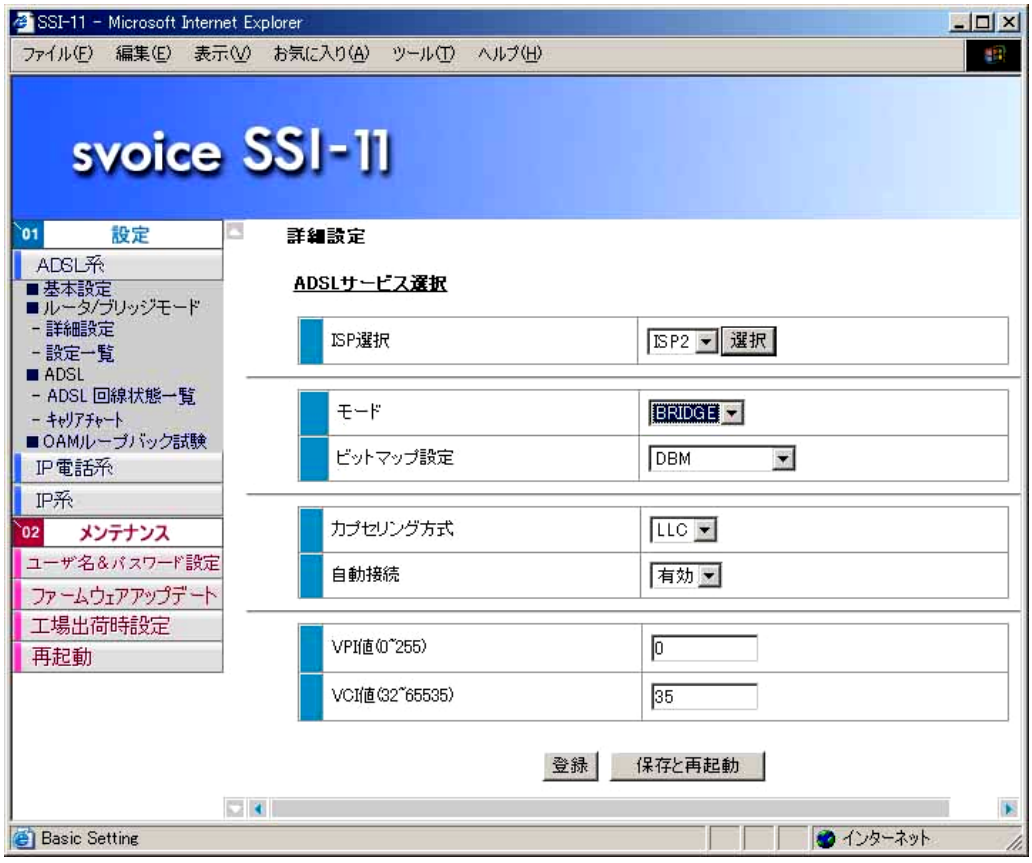
手順5. 詳細設定の画面に移ります。



手順6. 項目を入力後「保存と再起動」ボタンを選択し、保存および再起動を行います。
再起動後ログイン画面が表示され、ADSLランプが点灯されればブリッジモードの設定は完了です。

HOT!! 現在使用中 ISP の登録の変更を行うと下記のようなメッセージが表示され設定の変更はできません。

手順7. 下記画面がブリッジモードの詳細設定画面です。

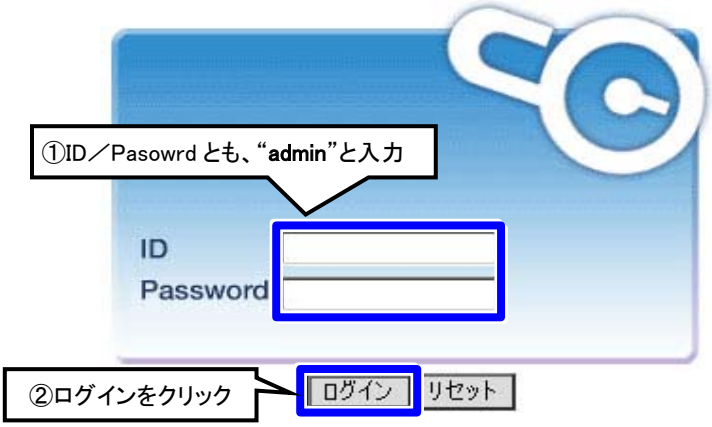


以上で本装置をブリッジに設定変更する手順は終了です。
Windows®XP や Mac OS X を使って PPPoE クライアントを設定される方は、「9-2.OS 別の PPPoE クライアント設定」(108 ページ)へお進みください。
ブロードバンドルータを使って接続される方は、付属のマニュアルを参照してブロードバンドルータの設定を行ってください。

(3). IP 電話機能付き ADSL モデムの設定をルータモードに戻す方法

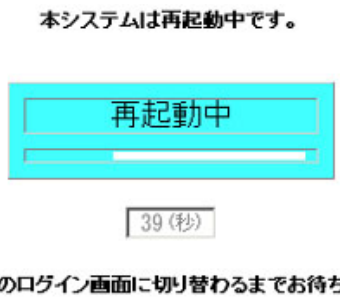
本装置の設定をブリッジモードに変更された後で、ルータモードに戻すことが必要になった場合は、以下の手順で本装置の設定を変更してください。

① パソコンの IP アドレスを手動で設定します。
「第 9 章　9-1(1).パソコンのネットワーク設定のご準備」(97 ページ)を参照して設定してください。
② Web ブラウザを起動し、アドレスバーに 192.168.0.1　(半角英数)を入力し「Enter」キーを押してください。
③ ID /Password に”admin”と入力して OK をクリックしてください。



④ ログイン後『ADSL 系』フォルダの『基本設定』をクリックします。モード選択で「PPPoE」を選択し「保存と再起動」ボタンをクリックします。自動的に再起動を行います。

⑤ 再起動を行います。



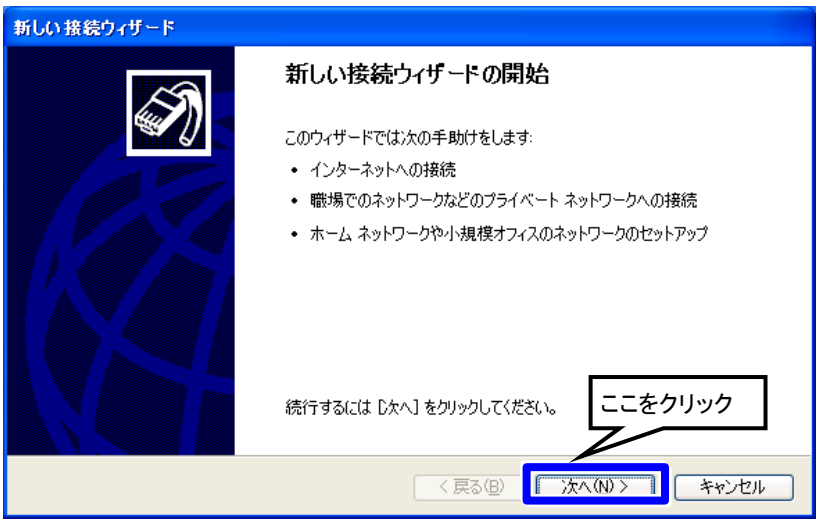
⑥ PPP ランプが点灯したのを確認し、ログイン画面にて ID：admin/ Password：admin を入力し、Web 管理画面に入ります。

⑦ ADSL 系「基本設定」をクリックすると下記の画面に戻ります。

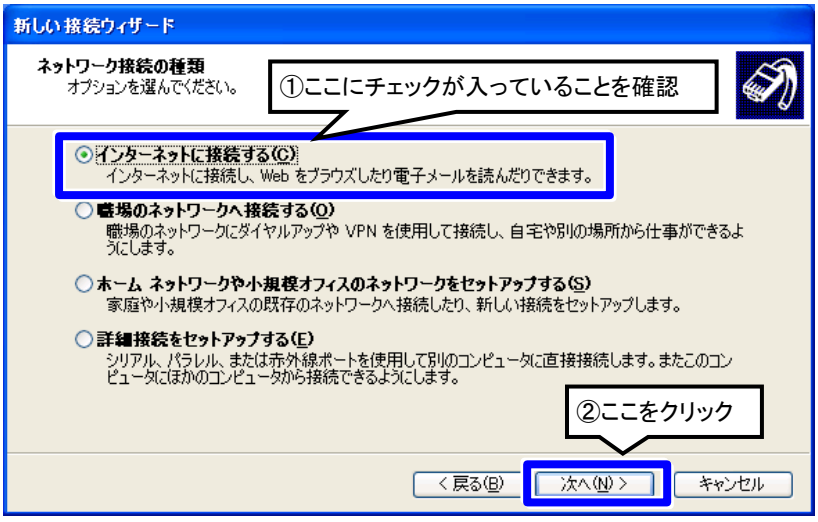
10-2. OS 別の PPPoE クライアントの設定

Windows® XP の場合

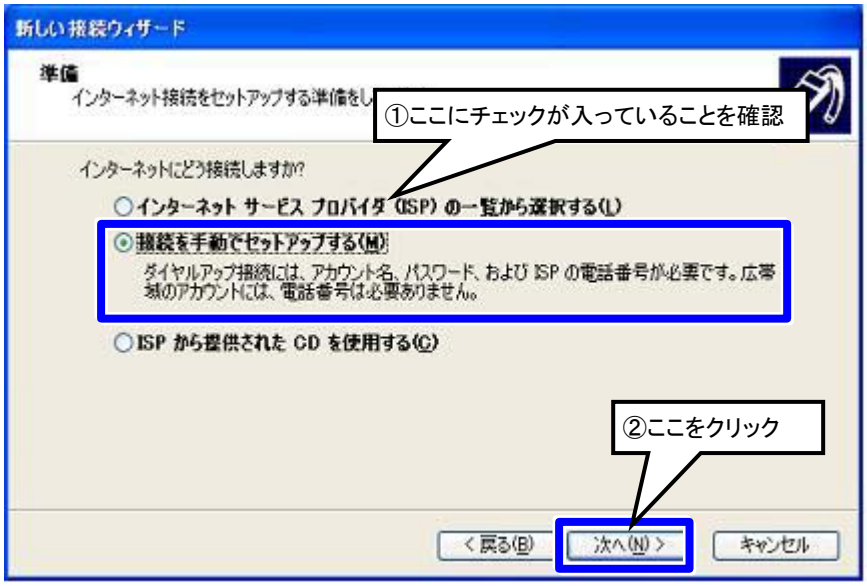
手順1. スタートメニューより「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「新しい接続ウィザード」を選択します。以下の画面が表示されますので、「次へ」のボタンをクリックします。



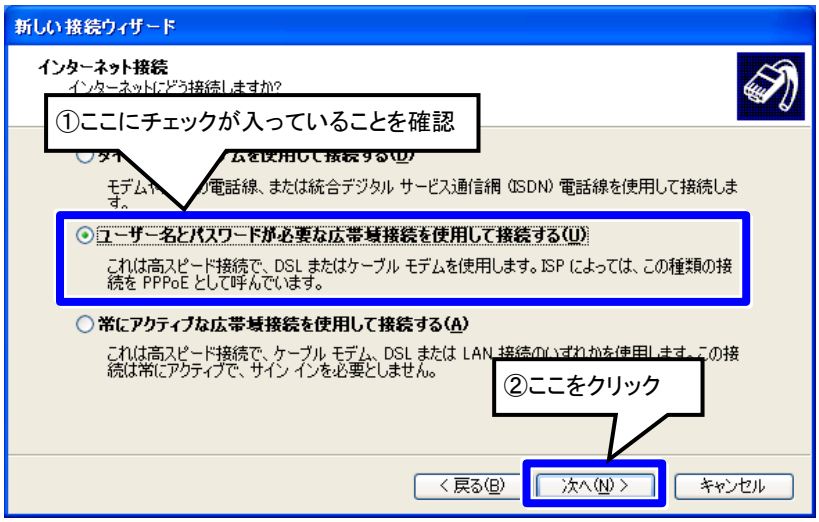
手順2. 下の画面が表示されます。「インターネットに接続する」の個所にチェックボックスが入っていることを確認して「次へ」をクリックします。



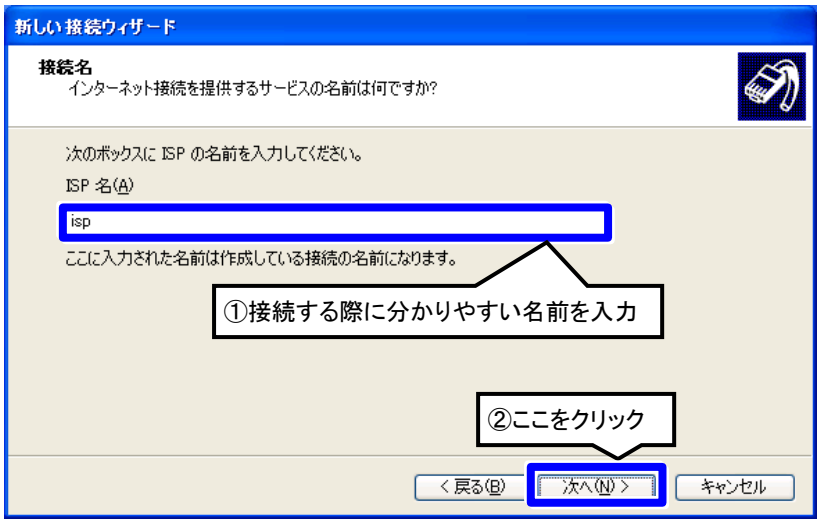
手順3.「接続を手動でセットアップする」の個所にチェックボックスが入っていることを確認して、「次へ」のボタンをクリックします。



手順4.「ユーザー名とパスワードが必要な広帯域接続を使用して接続する」の個所にチェックが入っていることを確認して、「次へ」のボタンをクリックします。

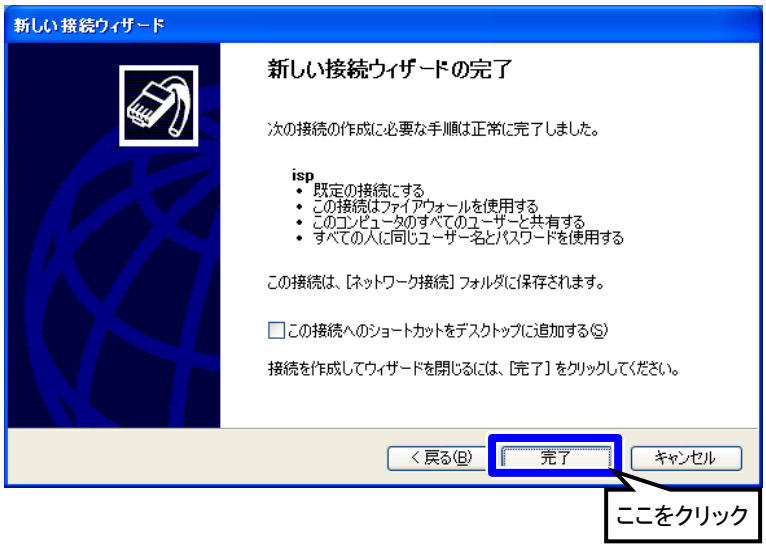


手順5. 「ISP 名」のボックスに接続する際に分かりやすい名前を付けて、「次へ」のボタンをクリックしてください。



手順6. 以下の画面が表示されたら、プロバイダより指定された「ユーザー名」「パスワード」(確認入力も)を入力して、「次へ」のボタンをクリックしてください。

手順7. 以上で接続ウィザードの完了です。「完了」ボタンをクリックしてください。



手順8. 次に通常の設定で先ほど作成した、ネットワーク接続を使用するための設定を行います。
スタートメニューより「コントロールパネル」をクリックします。

※ クラシック[スタート]メニュー（以前バージョンのWindows®のメニュースタイル）にしている場合は、スタートメニューより「設定」→「コントロールパネル」をクリックします。

＜カテゴリ表示の場合＞

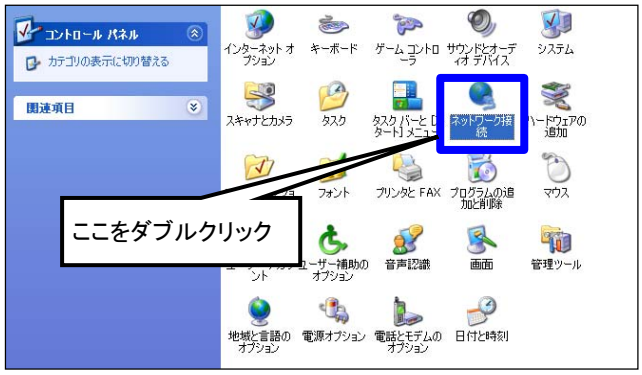
手順9.「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。

手順10.「インターネットオプション」をクリックします。

（手順11）.へお進みください。

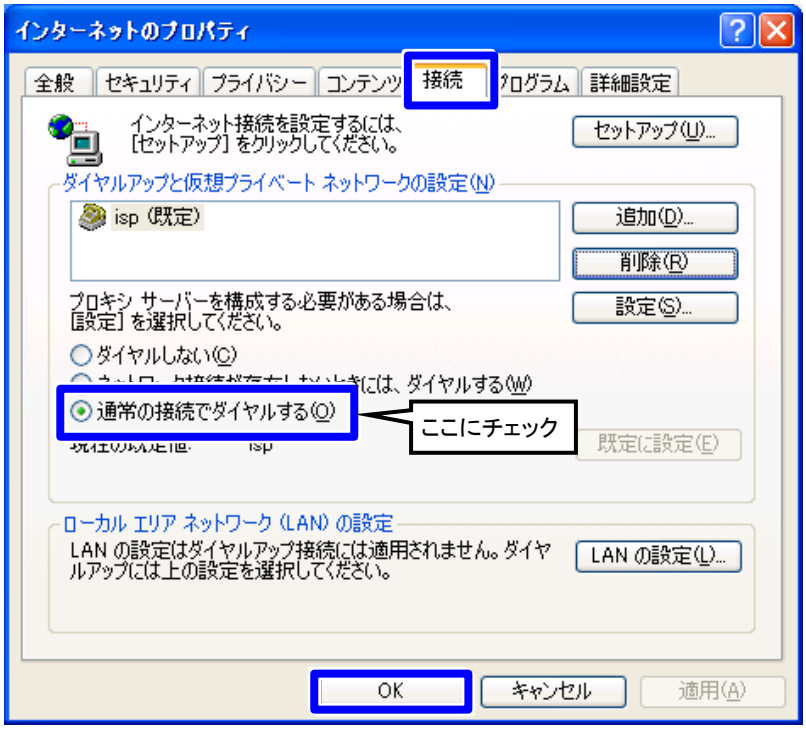
＜クラシック表示の場合＞

手順9.「インターネットオプション」をクリックします。



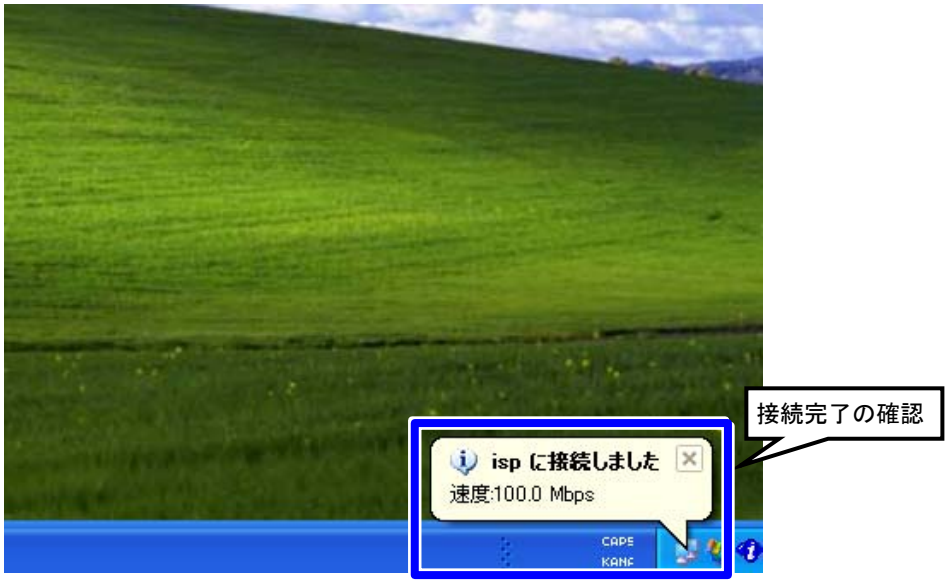
（手順11）.へお進みください。

手順11. 下のようにインターネットプロパティ画面が表示されます。「接続」タブの開き、先ほど設定した接続名があることを確認して、「通常の接続でダイヤルする」にチェックを入れて「適用」ボタンをクリックし、「OK」ボタンで終了してください。



手順12. Internet Explorer を起動すると、ダイヤルアップ接続画面が表示されますので「接続」ボタンをクリックします。

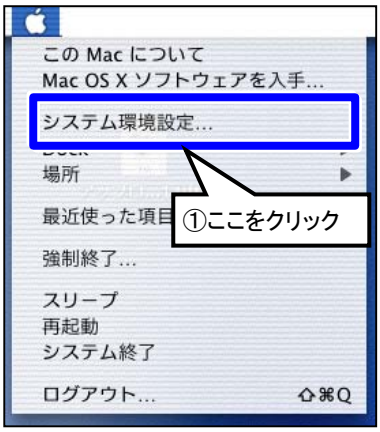
手順13. 接続が完了するとデスクトップの画面右下に下のような表示がされます。



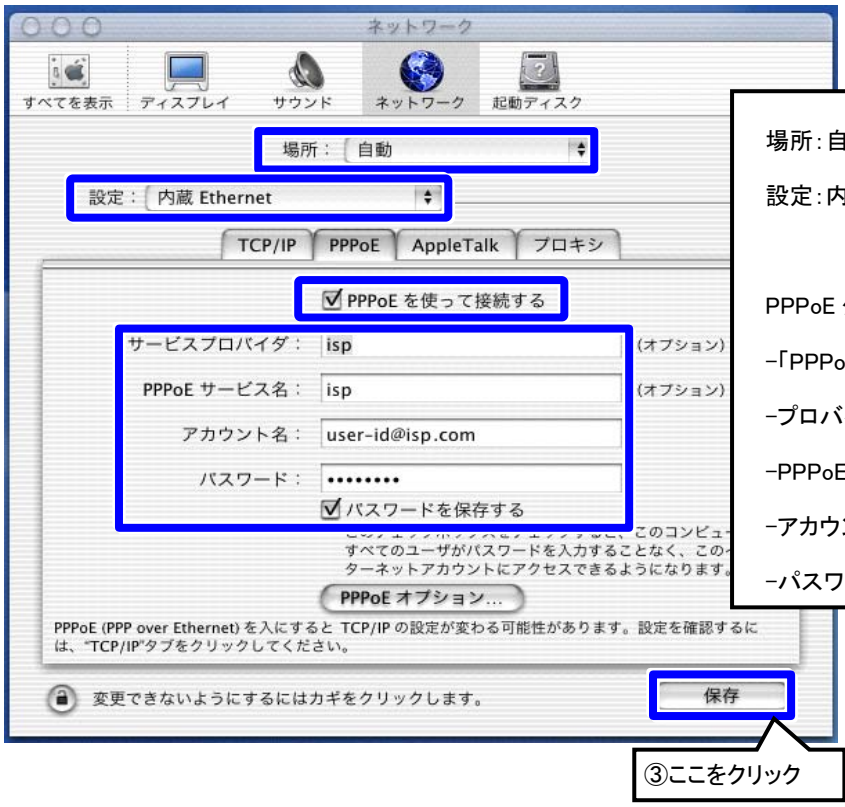
※メッセージ中の速度の表示は本装置とパソコンとの間の通信速度を表示しています。 お客様宅 ⇔ プロバイダ間の通信速度とは異なります。

Macintosh OS Xの場合

手順1. アップルメニューから「システム環境設定」→「ネットワーク」を選択してください。



手順2. 下のように設定を変更してください。設定変更が終了したら、「保存」ボタンをクリックし設定を保存します。



場所：自動

設定：内蔵 Ethernet

PPPoE タブ内で

-「PPPoE を使って接続する」をチェックする

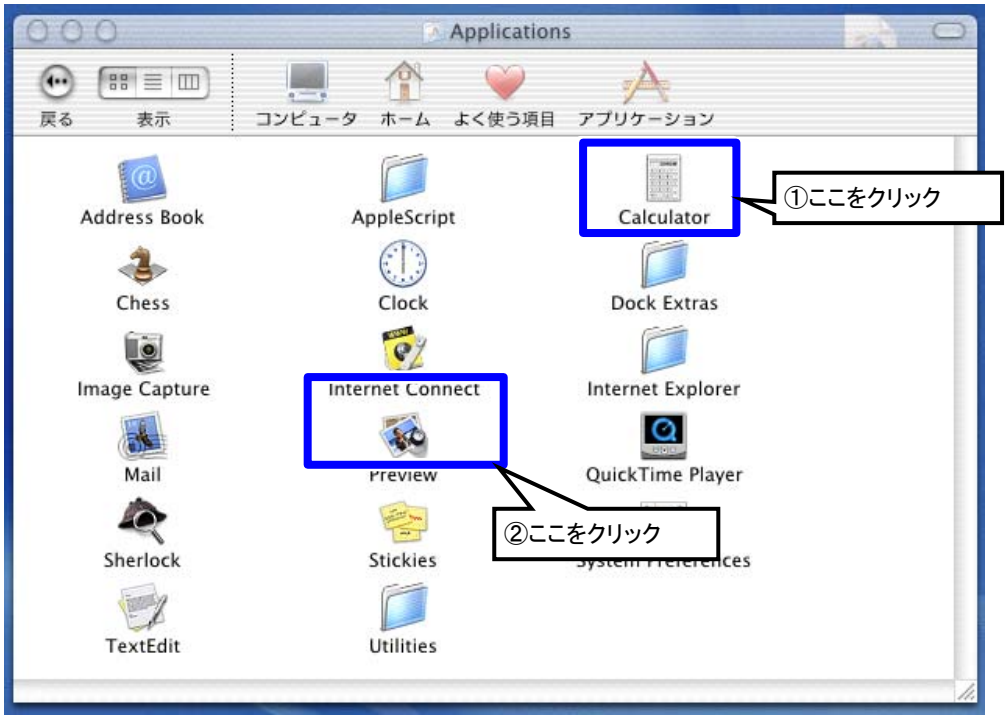
-プロバイダ：プロバイダ名が分かるような名前を入力

-PPPoE サービス名：分かりやすい名前を入力

-アカウント名：プロバイダより指定されたアカウントを入力

-パスワード：プロバイダより指定されたパスワードを入力

手順3. 「Finder」を起動させ、「アプリケーション」を開くと以下の画面が表示されます。
「Internet Connect」をクリックしてください。



手順4. ドロップダウンメニューの「設 定 」において、先ほど設定を行った「内蔵 Ethernet」を選択してください。その後、「接続」で Internet に接続可能となります。

手順5. 接続が完了すると以下のように「接続先の IP アドレス」「取得した IP アドレス」等が表示されます。

10-3. ブリッジモードに関するトラブルシューティング

- **ブリッジモードに設定して再起動したところ本装置にログインできません。(10-3-1)**

パソコンの TCP/IP を手動設定で行いましたか？

ブリッジモードでは、DHCP サーバ機能が無効になっているため本装置よりパソコンは自動的には IP アドレスを割り当てられません。そのため、「ページを表示できません」等の表示になり本装置の Web 管理画面にログインすることができません。「10-1.(1)パソコンのネットワーク設定のご準備」(105ページ)を参照して、再度パソコンの設定を確認してください。

- **Windows® XP や Macintosh OS X 以外の OS で PPPoE クライアントを使用したいのですが。(10-3-2)**

ご使用のパソコンに別途 PPPoE クライアントソフトをインストールすることで Windows® XP や Macintosh OS X 以外の OS で PPPoE クライアントを使用することは可能です。
Windows® XP や Macintosh OS X 以外の OS(オペレーティングシステム)では PPPoE のクライアント機能がありません。PPPoE クライントソフトを別途インストールし、本装置をブリッジモードにしてインターネットに接続可能となります。
PPPoE クライアントソフトのご用意とインストールについては、お客様ご自身の責任において行ってください。

- **ブロードバントルータを使いたいのですが(10-3-3)**

アッカで推奨するブロードバンドルータはありますか？

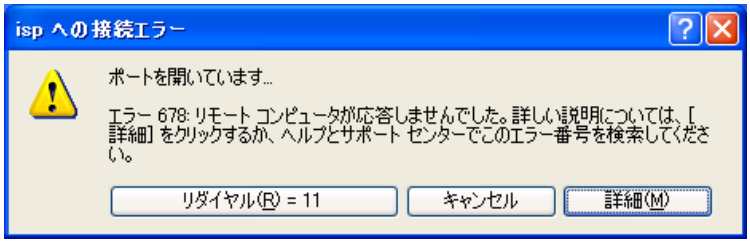
弊社推奨のブロードバンドルータについては、今後アッカのホームページ(www.acca.ne.jp)にて掲載していく予定です。

- **インターネットに接続しているように見えるのですがつながりません。(10-3-4)**

Windows® XP をご使用になっていませんか？

Windows® XP では PPP セッションの切断を検出するまでに10 分程度かかる場合があります。このような場合は、もう一度ダイヤルアップ接続画面を開き、手動で「切断」→「接続」のボタンをクリックすることで、再接続可能となります。

- **ダイヤルアップ接続時に以下のようなメッセージが出ます。(10-3-5)**



本装置に2台以上のパソコンを接続しようとしていませんか？

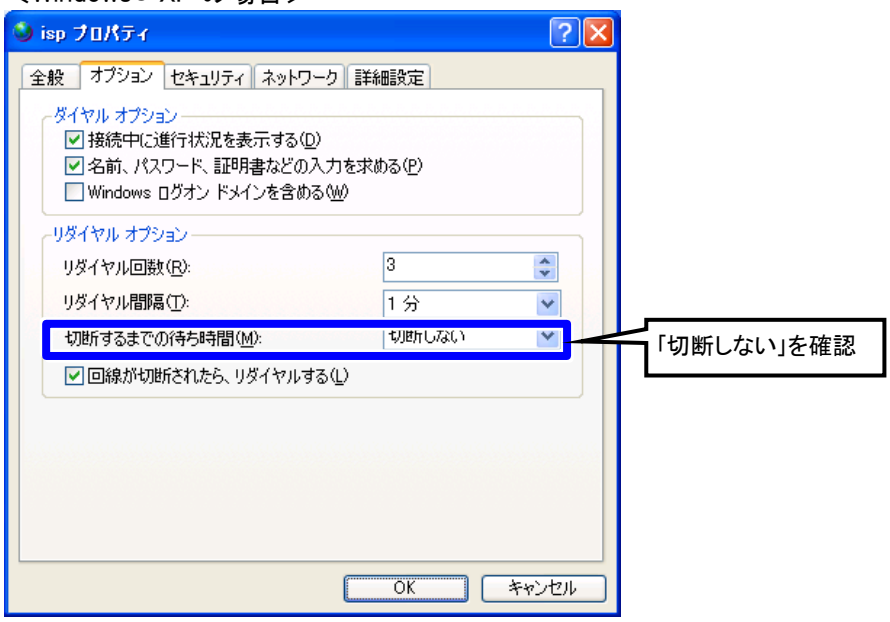
本装置をブリッジモードにし、本装置に HUB を使用して複数台のパソコンを接続した場合でも、インターネットに接続できるパソコンの台数は1台のみとなります。ルータ設定においては、複数台接続されていても本装置自身がグローバル IP アドレスを割り当てられるため、そのアドレスを複数台で共有することでインターネットに接続可能となります。
しかし、ブリッジモードでは、パソコン自身にグローバル IP アドレスが割り当てられるため、2台目以降のパソコン(グローバル IP アドレスを取得していない)はインターネットに接続できません。そのため、次のようなエラーメッセージが出ます。

- **接続はできますが、すぐに切断されます。(10-3-6)**

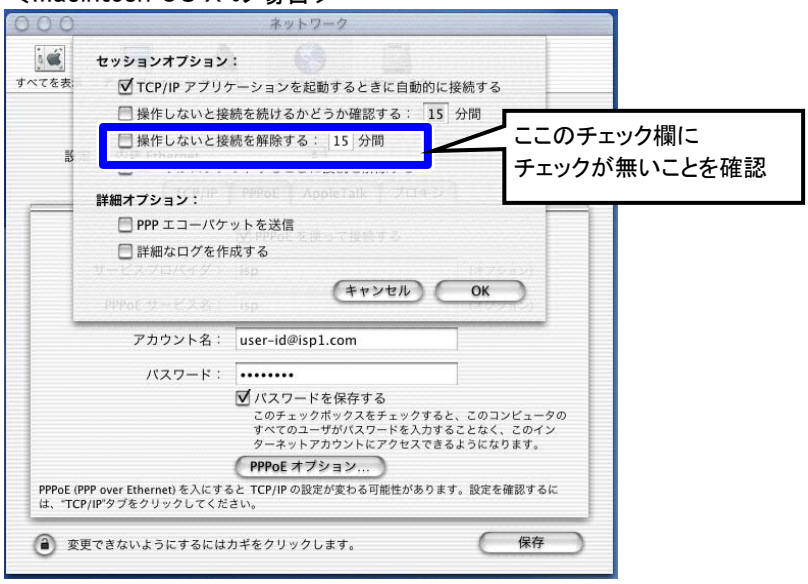
接続オプションで通信がないときの切断タイマーが設定されていませんか？

接続のオプションで、ある一定の時間内無通信状態であれば自動的に切断処理される機能があります。お客様ご自身の設定で、下の個所を確認してください。

＜Windows® XP の場合＞



＜Macintosh OS X の場合＞



IP 電話機能付き ADSL モデム SSI-11　取扱説明書

平成　15 年 11 月　第 2 版発行

SAMSUNG　CORPORATION

※本マニュアルに記載されている社名、製品名、ブランド名は
すべて各社の登録商標になります。